

クラス		受験番号	
出席番号		氏名	

2014年度 第1回 全統記述模試  
学習の手引き【解答・解説集】  
**国語・地理歴史・公民**

【2014年5月実施】

●地理歴史

世界史B	.....	1
日本史B	.....	14
地理B	.....	22

●公 民

政治・経済	.....	37
倫 理	.....	48

●国 語

※英語冊子巻末に「自己採点シート」と「学力アップ・志望校合格のための復習法」を掲載していますので、志望校合格へむけた効果的な復習のためにご活用ください。

**河合塾**



1461210119502050



# 【地理歴史】

## 世界史B

### ① 古代の東地中海世界

#### 【解答】

- |   |                    |
|---|--------------------|
| 1 | バビロン第1王朝（古バビロニア王国） |
| 2 | クレタ                |
| 3 | ヒクソス               |
| 4 | アラム                |
| 5 | ダヴィデ               |
| 6 | ニネヴェ               |
| 7 | ダレイオス1世            |
| 8 | ヘイロータイ（ヘロット）       |
- 問1 ②  
 問2 ④  
 問3 カデシュの戦い  
 問4 カルタゴ  
 問5 ネブカドネザル2世  
 問6 ②  
 問7 パルバロイ  
 問8 ①  
 問9 ヘロドトス

#### 【配点】 (26点)

1 ~ 8

各1点×8

問1~問9

各2点×9

#### 【出題のねらい】

本問は、諸民族の移動を軸に、古代の東地中海世界

を出題した。Aでは、前2千年紀前半のインド＝ヨーロッパ系などの諸民族の移動とその影響を扱った。Bでは、前2千年紀後半の「海の民」の移動とその影響を扱った。Cでは、アッシリアからアケメネス朝の時代にいたるオリエント世界と、ポリス成立からペルシア戦争までのギリシア世界を、各々扱った。

#### 【設問別解説】

1 正解はバビロン第1王朝（古バビロニア王国）。バビロン第1王朝は、メソポタミアに侵入したセム系アムル人が、前19世紀頃にバビロンを都に建てた王朝である。この王朝のハンムラビ王（前18世紀）は、全メソポタミアを支配し、シェメール法を集成したハンムラビ法典を発布した。この法典は、刑法・民法・商法など多方面の内容を持っていた。とくに刑法の分野には、「目には目を」の同害復讐の原則がとられたが、身分によって刑罰に差があることが特色であった。

2 正解はクレタ。クレタ文明は、エーゲ文明の初期におこり、クレタ島を中心にして海上交易で栄えた青銅器文明で、伝説上のミノス王にちなんでミノス文明とも呼ばれた。

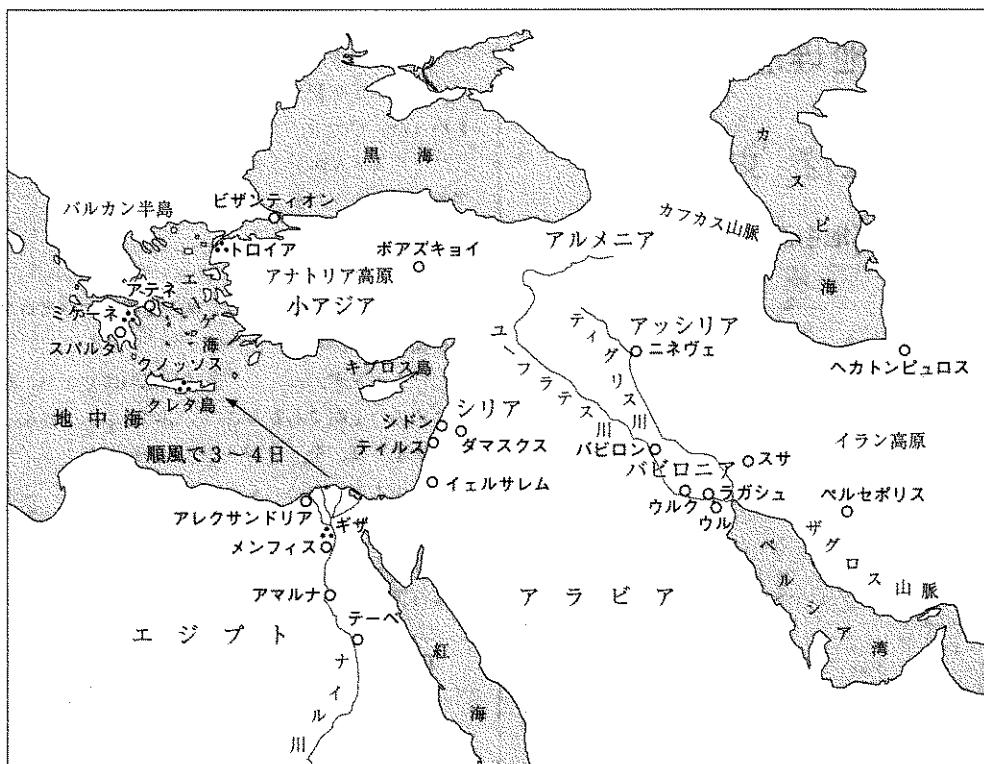
3 正解はヒクソス。遊牧民のヒクソスは、中王国の衰退期に馬と戦車とともにアフリカ方面からエジプトに移動し、中王国末期の混乱のなかでナイル川下流域を約1世紀の間支配した。その後、ヒクソスをエジプトから駆逐し、新王国が繁栄する。

4 正解はアラム。セム系遊牧民のアラム人は、ダマスクスを中心に内陸貿易に従事した。彼らの言語であるアラム語は国際商業語となり、アラム文字は、後にアッシリアやペルシアでも使用され、中央アジアの諸文字の形成にも影響を与えた。

5 正解はダヴィデ。ダヴィデは、ヘブライ

	クレタ文明	ミケーネ文明
時期	前20C頃～前15C頃	前16C頃～前12C頃
発掘者	エヴァンズ（英）	シュリーマン（独）
中心地	クレタ島のクノッソス	ギリシア本土のミケーネ・ティリンス・ピュロス
民族	不明	ギリシア人（アカイア人）
特色	城壁が存在しない、写実的・海洋的文化、青銅器文明	小王国の分立、貢納王政、青銅器文明
文字	クレタ絵文字・線文字A：未解読	線文字B：ヴェントリス（英）が解読
滅亡	ミケーネ文明のギリシア人により滅亡	複数の要因（「海の民」の攻撃やドーリア人の南下、気候変動など）

〈クレタ文明・ミケーネ文明〉



〈古代オリエント世界〉

王国第2代の王で、都をイエルサレムとし、つづくソロモン王とともに王国の最盛期を現出した。なお、ヘブライ人の王国はソロモン王の死後、北のイスラエル王国と南のユダ王国に分裂した。その後、イスラエル王国は、前8世紀後半にアッシャリアにより滅ぼされた。一方、ユダ王国は、前6世紀前半に新バビロニア王国のネブカドネザル2世によって滅ぼされた。

**6** 正解はニネヴェ。ニネヴェはティグリス川中流域の都市で、前8世紀頃にアッシャリアの都となった。また、ニネヴェはアッシュル＝バニバル王（前7世紀）の時代に大図書館が建設されたことでも知られている。19世紀にアッシュル＝バニバル王の宮殿跡から発掘された粘土板文書はアッシャリア学の基礎となった。

**7** 正解はダレイオス1世。「諸王の王」と称したアケメネス朝のダレイオス1世（位前522～前486）は、新都ペルセポリスを建設し、帝国を約20の州に分け、サトラップ（知事・総督）を置いて統治させた。また「王の道」と呼ばれる国道を整備し、駅伝制を設けて、中央から「王の目」・「王の耳」と呼ばれる巡察官を派遣してサトラップの監視や情報の収集にあたらせた。

**8** 正解はヘイロータイ（ヘロット）。スパルタは、ペロポネソス半島南部のラコニア地方を支配下に置いたが、その過程で被征服民をヘイロータイの身分として農業に従事させた。スパルタは、圧倒的に人口が多いヘイロータイの反乱を防止するために、リュクルゴスの制と呼ばれる厳しい社会体制を軸とする国制を確立した。その体制では、スパルタ市民に貧富の差を生み出す土地の分割・譲渡、商工業への従事、金銀貨幣の使用を禁止し、また他国からの影響を恐れて鎖国体制をとった。さらに、重装歩兵となる市民に少年時代から厳しい訓練を課すなど軍国主義体制がとられた。

問1 正解は②。ドイツのシュリーマンは、ホメロスの叙事詩に描かれたトロイア戦争を史実と信じて、19世紀後半にトロイアやミケーネなどの遺跡を発掘し、トロイア文明・ミケーネ文明の存在を証明した。①クノッソス宮殿は、ミケーネではなくクレタ島北岸のクノッソスに建てられた宮殿で、クレタ文明を代表する遺跡である。クノッソス宮殿跡は、イギリスの考古学者エヴァンズが発掘した（クレタ文明に関しては、**2** の解説を参照）。③ミケーネ文明で用いられた線文字Bはイギリス人ウェントリスによって解読されている。④日干しレンガを用



〈古代エジプト〉

いた建造物や、占星術・六十進法などは、メソポタミア文明の特徴である。

問2 正解は④。テーベは、ナイル川中流域の都市で、現在のルクソールである。テーベは、エジプト中王国・新王国の都であった。なお、地図中の①はアレクサンドリア、②はメンフィス、③は（テル＝エル＝）アマルナである。

問3 正解はカデシュの戦い。前13世紀、エジプト新王国のラメス2世は、シリアに進出したヒッタイトとカデシュで戦った（カデシュの位置は、上の地図を参照）。その後、ラメス2世はヒッタイトと和約（カデシュの和約）を結び、ヒッタイトの王女と結婚した。

問4 正解はカルタゴ。カルタゴは、前9世紀頃ティルスがアフリカ北岸に建設した植民市であった。カルタゴは、西地中海交易圏の霸権を握ったが、その後、ローマとの間に前3世紀から前2世紀にかけて3回にわたるポエニ戦争を展開し、前146年にローマの小スキピオにより滅ぼされた。

問5 正解はネブカドネザル2世。問題文の「カルデア人の王国」とは、新バビロニア（カルデア）王国である。新バビロニア王国は、メディア王国と連合してアッシャリヤを滅ぼした。最盛期の王であるネブカドネザル2世は、ユダ王国を滅ぼしてヘブライ人に対するバビロン捕囚（前586～前538）を行った。ヘブライ人は、約50年後アケメネス朝を創始したキ

ュロス2世により解放され帰国すると、イエルサレムにヤハウェの神殿を再興し、ユダヤ教を確立した。

問6 正解は②。アナトリアのリディア王国はインドヨーロッパ系で、世界最古の鋳造貨幣を使用したとされる。その後、鋳造貨幣はギリシアに伝わり貨幣経済の発達を促した。①ハンムラビ王はエジプト王国ではなくバビロン第1王朝の王である（1の解説を参照）。③マニ教は後3世紀に成立した宗教であるため、紀元前の新バビロニア王国で国教となることはない（新バビロニア王国に関しては、問5の解説を参照）。④ペルセポリスはアケメネス朝のダレイオス1世（7の解説を参照）が造営を開始した王都である。メディア王国はアッシャリヤ滅亡後、4王国分立の時代にイラン高原を支配した王国であり、アケメネス朝は、このメディアを倒して成立した。

問7 正解はバルバロイ。バルバロイは、古代ギリシア人が異民族に対して軽蔑して用いた呼称であった。もともとは「わけのわからない言葉を話す人々」の意味であったが、ギリシア人の同一民族意識が高まると「野蛮な民族」という軽蔑的な意味にかわった。

問8 正解は①。ソロンは前6世紀初めに貴族と平民の調停者として、負債を帳消しにして市民の奴隸化を禁止した。また、財産に応じて市民に参政権と軍務を定めた財産政治を行った。②負債を帳消しにし、市民が奴隸になることを禁止したのは、クレイステネスではなくソロンである。③血縁的4部族制を改め、地域単位の10部族制を新設したのは、ドラコンではなくクレイステネスである（前6世紀末）。ドラコンは、前7世紀後半に慣習法を成文化した立法者である。④僭主の出現を防止するため陶片追放の制度をつくったのは、ペイシストラトスではなくクレイステネスである。ペイシストラトスは、前6世紀半ばに僭主政治を確立し、没収した貴族の土地を貧民に再分配し、商工業や文化を保護した。

問9 正解はヘロドトス。ヘロドトスは、物語的な歴史記述の『歴史（ペルシア戦争史）』を著し、「歴史の父」と呼ばれた。なお、ペロポネソス戦争について、その史料を批判的に考察して記述した『歴史（ペロポネソス戦争史）』を著したトゥキディスは、「科学的歴史叙述の祖」と呼ばれた。

## ② 洛陽と長安の歴史

### 【解答】

- |   |     |
|---|-----|
| 1 | 五銖錢 |
| 2 | 班固  |
| 3 | 黃巾  |
| 4 | 平城  |
| 5 | 項羽  |
| 6 | 高宗  |
| 7 | 門下省 |
| 8 | 渤海  |
- 問1 商鞅  
問2 ②  
問3 ①  
問4 ④  
問5 高句麗  
問6 景教  
問7 (i) 玄宗  
(ii) モンゴル高原のウイグルは、安史の乱で唐を援助して乱の鎮圧に貢献し、チベット高原の吐蕃は、唐の混乱に乗じて長安に侵入した。(60字)

### 【配点】 (24点)

- |                     |           |
|---------------------|-----------|
| 1 ~ 8               | 各 1 点 × 8 |
| 問1 ~ 問6             | 各 2 点 × 6 |
| 問7                  | 各 2 点 × 2 |
| 問7 (ii) (答案作成のポイント) |           |
| ① モンゴル高原のウイグルは唐を援助  |           |
| ② チベット高原の吐蕃は長安に侵入   |           |

### 【出題のねらい】

本問では、洛陽と長安が中国歴代王朝の都となったことに注目し、都市の盛衰から歴史を観察する視点で、各王朝の政治・経済・社会・文化について幅広く出題した。

### 【設問別解説】

- 1 正解は五銖錢。五銖錢は前漢の武帝（位前141～前87）のときに鋳造が始まった青銅貨幣で、私鑄（民間での貨幣鋳造）による貨幣価値の下落と物価騰貴を克服するために鋳造され、唐の開元通宝まで中国諸王朝で長く流通する貨幣となった。

- 2 正解は班固。班固は後漢の歴史家で、西域都護として活躍した班超の兄である。班固の著し

た『漢書』は、前漢の高祖から新の王莽までの歴史書で、紀伝体で記述され、後の正史の模範とされた。司馬遷の『史記』と並ぶ二大歴史書とされる。また、『漢書』の地理志に前1世紀頃の倭（日本）についての記述がある。

3 正解は黃巾。黃巾の乱は後漢末の184年におこった農民反乱で、太平道の教祖張角が指導し、悪政と天災に苦しむ貧窮農民が黄色の頭巾をつけて参加し、華北一帯に波及した。政府は地方豪族の協力を得て中心勢力を鎮圧したが、呼応した諸反乱が各地で相次ぎ、この反乱を契機に各地に豪族が自立したため後漢の衰退は決定的になった。

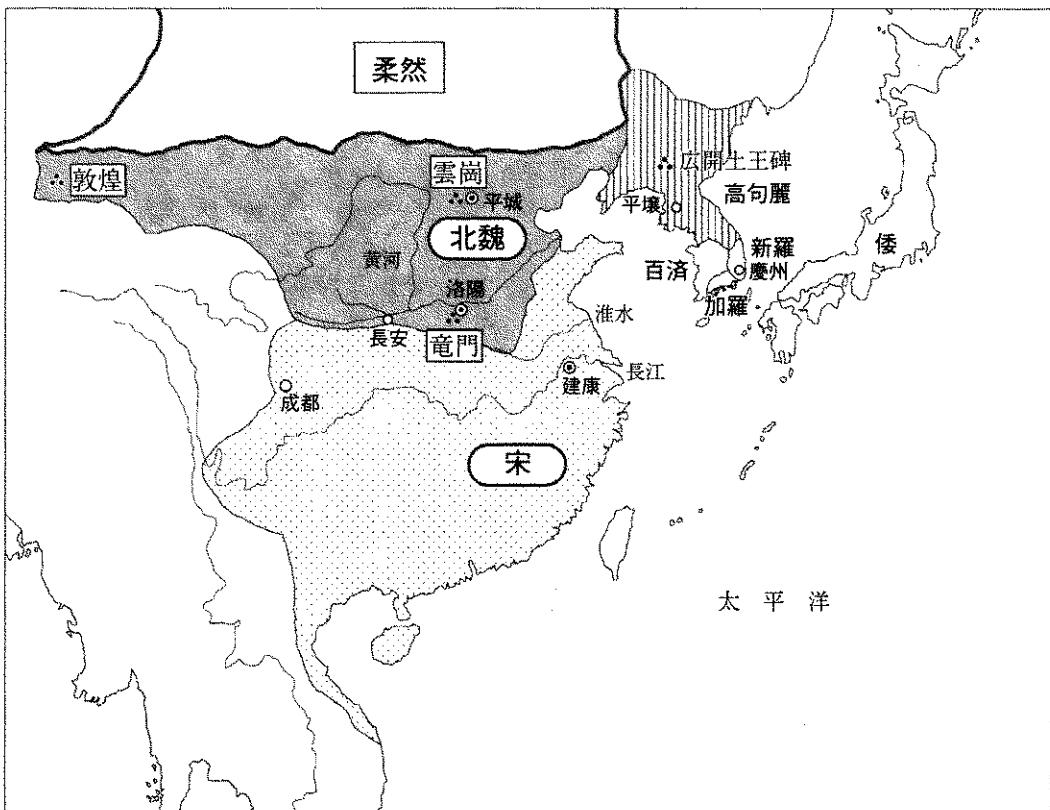
4 正解は平城。平城は現在の山西省大同で、孝文帝が洛陽に遷都するまでの北魏の都である。平城の近郊には雲崗石窟寺院が造営されて多数の仏像が刻まれ、初期のものはガンダーラ美術・グプタ美術など西方の影響を示している。孝文帝の行った漢化政策は、胡服や鮮卑語の禁止、中国の官僚制度の導入、漢人との通婚など多岐にわたり、洛陽遷都はその一環でもある。なお、洛陽の南方の竜門には、北魏の洛陽遷都から唐の玄宗年間まで約2世紀以上にわたって造営された石窟寺院がある。仏像の様式は中国化し、日本の仏教美術にも影響を及ぼした。

5 正解は項羽。楚の武将項羽は秦末の陳勝・吳広の乱に乘じて兵を挙げ、秦軍を破り霸権を握ったが、劉邦との垓下の戦いに敗れた。

6 正解は高宗。高宗（位649～683）は唐の第3代皇帝で、第2代太宗（李世民、位626～649）の子である。新羅と結んで百濟を滅ぼし、さらに高句麗を滅ぼして安東都護府を置き、西突厥などを攻撃して唐の最大領域を実現した。晩年は則天武后が実権を握った。

7 正解は門下省。三省は唐の中央政府の最高機関で、中書省・門下省・尚書省からなる。そのうち門下省は、中書省から送られてきた詔勅の草案などを審議する機関で、修正や拒否の権限をもち、唐では貴族勢力の牙城となっていた。中書省は詔勅の立案・起草を担当し、尚書省は中書省・門下省の決定事項を実行する政務行政機関で、吏・戶・礼・兵・刑・工の六部を管轄した。

8 正解は渤海。渤海は靺鞨人と高句麗の遺民からなる国で、7世紀末に大祚榮が建国した。中国東北地方の東部を中心に、沿海州・朝鮮北部を支配した。唐に朝貢してその制度・文物を導入し、仏教も盛んで、一時は「海東の盛國」と称された。唐



〈南北朝時代〉

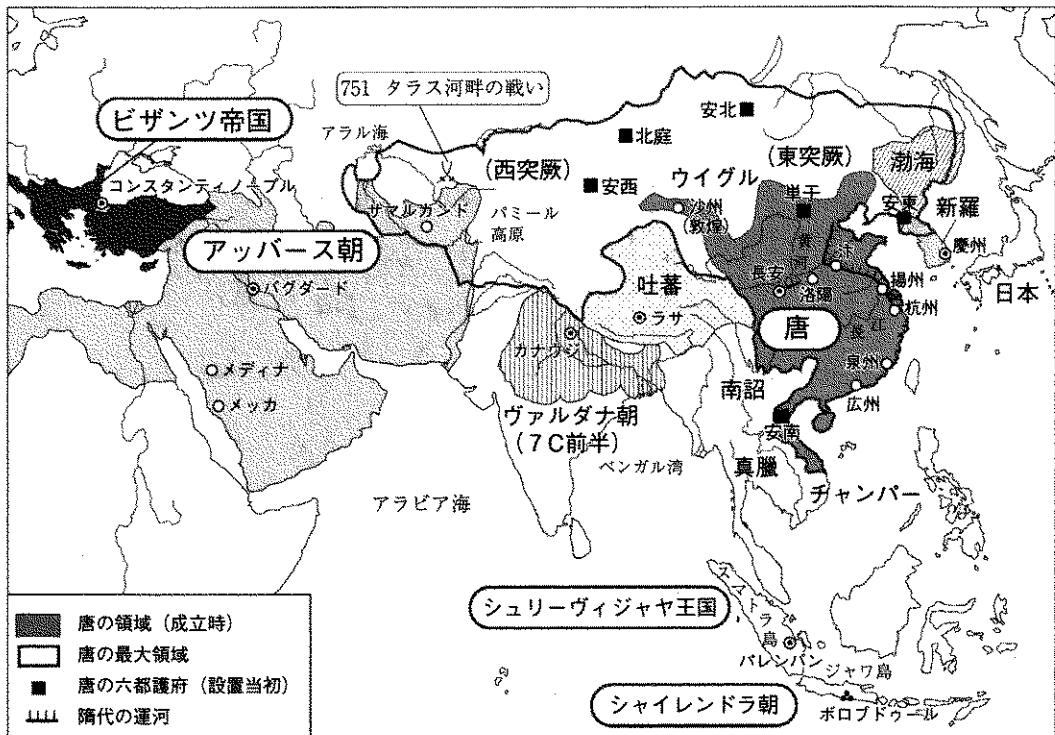
の都城を模して上京竜泉府を建設し、日本とも通交した。東モンゴルに台頭した契丹とは常に敵対関係にあり、926年に契丹の耶律阿保機に滅ぼされた。

問1 正解は商鞅。前4世紀、秦の孝公に仕えた商鞅は、法徳主義に基づく富国強兵策を推進し、行政制度の整備や、度量衡の統一などを行い、秦の中国統一の基礎を作った。法家では他に、法家思想を大成した韓非や、秦の始皇帝に仕えた李斯が有名である。

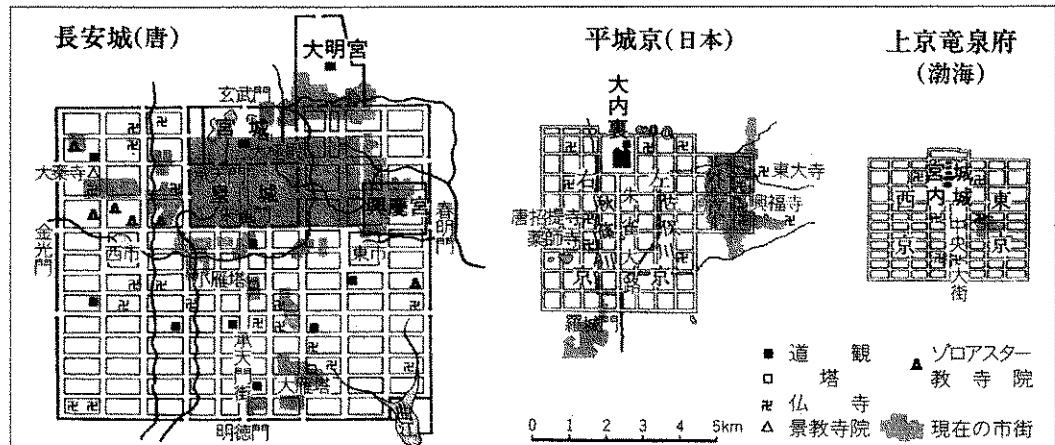
問2 正解は②。吳（222～280）は孫權が建国し、建業（現在の南京）を都とした。勢力基盤とした江南の開発に努め、六朝の最初に数えられるが、豪族の争いで衰えるなか、晋（西晋）に滅ぼされた。蜀（221～263）は劉備が建国し、成都を都とした。のち、吳との戦いに大敗し、魏によって滅ぼされた。

問3 正解は①。一族や功臣を世襲の諸侯とし、貢納と軍役の義務を負わせるのは、郡県制ではなく封建制で、この制度は周の時代に行われた。郡県制は秦の始皇帝が全国に施行した中央集権的な統治体制で、全土を36郡に分け、その下に県を設け、それぞれの長官に中央派遣の役人を任命して統治させた。

前漢の高祖は、長安周辺の直轄地には郡県制を、地方には封建制を併用する郡国制を実施した。その後、歴代皇帝は諸侯の勢力削減に努め、諸侯王の反乱（吳楚七国の乱）鎮圧後、武帝の頃には郡県制が実質的に復活し、中央集権体制が確立した。②張騫は、前2世紀後半に武帝の命で匈奴を撃滅するため、大月氏に派遣された。張騫の報告によって西方の地理・風俗・物産に関する知識が中国にもたらされ、西域経営、東西文化の交流、東西交易の発展が促された。③武帝は財政難を開拓するため物価調整法である均輸法を施行した。特産物を税として貢納させ、これを不足地に転売して、政府収入の増大と物資の流通・物価の調整を図った。また、武帝は物価安定策として平準法も施行した。政府は物価の下がったときに余剰商品を購入し、高騰した時に売り出して、全国市場の需要・価格を統制し、政府収入の増大と大商人の利益抑制を図った。④武帝は前111年に南越を滅ぼして現在のハノイ近郊に交趾郡を置いた。南越は秦末の混乱に乗じて南海郡尉の職にあった趙佗が建てた国で、南海貿易で栄えた。前漢に朝貢したが離反し、武帝により滅ぼされた。



〈唐代のアジア〉



〈長安城(唐)と平城京(日本)と上京龍泉府(渤海)〉

問4 正解は④。イ、九品中正（九品官人法）は、三国時代の魏から隋初期まで行われた官吏任用制度である。前漢からの郷挙里選にかわり、魏の文帝が採用した。中央から任命された中正官が、地方の人材を郷里の評判などによって九等級に評定（郷品）して、中央に報告し、中央はそれに相応する官職に任命した。家柄が重んじられ、中正官と結びついた地方豪族の子弟が高い郷品を得て中央の上級官職を独占したため、門閥貴族の形成につながり、「上品に

寒門なく、下品に勢族なし」といわれた。なお、西魏では、兵農一致の徵兵制である府兵制がはじめられ、北周・隋・唐へ受け継がれた。ロ、三長制は北魏の孝文帝が制定した村落統治制度で、均田制実施のための戸籍簿を作成させ、徵税機能をはたらせた。なお、東晋・南朝では、北方からの流入民を現住地の戸籍に登録させる土断法が実施された。

問5 正解は高句麗。高句麗は前1世紀頃に中国東北部東南部におこったツングース系貊族の国で、4

社会の特徴	・大土地所有が進行 ・豪族の官界進出 → 門閥貴族化 ・江南の開発が進展		
官吏登用制度	九品中正(九品官人法)	魏の文帝(曹丕)が創始	・魏晋南北朝を通じて行われる ・中央から任命された中正官が地方の有徳者を9ランクに評定し、推薦 ・上品には特定の家柄 → 門閥貴族の形成 ・「上品に寒門なく、下品に勢族なし」
土地制度	屯田制	魏(曹操)	戦乱で荒廃した土地の耕作や開墾
	占田・課田法	西晋(司馬炎)	大土地所有の制限と自作農の育成
	均田制	北魏(孝文帝)	國家が給田し農民を掌握、奴婢・耕牛にも給田
税制	戸調式	西晋(司馬炎)	一戸ごとに生産物を徴収
住民支配	土断法	東晋・南朝	南下漢人を現住地の戸籍に登録させようとした戸籍整理法
	三長制	北魏(孝文帝)	華北の村落行政制度
兵制	府兵制	西魏が創始	兵農一致の軍事制度

#### 〈魏晋南北朝時代の社会・制度〉

世紀初めに楽浪郡を滅ぼして朝鮮北部を領有し、4世紀末から5世紀初めの広開土王(好太王)は積極的に領土を拡大した。隋・唐軍を撃退したが、668年に唐と新羅の連合軍に滅ぼされた。

問6 正解は景教。景教はネストリウス派キリスト教の中国名で、太宗の頃に伝來した。ペルシア人阿羅本を長とする伝道団が長安での布教を許された。8世紀後半の徳宗のときには景教の流行を記念して長安の大秦寺内に大秦景教流行中國碑が建立されたが、9世紀半ばの仏教弾圧(会昌の廢仏)の際に禁圧され衰退した。また、ゾロアスター教の中国名は祆教で、北魏の頃に西域人により伝えられた。マニ教(摩尼教)は7世紀末に西域から伝来し、長安などに寺院も建てられた。ともに会昌の廢仏で禁圧され衰退した。なお、マニ教はウイグル人の間に広まった。

問7 (i)正解は玄宗。唐の第6代皇帝玄宗(位712~756)は、中宗の皇后韋后の一派を倒して父睿宗を復位させ、その後を受けて即位した。治世前半は賢臣を用い「開元の治」と呼ばれる唐の安定期を現出し、都長安も繁榮した。晩年は楊貴妃を寵愛して政治を乱し、安史の乱を招いて四川へ逃亡中に退位した。

(ii)トルコ系民族のウイグル(回紇)は、8世紀半ばに東突厥を滅ぼしてモンゴル高原を支配した。安史の乱では唐を援助して乱の鎮圧に貢献するなど強勢を誇ったが、9世紀に入ると内紛が続き、侵入したキルギスに敗れて四散した。吐蕃は7世紀にソンツェン・ガンポがチベット高原に建てた国で、拉萨に都を置いた。唐の西進策と衝突してしばしば争

い、安史の乱によって生じた混乱に乗じて一時長安を占領した。9世紀前半には唐と同盟を結んだが、同世紀中頃に分裂して衰退した。

### ③ ローマ教皇権の盛衰

#### 【解答】

- 1 ペテロ
- 2 ポンティウス=ピラトゥス(ポンテオ=ピラト)

3 軍人皇帝

4 ランゴバルド(ロンバルド)

5 カール大帝

6 帝国教会

7 聖職売買

8 アッコン

9 ボニファティウス8世

10 コンスタンツ

問1 ラティフィンディア(ラティフィンディウム)

問2 ②

問3 カタコンベ

問4 三位一体説

問5 エグバート(エグベルト)

問6 ③

問7 ポローニャ大学

問8 異端とされたアルビジョワ派に対し十字軍

が組織された。アルビジョワ派の討伐を通じてフランス王が南部に勢力を拡大し、フランス王権が強化された。(69字)

## 【配点】 (26点)

1 ~ 10

問1~問8

問8 [答案作成のポイント]

- ① 異端アルビジョワ派に対する十字軍(アルビジョワ十字軍)
- ② 王権の拡大・伸長

## 【出題のねらい】

本問では、ローマ教皇権の盛衰というテーマに基づき、1世紀から15世紀までのキリスト教史を問題文中で概観し、それに関連した問題を政治・経済など多岐にわたる視点から出題した。中世ヨーロッパの理解には、キリスト教の理解が必須である。本問を機に、政治と宗教がどのように結びついていたのか、その関係も理解できることが望ましい。なお、史料は『新共同説 聖書』から引用した。

## 【設問別解説】

1 正解はペテロ。ペテロはガリラヤの漁師出身で、イエスの直弟子である十二使徒の筆頭とされ、伝道に尽力した。ネロ帝の迫害によってローマで殉教したと伝えられるが、歴史上の史実としては確認できない。ペテロは初代ローマ教皇とみなされ、ローマ教会が他の教会に対して首位権を主張する根拠となった。

2 正解はポンティウス＝ピラトゥス (ポンテオ = ピラト)。ポンティウス = ピラトゥスはローマ帝国の属州ユダヤの総督である。ユダヤ人の告発を受けて、イエスをローマ帝国の反逆者として処刑した。イエスの死後、イエスの復活を信じる人々が、イエスを救世主、すなわちキリストとみなし、その教えを各地に広げていった。

3 正解は軍人皇帝。軍人皇帝時代とは235年から284年まで約半世紀続いたローマ帝国の内乱期をさす。地方各地の軍団が皇帝を擁立して権力闘争をくりひろげ、この時期だけで26人の皇帝が権力を競った。国内の軍事抗争にくわえてゲルマン人やササン朝などの外敵にも圧迫され、莫大となった軍事費を支えるために都市への課税が強化され、ローマ各地の都市は疲弊していった。

4 正解はランゴバルド (ロンバルド)。ランゴバルド王国は、6世紀後半に北イタリアで成立したゲルマン人の国家である。8世紀半ば、フランク王国のピピンはランゴバルド王国からラヴェンナ地方を奪い、ローマ教皇に献上した。これがローマ

教皇領の起源となっている。8世紀後半、ピピンの息子カール大帝によって滅ぼされた。

5 正解はカール大帝。カール大帝はピピンの息子で、ローマ教皇レオ3世から加冠され、ローマ皇帝として認められた。

- ・ランゴバルド王国を滅ぼす (774)
- ・ザクセン人 (ゲルマン人の一派) を平定
- ・アヴァール人を撃退
- ・イベリア半島のイスラーム勢力に対して遠征  
・『ローランの歌』の題材となる
- ・カールの戴冠 (800)
  - ・教皇レオ3世からローマ皇帝の冠を授かる
- ・伯 (グラーフ) と巡察使の制度を通じて帝国を統治
- ・カロリング=ルネサンス
  - ・ブリタニアからアルクインを招く
  - ・ラテン語による文芸復興、聖職者の養成など

### 〈カール大帝の業績〉

6 正解は帝国教会。帝国教会政策とは、神聖ローマ帝国において、皇帝が聖職者・教会組織を統制下に置き、官僚組織化して帝国統治に役立てた政策のことである。この政策によって皇帝は聖職者の任免権、すなわち聖職叙任権を行使したため、皇帝にとって教皇がこれを掌握することは是認できなかった。このことが、叙任権闘争の一因となっている。

7 正解は聖職売買。聖職売買とは、聖職者の地位・権限を、金銭や物品の対価として売買することである。クリュニー修道院が推進した改革運動で聖職売買は批判の対象となり、この影響を受けたローマ教皇グレゴリウス7世は、世俗権力が聖職叙任を行うこと自体を聖職売買とみなした。このことが、当時帝国教会政策をとっていた皇帝との対立を招いた。

8 正解はアッコン。アッコンは地中海東岸の都市で、現在のイスラエルに属する。11世紀末に成立したイエルサレム王国は、アイユーブ朝のサラディン (サラーフ = アッディーン) によってイエルサレムなどを奪われた。その後、アッコンが十字軍国家の拠点となつたが、13世紀末にはマムルーク朝によってアッコンも陥落し、十字軍国家は消滅することになった。

9 正解はボニファティウス8世。ボニファティウス8世は聖職者の課税をめぐる問題で、フランス王のフィリップ4世と対立した。14世紀初頭、

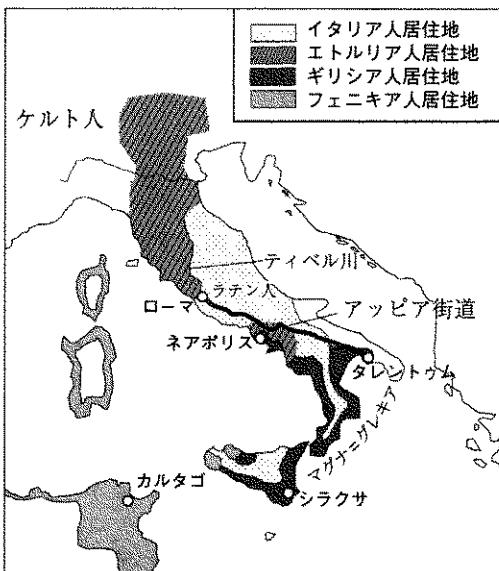
フランス王の臣下によってローマに近いアナニに幽閉され、まもなく釈放されたものの、屈辱を受けた高齢の教皇は、その後死亡した（アナニ事件）。

**10 正解はコンスタンツ。**コンスタンツ公会議は、神聖ローマ皇帝ジギスムントの提唱で、1414年から1418年まで開催された。当時はローマとアヴィニヨンだけでなくピサにも教皇が擁立されていたが、3人の教皇を退位させて新たなローマ教皇を選出した。こうして教会大分裂（大シスマ）は收拾した。また、宗教改革の先駆者であるイングランドのウィクリフとペーメンのフスを異端と定め、フスを焚刑に処した。なお、この頃ウィクリフはすでに死去していた。

**問1 正解はラティンディア（ラティンディウム）。**ラティンディアは、古代ローマにおける大農場をさし、労働力としてはもっぱら奴隸が用いられた。しかし、奴隸労働の非生産性や反乱のリスク、また奴隸供給の減少にともなって奴隸価格が高騰したことなどからラティンディアは行き詰ったと考えられ、やがて奴隸でなくコロヌス（小作人）に耕作させる農場経営（コロヌス制）が主流となっていました。

**問2 正解は②。イ、「ローマの平和」と呼ばれる前1世紀後半から後2世紀にかけての繁栄期、おもにギリシア系の商人が、季節風を利用してインド洋をわたり、インドのサーダヴァーハナ朝などと交易を行った。こうした様子は、『エリュトゥラー海案内記』からうかがえる。インド南部の遺跡からはローマ金貨が出土しており、東南アジアの扶桑の港市とされるオケオ遺跡でも、数は少ないがローマ金貨が出土している。ローマにおける最古の軍道はアッピア街道だが、アッピア街道はイタリア南部を平定するため、ローマから南へと伸びている。そのため、ローマと属州ガリアを結ぶものではない。**

**問3 正解はカタコンベ。**カタコンベは古代ローマ時代の地下墓所である。キリスト教が公認されるまで、キリスト教徒にとっての礼拝所としての役割を



〈都市国家ローマの建国〉

はたしたと考えられている。

**問4 正解は三位一体説。**父なる神、子なるイエス、聖霊の三者を同質で不可分とする考え方である。教父アタナシウスの教説で、ニーケア公会議を経て確立していった。正統教義などをめぐるそれぞれの公会議・宗教会議については下の表を参照のこと。

**問5 正解はエグバート（エグベルト）。**エグバートは七王国（ヘブターキー）のうちウェセックスの王で、9世紀前半に七王国を統一して、イングランド王国を成立させた。その後、エグバートの孫であるアルフレッド大王は、9世紀後半にデンマーク人の侵入を撃退した。

**問6 正解は③。**オットー1世と戦って敗れ、ハンガリーに王国を建てたのはアジア系のマジャール人である。マジャール人はカトリックを受容した。セルビア人はバルカン半島中部に王国を建て、ギリシア正教を受容した。①カジミェシュ3世（大王）は、14世紀のポーランド王である。中世ポーランドの最盛期を築き、クラクフ大学を設立した。②1356年に

開催地	時期	内 容
ニーケア	325	アタナシウス派を正統、アリウス派を異端とする
エフェソス	431	ネストリウス派を異端とする
カルケドン	451	単性論派を異端とする
クレルモン	1095	叙任権闘争の最中で教会改革を論議、十字軍を提唱
コンスタンツ	1414～18	教会大分裂（大シスマ）收拾 ウィクリフとフスを異端、フスを処刑

〈15世紀までの主要な公会議・宗教会議〉

サレルノ大学	南イタリア	医学で有名
ボローニャ大学	北イタリア	法学で有名
パリ大学	フランス	神学で有名
オックスフォード大学	イングランド	神学で有名
ケンブリッジ大学	イングランド	オックスフォード大学の教師・学生が移り設立
プラハ大学	チェコ	カール4世(カレル1世)が設立
クラクフ大学	ポーランド	カジミェシュ3世が設立

### 〈おもな中世の大学〉

金印勅書が定められ、神聖ローマ皇帝となる国王の選出を七人の選帝侯が行うことになった。その選帝侯の中にはベーメン王も含まれる。また、この金印勅書を定めたときの皇帝カール4世は、カレル1世としてベーメン王の地位にもあった。<sup>④</sup>キエフ公国のウラディミル1世(位980~1015)は、ビザンツ皇帝の妹を妃として迎え、ビザンツ帝国との結びつきを強めた。また、ギリシア正教を受容した。

問7 正解はボローニャ大学。ボローニャ大学はイタリア北部にある大学で、ユニヴェルシタスと称される学生組合から発達した。ローマ法の研究で知られ、多くの法学者を輩出した。中世ヨーロッパの主要な大学については、上の表も参照のこと。

問8 異端とされたアルビジョワ派(カタリ派)に対して、ローマ教皇インノケンティウス3世の提唱でアルビジョワ十字軍が組織された。南フランス諸侯の保護をうけていたアルビジョワ派は13世紀半ば、その拠点が陥落すると、その後急速に衰えていった。このアルビジョワ十字軍を通じて、フランス王は南部の有力諸侯を従わせるとともに、南部に勢力を拡大し、王権を強化していった。また、托鉢修道会のドミニコ会が異端撲滅に積極的にとりくみ、厳しい異端審問が行われた。アルビジョワ派は二元論に立脚した禁欲主義の立場をとり、マニ教の影響を受けているとされる。

## 4 イスラーム勢力の拡大と文化の融合 【解答】

- 1 クライシュ
  - 2 イベリア
  - 3 ジズヤ
  - 4 タラス
  - 5 イル
  - 6 ゼロ
  - 7 「コーラン(クルアーン)」
- 問1 ②

- 問2 ③  
 問3 ④  
 問4 染付(青花)  
 問5 ②  
 問6 フワーリズミー<sup>⑤</sup>  
 問7 ④  
 問8 マンサ・ムーサ  
 問9 ウラマー  
 問10 『医学典範』

### 【配点】 (24点)

1 ~ 7

問1 ~ 問10

各2点×7

各1点×10

### 【出題のねらい】

本問は、世界史入試において文明圏の接触と交流のテーマが頻出となっている状況を踏まえ、先行文明を融合・発展させ、ヨーロッパ文明にも多大な影響を与えたイスラーム文明について、イスラーム勢力の拡大と文化の融合という視点から出題した。

### 【設問別解説】

- 1 正解はクライシュ。クライシュ族はアラブ人の部族で5世紀頃からメッカ(マッカ)を支配し、アラビア半島各地から巡礼者を集めていたカーバ神殿の管理権を得た。6世紀半ば頃からは隊商交易を組織し、商業を中心とする社会を形成した。ササン朝と東ローマ(ビザンツ)帝国の抗争が激化すると、メッカが位置するアラビア半島西部のヒジャーズ地方が東西を結ぶ交易の中心となり、クライシュ族の大商人は大きな利益をあげた。ムハンマドもクライシュ族のハーシム家に生まれ隊商交易に参加したが、40歳の頃、神の使徒・最後の預言者であるとの自覚を得ると、唯一神アッラーへの絶対的服従と信徒の平等を説いた。しかし、その教えは当時この地域で祀られていた神々を否定するとともに、ク

ライシユ族の富の独占を批判するものであったため、メッカで追書を受け、622年にメディナに移るヒジュラ（聖遷）を行った。

**2** 正解はイベリア。レコンキスタが展開したイベリア半島はイスラーム文明との接触の最前線でもあった。トレドは西ゴート王国の都であったが、西ゴート王国が711年にウマイヤ朝によって滅亡すると、イスラーム勢力の支配下に入った。レコンキスタの進展によって1085年にカステリヤ王国がトレドを奪うと、トレドに集まった学者たちによってアラビア語文献のラテン語への翻訳が行われた。これによりイスラーム文明の医学・数学・建築・鍊金術などが紹介されてヨーロッパの自然科学の基礎となり、イブン＝ルシュドなどによるギリシア哲学の翻訳と注釈は中世スコラ哲学の発展に影響を与えた。西ヨーロッパ世界のこの一連の文化的な発展を、12世紀ルネサンスと称する。

**3** 正解はジズヤ。ウマイヤ朝では、アラブ人が免税特権をもつ一方で、非アラブ人はイスラーム教に改宗しても、土地税のハラージュと人頭税のジズヤを課せられた。アッバース朝では、アラブ人も征服地に土地を所有する場合はハラージュを課せられ、マワーリー（非アラブ人ムスリム）のジズヤは免除された。そのため、ジズヤは「啓典の民」などイスラーム支配下の異教徒（ズィンミー）のみに課せられた。

**4** 正解はタラス。751年中央アジア西部のタラス河畔で、アッバース朝期のイスラーム軍が、高仙芝が指揮する玄宗治下の唐の軍を破った。この時に製紙法が西伝したとされている。製紙法は、その後イベリア半島やシチリア島を経て12～13世紀にはヨーロッパに伝わった。

**5** 正解はイル。イル・ハン国はモンゴル帝国のモンケ＝ハンの命を受けて西征したフラグが、1258年にアッバース朝を滅ぼしてイラクとイランを領域として建国した。当初はマムルーク朝との対立から西ヨーロッパ諸国と提携をはかりキリスト教を保護したが、第7代のガザン＝ハン（位1295～1304）はイスラーム教を国教とした。ガザン＝ハンは地租を中心とするイスラーム式の税制を導入し、宰相のラシード・アッディーンにモンゴルを中心とする歴史書『集史』をペルシア語で編纂させるなど文化の保護にもつとめた。そのため、イル・ハン国においてイラン＝イスラーム文化が発展していく。

**6** 正解はゼロ。インドにおいて十進法とセ

ロの概念が発見されたことは、位取り記数法によって計算を飛躍的に簡単にすることを可能とし、代数学の発展を導いた。

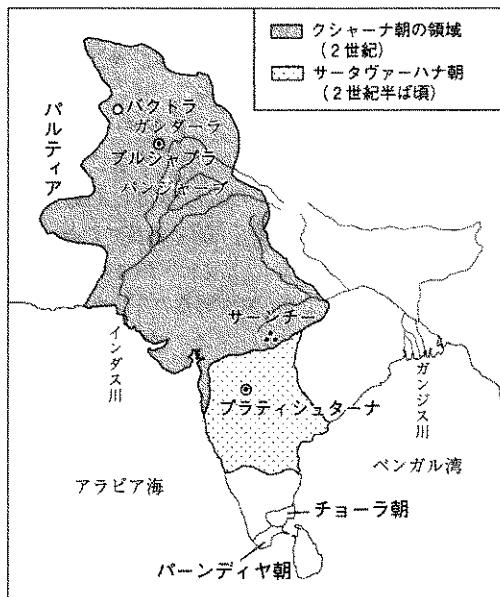
**7** 正解は『コーラン（クルアーン）』。『コーラン』は、アッラーにより、天使を通じてムハンマドに授けられた啓示の記録で、第3代正統カリフのウスマーンの時代に現在の形に編纂された。「コーラン（クルアーン）」はアラビア語で「読まれるべきもの」という意味で、その章句は韻を踏んだ詩的な響きを持つ。ムハンマドはメディナにおいてイスラーム共同体ウンマを確立し、聖と俗、宗教と国家のすべての領域において指導者として活動したため、「コーラン」の内容は信仰だけでなく、政治・社会・生活の多岐に及ぶ。

問1 正解は②。イ。ムハンマドの叔父アッバースの一族であるアッバース家は、建国に際し、シーア派の支援を受けた。しかし建国後は、シーア派を弾圧して多数派のスンナ派を基盤とする政策に転換した。ロ。アッバース朝の最盛期は、アブド・アッラフマーン3世ではなくハールーン＝アッラシード（位786～809）である。ハールーン＝アッラシードは、アラビア文学の代表作『アラビアン＝ナイト』に登場するカリフのモデルとされている。アブド・アッラフマーン3世は、イベリア半島に建てられた後ウマイヤ朝の君主で、ファーティマ朝に対抗して929年にカリフを称したことで知られる。

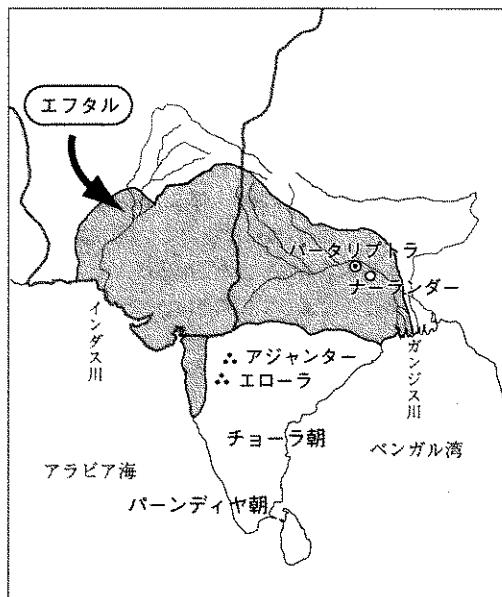
問2 正解は③。ザカートがラマダーンの誤りである。イスラーム暦9月のラマダーンにおける断食は、ムスリムに課せられた宗教的義務である五行の一つである。ザカートは貧しい人々への喜捨のことである。やはり五行の一つである。

問3 正解は④。b. イスラーム教では偶像崇拜が否定されたため、モスクなどの壁面の装飾には文字や草木などを図案化して組み合わせたアラベスクと呼ばれる幾何学的な装飾技法が用いられた。アラベスクは建造物だけでなく、陶磁器や書籍などの装飾にも用いられた。a. 前述のようにイスラーム世界では偶像崇拜が禁止されていたが、本の挿絵などとしてミニチュールと呼ばれる細密画が発展した。とくに13世紀、イランにモンゴル人によるイル・ハン国が成立すると、中国絵画の技法がもたらされ、ミニチュールが発展した。

問4 正解は染付（青花）。染付は白磁にコバルト顔料で絵を描いて焼き付けた磁器である。コバルト＝ブルーの色合いがイスラーム世界やヨーロッパで人気となり、元代後半から景德鎮を中心に輸出品とし



〈クシャーナ朝・サータヴァーハナ朝〉



〈グプタ朝〉

て盛んに製造されて、海の道の交易品として重要となつた。

**問5** 正解は②。地図上のaはガンダーラ地方、bはマカグ地方である。グプタ朝（320頃～550頃）はガンジス中流域のマカグ地方におこり、パータリブトラを都に北インドを統一した。ヒンドゥー教が台頭した時代であるが、仏教教理の研究は盛んで、5世紀にはパータリブトラの南東にナーランダ僧院が建てられ、各地から学僧が集まつた。7世紀前半のヴァルダナ朝の時代にインドを訪れた唐の僧玄奘も、ナーランダ僧院で学んでいる。またグプタ朝期には、優美さなどインド的要素が強調されたグプタ美術の様式が生まれた。アジャンター石窟寺院の壁画などが代表である。一方、aのガンダーラ地方は、クシャーナ朝（1～3世紀）の時代にギリシア式彫像の影響を受けた仏像の制作が盛んとなつた。その美術様式はガンダーラ美術とよばれ、中央アジアを経由して中国や日本にも伝わつてゐる。

**問6** 正解はフワーリズミー。フワーリズミーは、9世紀前半にアッバース朝下のバグダードで活躍した數学者・天文学者である。フワーリズミーの名は中央アジア西部のホラズム地方出身者であったことに由来する。代数学の基礎を築くとともに、インド数学の十進法を計算法に取り入れたことで知られる。

**問7** 正解は④。ファーティマ朝は10世紀の初めに過激シーア派のイスマーイール派がチュニジアに建国し、10世紀後半にはエジプトを征服して都カイロを行

造當した。1171年にファーティマ朝を滅ぼしたのは、クルド人の武将サラディンが建国したスンナ派のアイユーブ朝で、キリスト教勢力に対抗してイエルサレムを奪回し、十字軍と抗争した。アイユーブ朝はマムルーク軍團のクーテタで1250年に滅び、マムルーク朝が成立した。①サーマーン朝とカラ＝ハン朝の順が逆である。875年に成立したサーマーン朝を、999年に滅ぼしたのが、10世紀半ばに中央アジア東部に建国したカラ＝ハン朝である。カラ＝ハン朝はトルコ系最初のイスラーム王朝である。②ゴール朝は12世紀半ばにアフガニスタンに建国し北インドに進出したイスラーム王朝で、ゴール朝の將軍アイバクが1206年にデリーで自立したのが奴隸王朝なので誤りである。③はセルジューク朝とブワイフ朝の順が逆である。946年にバグダードに入城したイラン系のブワイフ朝を、11世紀前半に成立して1055年にバグダードに入城したトルコ系のセルジューク朝が滅ぼしている。また、ムラービト朝は11世紀に西アジアではなく北アフリカのマグリブ地方に建国された王朝なのでこの点でも誤りとなる。

**問8** 正解はマンサ＝ムーサ。マリ王国は13世紀にイスラーム教を受容したマンディンゴ人を支配層にニジェール川流域で成立した。サハラ北方の塩と西アフリカの金の交易を支配しトンプクトゥを中心に繁栄したが、15世紀にソンガイ王国の攻撃を受けて衰亡した。全盛期の王であるマンサ＝ムーサ（位1312～37）はエジプトを経由してメッカ巡礼を行

い、大量の金を消費したと伝えられる。マリ王国には、『三大陸周遊記』を著したモロッコ出身の大旅行家イブン＝バットゥータも訪れ、その繁栄とイスラーム教の浸透について述べている。

問9 正解はウラマー。礼拝所のモスクに付属する学院であるマドラサでは、聖典『コーラン』に基づく神学・法学・アラビア語の文法学・修辞学など「固有の学問」が講じられた。マドラサで学び、こうした学問を修めた知識人がウラマーであり、裁判官・教師・礼拝の指導者などをつとめて活躍した。ウラマーは、イスラームの交易路や巡礼路を利用して各地を遍歴し、相互に情報と学術の交換を行って学問

の研鑽を積んだ。このようなウラマーたちの活動は、分立する国家の枠を越えてイスラーム世界を一つの文明圏としてまとめる力になった。

問10 正解は『医学典範』。イブン＝シーナーは、サーマーン朝治下の中央アジアの都市ブハラの近郊で生まれた。イスラームの学問には、『コーラン』研究を中心とする「固有の学問」の他に、医学・数学・鍊金術といった自然科学や哲学などの「外来の学問」があり、イブン＝シーナーは医学と哲学で名高い。とくにその医学書『医学典範』は、西欧世界に翻訳されてサレルノ大学などで長く教科書として用いられた。

法学	『コーラン』とスンナ（ムハンマドの言行）に関する伝承のハディースに立脚し、イスラーム法（シャリーア）が成立
神学	ガザーリー：神学とイスラーム神秘主義（スーフィズム）を調和
歴史	ラシード＝アッディーン：『集史』 イル＝ハン国宰相でモンゴル史と世界史を集成 イブン＝ハルドゥーン：『世界史序説』で遊牧民と都市民交代理論を展開
哲学	イブン＝ルシュド（アヴェロエス）：12世紀コルドバ出身の哲学者、アリストテレスの注釈書を著す
医学	イブン＝シーナー（アヴィケンナ）：『医学典範』 17世紀頃まで西欧の医学教科書
数学	フワーリズミー：代数学の基礎を確立
化学	鍊金術が西欧に伝わり化学の基礎となる。アルコール・アルカリの語はイスラーム起源
地理	イブン＝バットゥータ：『三大陸周遊記』 モロッコ生まれの大旅行家 イドリーシー：『ルッジエーロの書』 モロッコ出身の地理学者で両シチリア王国に仕える

#### ＜イスラームの学問＞

#### ●写真・図版提供

PPS 通信社

# 日本史B

## ① 原始・古代の墓制の変化と社会 【解答】

- 問1 ウ
- 問2 ひすい
- 問3 ア
- 問4 環濠集落
- 問5 エ
- 問6 四隅突出型
- 問7 壺穴
- 問8 三角縁神獣鏡
- 問9 国造
- 問10 イ

### 【配点】 (20点)

問1～問10

各2点×10

### 【出題のねらい】

本問では、縄文時代から古墳時代にかけての墓制の変遷と当該期の社会の変化について問うた。一部難度の高い用語も問うたが、設問の多くは基本事項が理解できていれば正解できる。解説を利用して一問一答式の単なる暗記から離れ、墓制の変遷とそれが示す社会のあり方を理解しながら、重要事項を習得していってほしい。

### 【設問別解説】

問1 解答はウ（大湯遺跡）。「二基の環状列石が発見された」秋田県の遺跡との設問文は、難度の高い知識を求めており苦戦した受験生もいたかもしれない。しかし、選択肢を吟味すれば消去法によって解答できる。アの岩宿遺跡は打製石器が発見され、日本列島における旧石器時代の存在が初めて確認された群馬県の遺跡。イの三内丸山遺跡は大型掘立柱建物跡が出土したことで著名な縄文時代の大規模な集落遺跡だが、所在地は青森県。エの菜畑遺跡は佐賀県に所在する遺跡で、板付遺跡（福岡県）とともに縄文晩期から弥生初期の水田跡が出土した遺跡として確認しておくべきもの。したがって、ア・イ・エは時代や所在地が異なるので消去できる。ウの大湯遺跡の環状列石は二重の同心円状に石組が配されたもので、石組の多くに浅い土壙（壺穴）が存在し、縄文後

期の北日本に特殊な墓地ではないかとみられている。

問2 解答はひすい。「新潟県姫川流域を原産地とする石材」との設問文に着目すれば解答できる。姫川産のひすい（硬玉）で作られた装身具は、東北・中部地方をはじめとする各地の遺跡から出土しており、ひすいが広範囲で交易されていたことがわかる。縄文時代における広範囲の交易を示すものとしては、長野県和田岬産の黒曜石も確認しておこう。

問3 解答はア。縄文時代の生活・社会について問うた。尖頭器を装着した槍を用いてオオツノジカなどの大型動物を狩猟したのは旧石器時代なので、アが誤り。縄文時代には、自然環境の大きな変化によりナウマンゾウ・オオツノジカなどの大型動物が絶滅し、代わって増加したイノシシ・シカなどの俊敏な中小動物を弓矢を用いて狩猟した。イのクリの木の栽培は青森県三内丸山遺跡から痕跡が見つかっている。ウの土鍤や石鍤は漁網のおもりであり、網漁が行われていたことを示すものである。エの女性をかたどった土偶は豊穣などを祈願したものとみられ、この時代の呪術の盛行をうかがわせる。

問4 解答は環濠集落。「下線部の「居住域を取り囲むように溝をめぐらした集落」に注目すれば容易に解答できる。集落全体を開んだ濠や溝は防御用に構築されたものとみられ、弥生時代に生産物や水田、用水をめぐる戦いが発生したことを見かがわせる。

問5 解答はエ。正誤問題では必ず根拠を挙げた上で誤りを見つける演習を積むことが効果的である。その場合、これまでの学習では正誤判定ができない知識を含む選択肢は一旦保留する。アの弥生前期に稻の穂首刈りに使用されたのは石包丁だが、その形状が朝鮮半島のものと共通することは知らなくても仕方はない。このような選択肢は誤りと決めつけず保留する。同様に、イの紡錘車は糸に燃りをかける道具だが、これも難度の高い用語であり保留する。ウの青銅器は鉄器とほぼ同時に大陸から伝来したとみられるが、鉄器は工具など実用品に利用され、青銅器は主に祭祀の際の宝器とされたとみられている。したがって、ウは正しい。エの焼棺などを埋めた土壙（壺穴）の上に自然石を支柱にして巨石を載せた支石墓は朝鮮半島南部と共通する墓制だが、主に九州北部にみられるところから誤りとなる。

問6 解答は四隅突出型。詳細な知識を問うた問題。「方形の墳丘の四方が張り出した」との問題文がヒントだが、苦戦した受験生が多かったと思われる。山陰地方から北陸地方にかけての日本海側を中心に分布し、これらの範囲で埋葬形態を同じくする地域

連合が形成されていたことをうかがわせるものである。その他に、弥生時代の墳丘墓としては、円形の墳丘の両側に突出部をもつ岡山県吉備地方の桶築墳丘墓がある。この墳丘墓では、文様で装飾された特殊壺とそれを載せた特殊器台が出土しており、この特殊器台は後の円筒埴輪に発展していったとみられている。

## 【整理】

## 《弥生時代の主要な墓制》

- 甕棺墓 甕を棺として埋葬→九州北部に分布
- 支石墓 甕棺などを埋めた土壙上に数個の自然石を支柱として巨石を載せた墓
- 朝鮮半島南部の影響→九州北部に分布
- 方形周溝墓 低い盛土の周囲に方形に溝を掘った墓→近畿地方を中心に東日本から九州まで分布
- 墳丘墓 巨大な盛土を伴う墓  
→弥生後期の西日本に分布  
地城ごとに特色をもつ  
例…四隅突出型墳丘墓（山陰から北陸）

## 問7 解答は豊穴。前方後円墳の埋葬施設を問うた。

豊穴式石室とは、後円部の墳頂を穿った大きな豊穴の底部に棺を安置し、その周囲に石を積んで壁とし、天井石を置いて粘土で覆い最後に墓穴を土で埋めたものである。同じく古墳時代前期の前方後円墳の埋葬施設としてみられる粘土槨は、豊穴周囲の石壁を省略し、棺を直接粘土で覆ったものである。なお、古墳時代中期も豊穴式石室が一般的だが、後期になると横穴式石室が一般的となる。

## 問8 解答は三角縁神獸鏡。この鏡は、縁の部分の断面が突出して三角形をなし、神像と畫獸の文様をもつことから名づけられている。三角縁神獸鏡は前期古墳に副葬された鏡の主流をなすもので、とくに京都府椿井大塚山古墳から出土した鏡と同じ鋳型で作られた鏡(これを同范鏡という)が、九州から東日本まで分布しているが、それはヤマト政権が、連合する豪族たちに授けたためであるという見方がある。

## 問9 解答は国造。国造は、ヤマト政権の国内統一が広範かつ強大になった段階で地方官として置かれたものと考えられている。設問文で、国造となつた豪族の例として「筑紫君」「伊勢直」をあげたが、前者から6世紀前半に九州で反乱を起こした筑紫国造磐井を思い出すことができたであろうか。6世紀頃には、地方豪族は国造に任せられて、それぞれが治める地方の支配権を保障された。その一方で、特産

物や武器・馬の供出、屯倉や名代・子代の部の管理を行ったり、兵士を組織してヤマト政権の軍事要請に応えたりして、政権に奉仕した。

問10 解答はイ (新沢千塚古墳群)。小型の円墳が密集する群集墳の具体例を問うた。アの百舌鳥古墳群は、古墳時代中期の前方後円墳で日本最大の墳長をもつ大仙陵古墳を含む古墳群で、ウの古市古墳群も同じ中期の前方後円墳で全国第2位の墳長をもつ誉田御廟山古墳が中心の古墳群であり、ともに時期や古墳の形状が異なる。エの埼玉古墳群は、「ワカタケル大王」と読める文字を含む銘文をもつ鉄劍が出土した前方後円墳である稻荷山古墳が含まれる古墳群で、これも異なる。したがって、群集墳はイの新沢千塚古墳群(奈良県)となる。群集墳の具体例としては、その他に和歌山県の岩橋千塚古墳群が著名である。

## 【整理】

## 《古墳文化》

## 前期 (4C中心)

- 畿内から西日本に前方後円墳が出現
- 畿内を中心とした豪族連合による統一政権
- =ヤマト政権の成立

代表例：箸墓古墳(奈良県)

## 中期 (5C中心)

- 前方後円墳の大型化・全国への拡大
- ヤマト政権の強大化・統一の拡大

代表例：大仙陵古墳(大阪府)

誉田御廟山古墳(大阪府)

## 後期 (6C中心)

- 群集墳の増加
- 有力農民をヤマト政権が直接掌握

代表例：岩橋千塚古墳群(和歌山県)

新沢千塚古墳群(奈良県)

## ② 古代国家の展開と法制の整備

## 【解答】

問1 a 和 b 君

問2 乙巳

問3 イ

問4 エ

問5 刑部親王

問6 令集解

問7 イ

問8 蔭位

- 問9 恭仁京  
 問10 藤原仲麻呂（恵美押勝）  
 問11 光仁天皇  
 問12 雜徭  
 問13 紀伝道（文章道）  
 問14 ウ

### 【配点】 (30点)

問1 a・b、問2～問14 各2点×15

### 【出題のねらい】

本問は、推古朝から醍醐朝までの古代国家の展開と法制度の変遷について確認してもらうことを意図して作成した。法制度の分野は条文の規定を暗記するだけの学習に陥りがちである。しかし、まず必要なのは、なぜそういった法制度を整備しなければならなかつたのかという背景を理解することである。これは古代に限ったことではなく、中世以降の武家法や近代の法を学習する際にも同様のことが言える。本問をきっかけとして、法制度は、その制定背景、内容、他の制度との比較という観点をもって学習するよう心掛けてもらいたい。

### 【設問別解説】

問1-a 解答は和。

問1-b 解答は君。

憲法十七条の史料について確認した。推古朝の603年、冠位十二階が制定されたが、これは氏姓制度における世襲制の打破を意図したもので、個人に授与され、昇進も可能であり、豪族を天皇の官人とする第一歩となるものであった。そして、翌604年、官人に対する訓戒として制定されたのが憲法十七条であり、天皇権威が強調され、仏教・儒教・法家の思想などがとり入れられている。空欄（a）には和が入る。和を貴ぶべきという内容は、孔子の『論語』などにもみえ、儒教思想をとり入れたものと考えられる。空欄（b）には君が入る。「詔を承りては必ず謹め。君をば則ち天とす、臣をば則ち地とす」というのは、君・臣の別を強調して、臣下（官人）は君主（天皇）の命令に絶対従わねばならぬことを説いたもので、ここにも儒教思想の影響がみられる。

問2 解答は乙巳。聖德太子（厩戸王）亡き後、蘇我氏が専横を強め、643年には、蘇我入鹿が聖德太子の子で有力な皇位継承候補であった山背大兄王とその

一族を滅ぼした。こうした状況に危機感を抱いた中大兄皇子と中臣鎌足は飛鳥板蓋宮で蘇我入鹿を殺害し、その父蝦夷を自殺へと追いつめ、ここに蘇我氏本宗家は滅亡した。この政変を乙巳の変といい、そしてこれに続く一連の政治改革を大化の改新とよぶ。

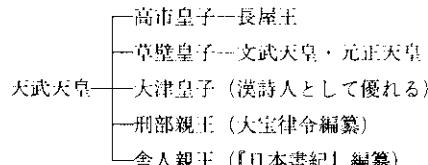
問3 解答はイ。大化の改新では、大臣・大連が廃止され、阿倍内麻呂が左大臣、蘇我倉山田石川麻呂が右大臣となった。したがってイが正しく、これが解答となる。ほかに、改新政府では、中大兄皇子が皇太子、中臣鎌足が内臣、高向玄理・斐が国博士となつたことも確認しておこう。なお、ア・ウ・エの誤りを見抜き消去法で解答を導き出すこともできる。アは皇極天皇ではなく孝徳天皇、ウは飛鳥板蓋宮ではなく難波宮、エは郡ではなく評が正しい。

問4 解答はエ。中国の都城にならつた初の本格的な都とは藤原京である。従来の宮は天皇一代ごとに移転していたが、藤原京は持統天皇・文武天皇・元明天皇三代の宮都となつた。したがってエが正しく、これが解答となる。アの条里制とは班田収授を円滑に行うために、土地を碁盤の目のように区分して把握するものである。藤原京では、宮の周囲に東西南北に通る道路によって碁盤の目状に区画された条坊制をもつ京が設けられ、王族や中央豪族が集住した。イは大極殿の屋根を檜皮で葺いたという部分が誤り。大極殿などの宮殿建築は瓦葺であり、中国にならつたものである。ウのような都の東部に外京が設けられたのは平城京である。なお、かつて藤原京は大和三山に囲まれた区域にあったと考えられていて、近年の調査によって、その京域は三山の外側まで広がっていたとする考え方がある。

問5 解答は刑部親王。刑部親王は天武天皇の子で、藤原不比等とともに大宝律令制定にあつた。壬申の乱に勝利して即位した天武天皇以後、天智天皇の孫の光仁天皇が即位するまでは、天武系の天皇と皇族が奈良時代の政治を担つた。

### 【整理】

《天武天皇とその子・孫》



問6 解答は令集解。養老令の内容は、清原夏野らが編纂にあたり833年に完成した官撰の注釈書『令義

解」と、9世紀後半に惟宗直本が法律家の様々な解釈をまとめた私撰の注釈書『令集解』からその大部分を知ることができる。『令集解』では大宝令の注釈書も引用されており、大宝令の内容を復元するのに貴重な史料となっているが、これはやや詳細な知識である。

問7 解答はイ。近江国は東海道ではなく東山道である。律令制では大和・山背(のち山城)・摂津・河内・和泉を畿内(五畿)とし、それ以外の地域を七道とした。近江国は天智天皇の大津宮や聖武天皇の紫香楽宮など都がおかれたことはあるが、畿内ではないことをしっかりとおさえよう。また、紀伊国が南海道に属すことも盲点である。歴史地理を苦手とする諸君もいるかと思うが、学習を進めていくなかで地名が出てきたら、地図で位置を確認することを心がけよう。

問8 解答は蔭位。蔭位の制は、父祖の位階によってその子孫の位階が優遇される制度である。位階は少初位下から正一位まで30階あり、一般的の官人の場合、無位や低位から始まり、勤務成績の評価を経てようやく叙位や昇位の機会が訪れる。しかし、皇族や貴族の子孫(父祖が三位以上ならば子と孫、四五位ならば子)は21歳になると一定の位階が与えられた。貴族には、他にも収入の保障や調・庸・雜徭の免除、刑法上の特権など様々な優遇措置があるので確認しておこう。

問9 解答は恭仁京。式家の藤原広嗣が大宰府で兵を擧げると、これは鎮圧したものの、動搖した聖武天皇は次々と遷都した。宮都については、地図を利用して位置も確認しておこう。

#### 【整理】

##### 《奈良時代の宮都の変遷》

- 710年 平城京(元明天皇)
  - 740年 藤原廣嗣の乱⇒恭仁京(山背国)へ遷都
  - 741年 国分寺建立の詔=恭仁京で発布
  - 743年 大仏造立の詔=紫香楽宮行幸中に発布
  - 744年 難波宮(摂津国)へ遷都
  - 744年 紫香楽宮(近江国)へ遷都
  - 745年 平城京へ還都
- ※大仏造立も平城京への還都を機に東大寺で再開された。

問10 解答は藤原仲麻呂(恵美押勝)。藤原仲麻呂は、不比等の子で南家の始祖となった武智麻呂の子であり、光明皇后を後ろ盾にして権力を握った。孝謙天皇が譲位して淳仁天皇が即位すると、仲麻呂は恵

美押勝の名を賜り、大師(太政大臣)に就任した。しかし、光明皇后が亡くなり孝謙天皇の寵愛を受けた道鏡が台頭すると、危機感を覚え挙兵して敗死した。

問11 解答は光仁天皇。称徳天皇を後ろ盾にした道鏡は太政大臣禪師、さらに法王となり、仏教重視の政治を推し進め、皇位まで狙ったが和氣清麻呂らがこれを阻止した(宇佐八幡宮神託事件)。式家の藤原百川らは、称徳天皇が死去すると道鏡を下野薬師寺に左遷し、從来の天武系ではなく、天智天皇の孫である光仁天皇を擁立し政治刷新をはかった。

問12 解答は雑徭。桓武天皇は班田勅行のため、6年1班を12年1班とした。また公民の生活を維持するために、最大60日だった雑徭を半減したり、公出舉の利息を5割から3割へと減らしたりした。

問13 解答は紀伝道(文章道)。弘仁・貞觀期は、文芸の隆盛が国家の隆盛につながるとする文章経国思想が広まり、宮廷では漢文学が流行して、嵯峨天皇のときの『凌雲集』『文華秀麗集』、淳和天皇のときの『経国集』など勅撰漢詩集が編纂された。大学でも中国の歴史や文学を学ぶ紀伝道(文章道)が重視されるようになった。

問14 解答はウ(藤原時平)。『延喜格』を編纂した中心人物は藤原時平である。難しく考える必要はなく、『延喜格』が編纂された醍醐朝において活躍した藤原氏の人物を選択すればよい問題である。901年に右大臣藤原道真を策謀によって大宰府に左遷した左大臣藤原時平は、902年には最初の荘園整理令である延喜の荘園整理令を発し、同年班田の勅行をはかったほか、六国史の最後となつた『日本三代実録』の編纂や『延喜格式』の編纂などにも参画した。なお、『弘仁格式』(嵯峨天皇)・『貞觀格式』(清和天皇)・『延喜格式』(醍醐天皇)を三代格式といい、編纂時の天皇と合わせて覚えておくこと。ほぼ全体が現存するのは『延喜式』だけで、藤原時平を中心に編纂が始められ、時平の死後、その弟の忠平が中心になって完成させた。

### ③ 古代の仏教と仏教美術 【解答】

問1 聖明王

問2 飛鳥寺(法興寺)

問3 鞍作鳥(止利仏師)

問4 三経義疏

問5 薬師寺

- 問6 ア  
問7 ウ  
問8 エ  
問9 イ  
問10 修驗道  
問11 曼荼羅  
問12 往生要集  
問13 末法  
問14 定朝  
問15 中尊寺金色堂

### 【配点】 (30点)

問1～問15 2点×15

### 【出題のねらい】

6世紀半ばの仏教伝来から院政期にかけての仏教史と仏教美術について確認する問題である。古代の仏教・仏教美術史は頻出テーマでありながら、文化史学習の遅れから、知識の定着や理解が不十分な諸君も多く見受けられる分野である。本問では、問題文で、A=飛鳥期、B=白鳳期、天平期、C=弘仁・貞觀期、D=國風期、院政期の仏教の特徴を示しながら、それぞれの時期の仏教美術についての概略を記したので、これを用いてから仏教・仏教美術史の大きな展開を確認つつ、各設問やこの解説、さらに諸君が普段使用している教科書などを用いてしっかりと復習してほしい。

### 【設問別解説】

**問1** 解答は聖明王。仏教は6世紀半ばに百濟の聖明王から欽明天皇に經典や仏像などが送られたことにより、日本に公式に伝えられた。当時、高句麗や新羅からの圧迫を受けていた百濟は、日本との外交上の提携を重視しており、その関係の強化を目的に仏教をはじめとする諸文化を伝えたと考えられている。仏教が公式に伝えられた年代については、『上宮聖德法王帝説』や『元興寺縁起』では戊午年(538)とし、『日本書紀』では壬申年(552)としている。この時、仏教の受容をめぐって崇仏派の蘇我稲目と排仏派の物部尾輿の間でいわゆる崇仏論争が起こった。なお、仏教は、公式に伝えられる前から司馬達等ら渡来人によって信仰されていたとされる。

**問2** 解答は飛鳥寺(法興寺)。飛鳥寺(法興寺)は、蘇我馬子が飛鳥の地に建立した蘇我氏の氏寺であり、日本最初の本格的大寺院である。塔を囲んで3

つの金堂が配される飛鳥寺式伽藍配置をとり、奈良時代、平城京に移転し元興寺となつた。

**問3** 解答は鞍作鳥(止利仏師)。法隆寺金堂に安置されている釈迦三尊像は中国南北朝の様式を受容した仏像で、鞍作鳥(止利仏師)の作である。かつて飛鳥寺のあった場所に所在する寺院に残されている飛鳥寺釈迦如来像(飛鳥大仏)も同様の様式の仏像で、鞍作鳥の作といわれている。

**問4** 解答は三経義疏。仏教が呪術の一種として信仰され、その教理があまり理解されていなかった飛鳥時代にあって、聖徳太子(厩戸王)は高句麗から渡來した恵慈に仏教を学び、仏教を深く理解していたとされ、法華経・勝鬘経・維摩経の注釈書である『三経義疏』を著したと伝えられている。

**問5** 解答は薬師寺。天武天皇が皇后(後の持統天皇)の病氣平癒を祈願して創建した寺院は薬師寺である。当初、藤原京の地に建立されたが、平城京遷都にともない平城京内に移築された。白鳳期の建築様式を伝える東塔が現存しております、また、白鳳期の金堂薬師三尊像・東院堂聖觀音像のほか、天平期の絵画である吉祥天像も所蔵している。

**問6** 解答はア。唐の高僧鑑真是戒律を伝えたが、授戒の場である戒壇院を設けたのは唐招提寺ではなく、東大寺なので注意したい。ちなみに戒律とは僧尼が守るべき規範で、正式な僧尼になる際、授戒が必要とされ、鑑真により授戒制度が確立された。東大寺戒壇院と下野薬師寺・筑紫觀世音寺の戒壇の三つを天下三戒壇(本朝三戒壇)と称す。ウの玄昉は唐に留学したことや橘諸兄政権下で活躍したことは基本知識だが、僧侶としての活動は詳細な知識事項で、イ・エもかなり詳細な知識事項である。

**問7** 解答はウ(華嚴經)。藤原廣嗣の乱、疫病の流行、飢饉など政治・社会不安がつのるなか、聖武天皇は仏教の力で国家に安寧をもたらすという鎮護国家の思想に基づき、741年、国分寺・国分尼寺建立の詔を発し、さらに743年には大仏造立の詔を発した。大仏造立事業はこの詔が発された紫香楽の地で始まったが、その後、都が平城京にもどると奈良で行われることになり、東大寺の大仏として完成した。この大仏は盧舎那仏であり、華嚴經の本尊である。なお、大仏開眼供養が行われた752年には、すでに聖武天皇は譲位して娘の孝謙天皇に代わっていたことにも注意しておこう。

**問8** 解答はエ(東大寺法華堂不空羂索觀音像)。乾漆像は原型を作製し、その上に漆で布を塗り固めたもので、心木の上に粘土を盛って造られた塑像とと

もに天平期における代表的な造像技法である。なお、アの興福寺仏頭は白鳳期の金銅像、イの神護寺薬師如来像は弘仁・貞觀期の一木造の木像、ウの東大寺法華堂執金剛神像は天平期の塑像である。

問9 解答はイ。最澄が比叡山に独自の戒壇(大乘戒壇)の設置を願ったことに対し、南都寺院は激しく反発した(大乘戒壇は最澄の死後に設置が認められた)。これに対して最澄が反論を加えた著作は『三教指帰』ではなく『顕戒論』である。『三教指帰』は空海の著作で、仏教が儒教・道教よりすぐれていることを示し、仏門に入ることを宣言したものである。ア・ウ・エは正しく、基本事項なのでしっかり確認しておきたい。

問10 解答は修験道。修験道は、山伏(修験者)にみられるように、山岳修行によって呪力を体得するという実践的な信仰である。山伏はその呪力を用いて病気治療・除災など各種の祈禱を行った。古来、山岳は靈地として信仰の対象とされ、山岳修行で獲得した超自然的な力を用いて呪術を行う者が畏怖の対象となっていたが、密教が山中を修行の場としたことから、在来の山岳信仰と融合して、一つの信仰体系として修験道が成立した。

問11 解答は曼荼羅。曼荼羅は密教の世界を独特の構図で図示したもので、金剛界・胎藏界の両界曼荼羅などがある。

#### 【整理】

##### 《密教美術》

神護寺両界曼荼羅・教王護国寺両界曼荼羅

觀心寺如意輪觀音像

園城寺不動明王像(黄不動)

室生寺金堂・五重塔=山岳寺院の例

問12 解答は往生要集。10世紀半ば、市聖と称された空也が、京の市中で念佛を広めていた。これに少し遅れて登場した源信は、『往生要集』を著して浄土教を体系化した。これによって浄土教は上級貴族にまで広がっていった。ちなみに源信は比叡山の学僧で、横川の惠心院に住していたことから惠心僧都ともよばれる。

問13 解答は末法。末法思想は仏教的予言思想で、釈迦の死後、正法・像法の世を経て、仏法が衰えて世の中が乱れる末法の世が訪ると説いた。日本では永承7(1052)年が末法初年と考えられており、飢饉の発生・盜賊の横行・戦乱の続発といった現実の社会不安の深刻化もあって信じられるようになってしまった。この末法思想が浄土教の流行に拍車をかけた。

た。

問14 解答は定朝。浄土教が流行するなかで、上級貴族たちは、現世に極楽浄土を再現して往生の助けにしようと、盛んに阿弥陀堂を建設して阿弥陀如来像を安置し、来迎図などで堂内を飾った。このような阿弥陀如来像の大量の需要に応えた造像技法が、仏像の身体をいくつかの部分に分けて彫り、これを寄せ合させて造る寄木造である。この技法を完成させたのは定朝で、平等院鳳凰堂の阿弥陀如来像は彼の作品として知られる。

問15 解答は中尊寺金色堂。平安末期には聖とよばれる民間布教者の活動などによって、浄土教が地方に広まった。そのことを示す事例が中尊寺金色堂など各地に残る阿弥陀堂建築である。後三年合戦に勝利した藤原清衡は平泉を拠点に榮華を誇り、その地に中尊寺を創建したが、その阿弥陀堂が金色堂である。

#### 【整理】

##### 《浄土教美術》

##### 【国風文化期】

阿弥陀堂建築…平等院鳳凰堂(藤原頼通が建立)

阿弥陀如来像…平等院鳳凰堂阿弥陀如来像

定朝作、寄木造

来迎図…阿弥陀如来が臨終の人を迎えて来るさまを描く。高野山聖衆来迎図など

##### 【院政期】

中尊寺金色堂(陸奥一岩手県) 藤原清衡が建立

白水阿弥陀堂(陸奥一福島県)

富貴寺大堂(豊後一大分県)

## ④ 中世の朝幕関係

### 【解答】

問1 後白河法皇

問2 イ

問3 六波羅探題

問4 一定額の年貢納入を地頭に請け負わせる地

頭請や、荘園の土地や農民を地頭と折半して五いの領分に干渉しない下地中分を行った。

(59字)

問5 ウ

問6 緯旨

問7 持明院

問8 ア

問9 太政大臣

## 【配点】 (20点)

問1～問3	各2点×3
問4	4点
問5～問9	各2点×5

## 【出題のねらい】

鎌倉幕府成立期から室町幕府の足利義満の時代にかけての朝幕関係に関する問題文を用いて、政治史を中心的に問うた。鎌倉時代、京都の朝廷と鎌倉の幕府により二元支配が行われていた。承久の乱後、幕府は朝廷に対して優位に立ったが、幕府が一元的支配を確立したわけではなかった。しかし、建武の新政・南北朝の内乱を経て、室町幕府の足利義満政権期には、朝廷は存在するものの幕府が実質的に権力を一元化した。このような公武関係の推移にも注目しながら、鎌倉時代から室町時代前期にかけての政治史を確認しておいてほしい。

## 【設問別解説】

問1 解答は後白河法皇。源頼朝は、1183年、京都の後白河法皇と交渉して、その結果、いわゆる寿永二年十月宣旨が発された。この宣旨は、頼朝の東国支配権を事実上承認したもので、鎌倉幕府成立の重要な画期の一つとされている。

問2 解答はイ(『愚管抄』)。承久の乱の直前に、慈円が後鳥羽上皇の討幕計画を諫めるために著したともいわれる歴史書はイの『愚管抄』である。後鳥羽の周囲で討幕の動きが起こるなか、天台座主で後鳥羽の護持僧であった慈円は、公武の協調が歴史的道理にかなっていることを明らかにしようとして、道理の理念と末法思想にもとづき『愚管抄』を著した。慈円の兄の九条兼実の日記がウの『玉葉』である。なお、アの『吾妻鏡』は1180年の源頼政の挙兵から1266年の宗尊親王の帰京までの鎌倉幕府の歴史書。エの『神皇正統記』は南北朝期に北畠親房が南朝の立場から皇位継承のあり方を説いた歴史書である。

### 【整理】

#### 《鎌倉時代の歴史書》

- 『愚管抄』(慈円) 道理と末法思想から叙述
- 『吾妻鏡』 鎌倉幕府の歴史書
- 源頼政挙兵～宗尊親王帰京
- 『元亨叢書』(虎闘師録) 仏教史書

問3 解答は六波羅探題。承久の乱後、鎌倉幕府が京都守護にかえて設置したのが六波羅探題で、朝廷の

監視や京都の警備、および尾張(のち三河)以西の御家人の統轄などを行った。承久の乱で京に攻め上った北条泰時と時房が初代としてその任にあたった。なお、六波羅探題は、1333年、幕府にそむいて後醍醐天皇側についた足利尊氏らによって攻め落とされた。

### 【整理】

#### 《承久の乱の結果》

- 三上皇の配流 後鳥羽上皇(隠岐)
- 土御門上皇(土佐)
- 順徳上皇(佐渡)
- 天皇の廃位 仲恭天皇→後堀河天皇
- 上皇方所領没収 新補地頭設置(新補率法を適用)
- 六波羅探題設置

問4 解答は【解答】参照。論述問題を解くにあたって大切なことは、まず、設問の要求を的確につかみ、その要求に応じた解答を作成することである。ここでは地頭の莊園侵略に対して莊園領主がとった解決方法で、地頭との契約や話し合いにより行われたものを二つあげて論述することが求められている。したがって、地頭請と下地中分の二つを指摘しつつ、その内容について説明すればよい。

### 【答案作成のポイント】

#### 地頭請の指摘

内容：一定額の年貢納入を地頭に請け負わせる

#### 下地中分の指摘

内容：地頭と土地や農民を折半して互いの領分に干渉しない

問5 解答はウ(宗尊親王)。源実朝暗殺後、執権北条義時を中心とする幕府は、後鳥羽上皇の皇子の將軍就任を申請したが、討幕を計画していた後鳥羽に拒否された。そこで幕府は九条頼経を將軍として迎えた(摂家將軍)。頼経の跡はその子頼嗣が継いだが、執権北条時頼の時代、幕府は將軍頼嗣を廃し、念願の皇族將軍を擁立した。当時、朝廷では後嵯峨院政が行われていたが、後嵯峨上皇は自身の即位の際に幕府の後押しがあったこともあり、皇子宗尊親王の將軍就任を許可した。ア・イ・エはともに後醍醐天皇の皇子である。

問6 解答は輪旨。輪旨は天皇の命を奉じて蔵人が発給する文書で、後醍醐天皇は所領の安堵も輪旨によって行おうとした。しかし、所領支配の確保に輪旨が必要とされたことにより、不安を覚えた武士たちが、自己の所領支配の正当性を示す文書を携えて京都に殺到して所領訴訟を起こし大混乱となった。そ

うした状況は「二条河原落書」に「本領ハナル、訴訟人、文書入タル細葛」と記されている。膨大な所領訴訟を担当したのが雜訴決断所で、鎌倉幕府の引付を踏襲した機関であった。

問7 解答は持明院。鎌倉時代中期の後嵯峨院政以降、皇統が大覺寺統と持明院統の二つに分裂した。この両者は、対立して皇位を争うようになり、両統は幕府に働きかけ、幕府の力を背景にして事態を有利に導こうとした。幕府は両統から交互に皇位につく方式(両統迭立)を提示したが、大覺寺統から出た後醍醐天皇は、両統迭立によって自身の皇子に皇位を継がせることができないことへの不満もあって討幕を計画した。後醍醐天皇の建武政権を倒した足利尊氏が擁立した光明天皇は、持明院統から出た天皇である。

問8 解答はア(侍所)。室町幕府は檢非違使庁が有していた京都市中の警察権や裁判権を吸収したが、これを担当したのはアの侍所である。イの政所は室町幕府では主に財政を担当した。ウの記録所は建武政権において後醍醐天皇が政務の中心機関としたもの。エの問注所は室町幕府では主に記録の保管を担当した。なお、室町幕府の侍所・政所・問注所は鎌倉幕府の機関を踏襲したものだが、鎌倉幕府においては、侍所は御家人統制、政所は一般政務、問注所は裁判事務を主に担当していた。鎌倉幕府・建武政権・室町幕府の諸機関については混同しがちなので、正確におさえておこう。

問9 解答は太政大臣。太政大臣は太政官の長官で、律令官制の最高官である。足利義満は1394年、將軍職を子の義持に譲り、自らは公家官職の頂点にある太政大臣に就任して公武の頂点に立った。なお、武士として初めて太政大臣に就任したのは平清盛である。

# 地理 B

## ① 世界の地形と自然災害

### 【解答】

- 問1 大陸名—ゴンドワナ大陸 記号—イ・ウ  
問2 古期造山帯—A・D 新期造山帯—B・E  
問3 番号—① 記号—カ  
問4 シ・ル  
問5 北アメリカプレート、太平洋プレート  
問6 ④  
問7 X—① Y—ラグーン Z—トンボロ  
問8 あ—① い—③ う—④  
問9 ハザードマップ

### 【配点】 (25点)

- 問1 大陸名 2点、記号 1点  $\times 2 = 4$  点  
問2 ~問6 1点  $\times 11 = 11$  点  
問7 X 1点、Y・Z 2点  $\times 2 = 5$  点  
問8 1点  $\times 3 = 3$  点  
問9 2点

### 【出題のねらい】

地形全般に関する文章と世界地図をもとに、大地形、小地形の基本的理解と、地形と自然災害との関わりについて問うた。それぞれの地形の分布の特徴を地図から読み取り、なぜそのように分布するかを、地形の成因を踏まえながら考えよう。理屈を重視して学習すると、効率よく理解できる。また、地図帳の活用が大切である。地図帳を見ているうちに山脈名などの地名も自然に覚えてしまうものだ。各地形の事例がどこにあるかを地図帳で確認しながら、学習を進めよう。

### 【設問別解説】

- 問1 正解は、大陸名—ゴンドワナ大陸、記号—イ・ウ。

**重要** ゴンドワナ大陸が分裂し、アフリカ大陸、南アメリカ大陸、オーストラリア大陸、南極大陸の大部分と、アラビア半島、インド半島、マダガスカル島、セイロン島になった。

先カンブリア時代に形成された安定陸塊は、その後、合体や分裂を繰り返し、ウェゲナーの『大陸移動説』によると、古生代末期にパンゲアとよばれる

一つの大陸としてまとまとったのち、中生代初期に南北に分裂し、北側のローラシア大陸と南側のゴンドワナ大陸（ゴンドワナランド）となった。両大陸は、その後さらに分裂し、現在の大陸が形成された。アラビア半島（イ）とインド半島（ウ）は、ゴンドワナ大陸から分かれた陸塊がユーラシア大陸に衝突し、その一部となったものである。イベリア半島（ア）は大部分が古期造山帯、インドシナ半島（エ）は大部分が新期造山帯（東部の一部は安定陸塊）で、いずれもゴンドワナ大陸ではない（図①参照）。

問2 正解は、古期造山帯—A・D、新期造山帯—B・E。

### 地図帳で位置を確認しよう！ 大地形区分

#### ◆新期造山帯

**アルプス＝ヒマラヤ造山帯**：アルプス山脈、アトラス山脈、カフカス山脈、イラン高原、ヒマラヤ山脈、チベット高原

**環太平洋造山帯**：アンデス山脈、メキシコ高原、ロッキー山脈

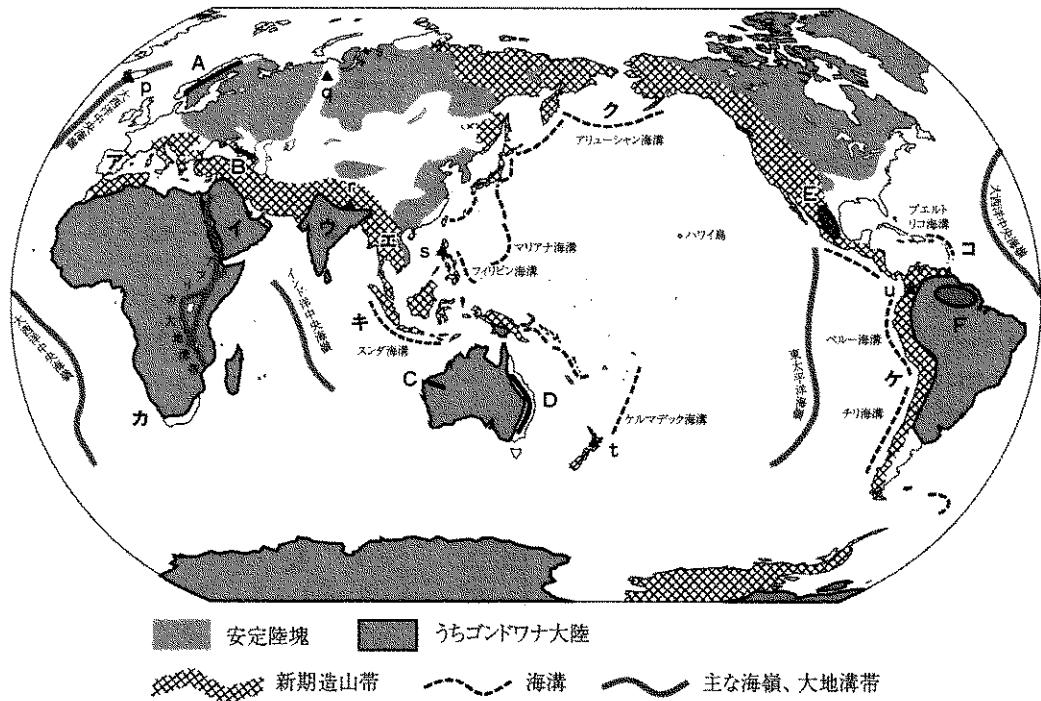
**◆古期造山帯** アパラチア山脈、ドラケンスバーグ山脈、グレートディヴィアイディング山脈、スカンディナヴィア山脈、ウラル山脈、テンシャン山脈

**◆安定陸塊** ブラジル高原、ギアナ高地、ラプラドル高原、デカン高原

新期造山帯は、主にユーラシア大陸南部に連なるアルプス＝ヒマラヤ造山帯と、太平洋を取り囲む形で連なる環太平洋造山帯に大別される。地図でその連なりを指でなぞり、位置をしっかりと覚えよう（図①参照）。B（カフカス山脈）はアルプス＝ヒマラヤ造山帯に、E（メキシコ高原）は環太平洋造山帯に位置する新期造山帯の山脈・高原である。アルプス＝ヒマラヤ造山帯と環太平洋造山帯以外の山脈の大半は古期造山帯で、図1ではA（スカンディナヴィア山脈）とD（グレートディヴィアイディング山脈）が該当する。オーストラリア北西部のC（ハマーズリー山脈）と南アメリカ北部のF（ギアナ高地）は、安定陸塊のゴンドワナ大陸に位置する。

古期造山帯の山脈は、古生代の造山運動によって形成され、その後、侵食作用を受け続けたため、一般に、なだらかで低い山脈（2,000m前後が多い）となっている。ただし、中国の内陸部には、テンシャン（天山）山脈のように、新生代の造山運動の影響で断層運動が生じて再隆起し、例外的に標高が高くなつたものもある。一方、新期造山帯には、中生

図① 安定陸塊、新期造山帯、海溝、海嶺、大地溝帯の分布



代末期から新生代（6500万年前～現在）の造山運動によって形成された山脈が連なり、標高が高く、起伏も大きい。

問3 正解は、番号一①、記号一カ。

**重要** 海溝はプレートのせばまる境界に、海嶺はプレートの広がる境界に形成される。

プレート境界には、広がる境界、せばまる境界、ずれる境界の3つのタイプがある。

プレートの広がる境界には火山や裂け目の溝が連なる。海底では、**海嶺**（例：大西洋中央海嶺、インド洋中央海嶺、東太平洋海嶺）とよばれる海底山脈が形成され、陸上では**大地溝帯**（例：アフリカ大地溝帯）とよばれる火山や地溝の連なる地形ができる（図①参照）。

せばまる境界のうち、海洋プレートが他のプレートの下に沈み込む境界には海溝が形成される。海溝は、大陸縁辺部の新期造山帯の山脈と弧状列島（島弧）に沿って分布する。図1中のケ（ペルー海溝、チリ海溝）はアンデス山脈に沿っており、キ（スンダ（ジャワ）海溝）、ク（アリューシャン海溝）、コ（ペルトリコ海溝）は、いずれも弧状列島（スンダ列島、アリューシャン列島、アンティル諸島）に沿っている。アフリカ大陸の東西にはせばまるプレート

境界がないので、大西洋側（カ地点）にもインド洋側にも海溝は分布しない（図①参照）。また、せばまる境界のうち、大陸プレート同士が衝突するところには、ヒマラヤ山脈やアルプス山脈などの新期造山帯の山脈が形成されるが、境界が陸上なので海溝はない。

ずれる境界は、2つのプレートが水平にずれ動く境界で、アメリカ合衆国西部のサンアンドreas断層がその代表例である。

問4 正解は、q・r。

**重要** 火山が多く分布する場所は、海嶺、大地溝帯（広がる境界）と、海溝に沿う新期造山帯の山脈、弧状列島（せばまる境界のうち沈み込む境界）である。

火山には、マントル物質がマグマとなって直接噴出するタイプと、せばまるプレートでプレートが破壊され融解してできたマグマが噴出するタイプの2つがある。

前者のタイプは、プレートの広がる境界にあたる海嶺と大地溝帯に分布し、図1では大西洋中央海嶺上のアイスランド島の火山（P：ヘクラ山）が該当する（図①参照）。

後者のタイプは、海溝に沿う新期造山帯の山脈と

弧状列島に多く分布し、図1では、フィリピン諸島の火山（s：ルソン島のピナトゥボ山）、ニュージーランド北島の火山（t：アルアペフ山）、アンデス山脈の火山（u：コロンビアのルイス山）が該当する。フィリピン諸島はフィリピン海溝に、アンデス山脈はペルー海溝とチリ海溝に沿っており、ニュージーランド北島の北東にはケルマデック海溝がある（図① 参照）。

プレートのせばまる境界のうち、大陸プレート同士が衝突する境界の山脈は、新期造山帯であるが火山が少なく、これに該当するヒマラヤ山脈とアルプス山脈には火山が分布しない。よって、図1では、r（ヒマラヤ山脈のチョモランマ（エヴェレスト）山）は火山ではない。また、古期造山帯の山脈にも火山は分布しないので、q（ウラル山脈のナロドニヤ山）も火山ではない。

なお、安定陸塊には火山は少ないが、プレートの広がる境界にあたる大地溝帯と、プレート内のホットスポットには、マントル物質が直接噴出するタイプの火山が分布する。大地溝帯の火山の例としてはアフリカ大地溝帯（キリマンジャロ山など）を、ホットスポットの火山の例としてはハワイ島（キラウエア山など）を覚えておこう。

問5 正解は、北アメリカプレート、太平洋プレート。

#### 地図帳で位置を確認しよう！

#### 日本列島付近の主な海溝とプレート

◆日本海溝、千島・カムチャツカ海溝、アリューシ

#### ヤン海溝

太平洋プレートが北アメリカプレートの下に沈み込む境界

◆伊豆・小笠原海溝、マリアナ海溝

太平洋プレートがフィリピン海プレートの下に沈み込む境界

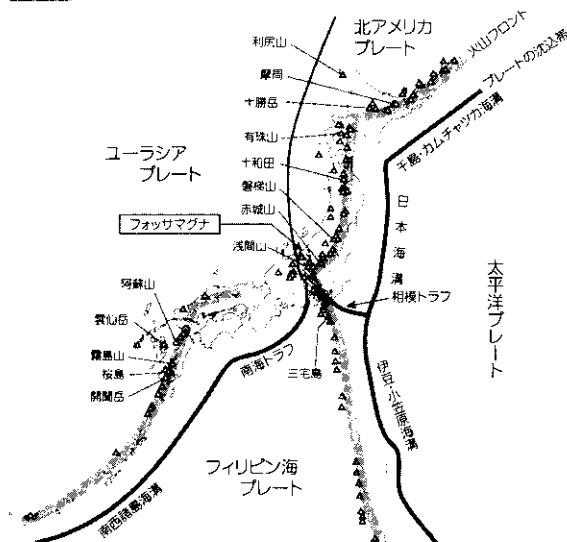
◆南西諸島海溝、南海トラフ、フィリピン海溝

フィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に沈み込む境界

日本列島は、2つの大陸プレート（ユーラシアプレート、北アメリカプレート）と2つの海洋プレート（太平洋プレート、フィリピン海プレート）の合計4つのプレートがせめぎ合う地域に位置し（図② 参照）、多くの火山が分布するとともに、世界的な地震多発地域である。東日本大震災を引き起こした地震は、北アメリカプレートの下に太平洋プレートが沈み込む境界にあたる日本海溝付近を震源としたものである。

日本列島は、フォッサマグナを境に東北日本と西南日本に大きく分けられ、このうち東北日本は北アメリカプレートに位置し、西南日本はユーラシアプレートに位置している。太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界には伊豆・小笠原海溝が、フィリピン海プレートとユーラシアプレートの境界には南西諸島海溝や南海トラフがある。南海トラフは海溝の延長線上にあるやや浅い海底の溝であり、東海地震、東南海地震、南海地震を引き起こす地震発生帶でもある。

図② 日本列島付近のプレートと海溝、火山



問6 正解は、④。

**違いに注意！** 地形を作る作用（**營力**）は、内的營力と外的營力に分けられる。

◆**内的營力**（地球内部の力）：火山活動と地殻運動（断層、褶曲など）

◆**外的營力**（太陽エネルギーが源）：風化、侵食・運搬・堆積

\* 侵食には、河食、氷食、海食（波食）、風食、溶食がある。

ドリーク（④）は、石灰岩が降水など二酸化炭素を含む水により溶けて（溶食を受けて）できた円形の小凹地で、カルスト地形の一種である。溶食は侵食作用の一種なので、カルスト地形は外的營力によってできた地形に分類される。

内的營力は、地形を作る地球内部の力で、火山活動や断層運動はその代表例である。カルデラ（①）は火山地形、褶曲山地（②）は褶曲運動により形成された山地、断層盆地（③）や断層山地は断層運動により形成された地形である。カルデラは、火口付近が噴火に伴う爆発や陥没により大きな凹地となつたもので、阿蘇山が代表例である。カルデラの大きな凹地を火口原といい、外輪山に囲まれている。火口原が湖となったものをカルデラ湖（十和田湖や洞爺湖）という。褶曲運動は地層が両側から圧されてたわむ運動で、一般に、褶曲の凸の部分（背斜部）が山地、凹の部分（向斜部）が盆地になる。新期造山帯や古期造山帯の山脈は褶曲山地である。地溝は断層盆地の一種で、地溝などに水が溜まると断層湖になる（問4参照）。断層山地には、両側に断層崖をもつ地壘（テンシャン山脈や木曾山脈）と、片側のみに断層崖をもつ傾動地塊（アメリカ合衆国カリフォルニア州のシエラネバダ山脈）がある。

外的營力には、風化、および侵食・運搬・堆積がある。風化は強い日射や寒暖差などにより岩石がもろくなることである。侵食・運搬・堆積が進むと、高いところが削られ、低いところが埋められるので、地表面が平坦化する。外的營力を受けてできた地形には、河川の侵食作用（河食）によるV字谷、河川の堆積作用による沖積平野（三角洲など）、氷河地形（氷食によるカールやU字谷、堆積作用によるモレーンなど）、風の堆積作用による砂丘、波の侵食作用による海食崖、沿岸流の堆積作用による砂州（問7参照）などがある。

問7 正解は、X—①、Y—ラグーン、Z—トンボロ。

**違いに注意！** 沿岸流が砂を堆積した地形には、砂嘴、砂州、陸繫砂州がある。

◆**ラグーン**（潟湖）：湾が砂州によって閉ざされてできた湖。

◆**陸繫島**：トンボロ（陸繫砂州）によって陸地と繫がった島。

ラグーン（潟湖、Y）は、入江（湾）が砂州などによって海と隔てられたものである。トンボロ（陸繫砂州、Z）は、海岸付近の島が砂州によって繫がって陸繫島となったときの、砂州の部分を指す。

河川が海に排出した土砂や、付近の海岸で侵食された土砂が、沿岸流により運ばれて堆積すると、砂浜や砂嘴・砂州が形成される。一般に半島の先端や岬などから、沿岸流の流れる方向に向かってくぼし型の砂嘴ができ、それが細長く伸びて砂州になる。図2の「波の橋立」が砂州で、潟湖の「青海湖」は、東側の「江尻」集落側との間に橋が架けられている部分で海と繫がっている。このことから、この砂州は西から東へ伸びてきたとわかり、沿岸流は西から東へ（X—①）流れているとわかる。

ラグーン（潟湖）は、日本では日本海、オホーツク海沿岸部に多くみられ、中海（島根県・鳥取県）やサロマ湖（北海道）が有名である。砂州の例は、中海を作った弓ヶ浜（夜見ヶ浜）と日本三景の1つとして知られる天橋立（京都府）を知っておこう。陸繫島の例は函館山（北海道）や潮岬（和歌山県）が有名で、トンボロには集落や市街地が形成されることが多い。図3でも、「通」の中心市街地がトンボロの上に広がっている。

使用した地図は、国土交通省国土地理院発行の25,000分の1地形図『仙崎』と『通』（ともに山口県）である。

問8 正解は、あ—①、い—③、う—④。

**違いに注意！** 津波と高潮

◆**津波**：海底地震などが原因。

◆**高潮**：台風などの強い低気圧の接近が原因。

地震が起きると、強い揺れにより建物が倒壊するほか、斜面崩壊、液状化現象、津波などが発生する。台風が襲来すると、強風や大雨による建物や農作物への被害がもたらされるほか、洪水、斜面崩壊、高潮などが発生する。よってあには液状化現象（①）が、共通するいには斜面崩壊（③）が、うには高潮（④）が入る。

液状化現象は、地盤が軟弱な地域（埋立地、干拓

地、旧河道など)で発生しやすい。津波は、海底地震などにより海水が急激に動くことで発生し、アラス海岸の湾奥で被害が大きくなりやすい。高潮は、熱帯低気圧(台風、ハリケーン、サイクロン)のような強い低気圧に吸い上げられた海水が、風で湾の奥に吹き寄せられて発生する。斜面崩壊(崖崩れや地すべりなど)は、集中豪雨や地震などで斜面が不安定になると発生する。

火碎流(カシワラフ)とは、噴火の際に火山灰などの火山噴出物が、高温のガスと混ざり合いながら山の斜面を高速で流れ落ちる現象である。1991年には長崎県の雲仙普賢岳で発生し多くの死者を出した。やませ(ヤマセ)は、初夏に、オホーツク海気団から東北地方太平洋側に吹き込む冷涼な北東風で、冷害の原因となる。

#### 問9 正解は、ハザードマップ。

地震や火山、洪水などの自然災害が発生した際の被害規模や広がりについての予測や、避難場所や避難経路を図化したものをハザードマップとよぶ。

自然災害の多い日本では、ハザードマップの作成は防災面から非常に重要である。ハザードマップは災害の原因そのもの(地震の発生地点や震度など)を予測するのではなく、あくまで考えられる災害に対する被害軽減を目的としたものである。ただ、東日本大震災のように想定外の規模の災害が起きた場合への対応や、住民への浸透度の低さといった問題も抱えており、今後の改善が急がれている。

## ② 西アジア・アフリカの自然環境と資源

### 【解答】

- 問1 1—南東貿易 2—外来河川 3—サヘル  
問2 ⑥  
問3 地点—X 要因—エ  
問4 湖沼—P 成因—キ  
問5 多種の常緑広葉樹が密林を形成している。  
(19字)  
問6 ①・⑥  
問7 (1) 記号—C 国名—ナイジェリア  
(2) 記号—F 国名—アンゴラ  
問8 サ—④ シ—⑤ ス—① セ—③ ソ—②

### 【配点】 (25点)

- 問1 2点×3=6点  
問2～問4、問6～問8 1点×16=16点

問5

3点

### 【出題のねらい】

西アジアとアフリカの気候・植生・地形などの自然環境や、地下資源について出題した。気候については地図帳などの図を見て、赤道を中心とした分布の様子を把握すること、地形は地体構造(大地形区分)をブレートテクトニクス理論と関連させて理解することがポイントである。地下資源の分布も地形や気候と関連づけて理解しよう。

### 【設問別解説】

問1 正解は、1—南東貿易、2—外来河川、3—サヘル。

1 「年中吹きつける」から、恒常風(年間を通じて一定方向から吹く風)であることがわかり、恒常風には、貿易風、偏西風、極東風の3つがあるが、「インド洋」から「マダガスカル島東部」へ吹くとあるから、低緯度地域で東から吹く貿易風と決まる。貿易風は、亜熱帯高圧帯から赤道低圧帯に吹く恒常風で、北半球では北東貿易風、南半球では南東貿易風となるが、マダガスカル島は南半球にあること、漢字4文字で答えなければならないことから、正解は南東貿易(風)となる(図③参照)。

#### 重要 恒常風：風向きの違いに注意！

◆貿易風は、亜熱帯高圧帯から赤道低圧帯に向かって吹く東風。

北半球では北東貿易風、南半球では南東貿易風となる。

◆偏西風は、亜熱帯高圧帯から亜寒帯低圧帯に向かって吹く西風。

◆極東風は、極高圧帯から亜寒帯低圧帯に向かって吹く東風。

マダガスカル島東部は、インド洋から吹いてくる南東貿易風に対して南北に走る山地の風上側に位置するため、年間を通して雨が多く、熱帯雨林気候となっている。このように、海からの風に対して山地の風上側で多雨となる降雨を地形性降雨という。地形性降雨の事例を次にまとめるので、地図帳掲載の世界の風系図と降水量分布図で確認しておこう。

#### 地図帳で位置を確認しよう！ 地形性降雨の事例

南東貿易風 マダガスカル島東部

北東貿易風 ハワイ諸島東部

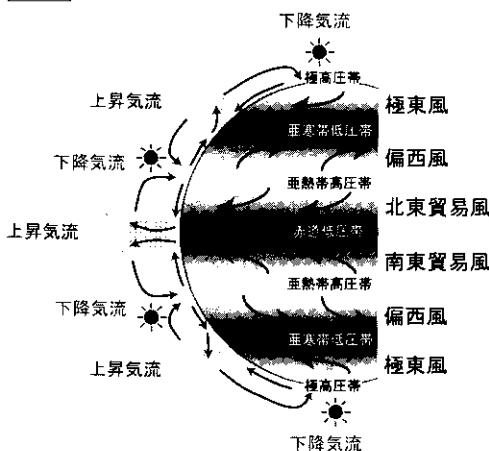
偏西風 イギリスのペニン山脈の西側

- (北半球) スカンディナヴィア山脈の西側  
アラスカ南岸からカナダ西岸
- 偏西風** ニュージーランド南島の西側
- (南半球) アンデス山脈の西側のチリ南部
- 南西季節風** 西ガーツ山脈の西側(マラバール海岸)
- (インド) ヒマラヤ山脈の南側(アッサム地方)

◆**内陸河川** 外洋に出口をもたない河川。末無川も内陸河川の一種。

◆**国際河川** 複数の国や国境を流れ、船舶の自由航行が認められている河川。

図③ 気圧帯と大気の大循環(恒常風)



2 濡潤地域を水源にもち、砂漠を貫流する河川を、外来河川という。西アジアのティグリス・ユーフラテス川、アフリカのナイル川とニジェール川(中流部が砂漠)が外来河川の例である。

#### 地図帳で位置を確認しよう！ 外来河川

- 西アジアのティグリス・ユーフラテス川  
アフリカのナイル川、ニジェール川(中流部が砂漠)  
南アジアのインダス川

なお、砂漠には、普段は涸れしており、豪雨のときだけ一時的に水流がみられる河川があり、これをワジ(涸れ川)という。また、砂漠には、途中で途絶える河川(末無川という)や、流出河川のない湖(内陸湖といふ)に注ぐ河川もあり、このように外洋に出口をもたない河川を内陸河川といふ。砂漠とは関係ないが、船舶の自由航行が認められている河川を国際河川といふ。これら、似て非なる語句の違いを区別し、混同しないようにしよう。

#### 違いに注意！ ○○河川

- ◆**外来河川** 濡潤地域に水源をもち、砂漠を貫流する河川。
- ◆**ワジ** 普段は涸れおり、豪雨のときだけ一時的に水流がみられる河川。

3 サハラ砂漠の南縁に広がる半乾燥地域をサヘル(アラビア語で「岸辺」の意)といふ。気候区はBS(ステップ気候)とAw(サバナ気候)にまたがり、植生は、短草草原(ステップ)や灌木(背丈の低い木)の混じった長草草原(サバナ)である。サヘルは沙漠化が進行している地域の代表的事例である。その自然的要因(降雨をもたらす赤道低圧帯がこの地域まで北上しない年に生じる干ばつ)と人为的要因(人口増加に伴う過放牧・過耕作・薪炭材の過伐採)を整理しておこう。

問2 正解は、⑥。

#### 統計図表の判定：ここに注目！ 各大陸の高度別面積割合

- ◆アフリカ…………台地状の大陸で、高いところも低いところもありない。200m未満の低地が狭く、2,000m以上の高地も狭い。
- ◆ヨーロッパ…………200m未満の低地が50%強だが、2,000m以上の高地が少しある。
- ◆オーストラリア…………大部分が500m未満で、2,000m以上の高地はほとんどない。
- \*平均高度は、アジア、アフリカが高く、ヨーロッパとオーストラリアが低い。

アフリカは台地状の大陸で、高いところも低いところも狭いので、200m未満の低地の割合が最も小さい⑥を選ぶ。

アフリカは平均高度が750mと、アジア(960m)に次いで高い。アジアの平均高度が高いのは、チベット高原など3,000m以上の高地の割合が大きいためである(よってアジアは⑤)が、アフリカの平均高度が高いのは、海岸部の低地が狭く、200m未満の低地の割合がきわめて小さいからである。

他の判定では、200m未満の低地が50%を超え、かつ2,000m以上の高地が少しある①がヨーロッパで、高地がほとんどない②がオーストラリアである。ヨーロッパは、東部を中心とする平原が広がるので低地の割合が大きいが、南部にアルプス山脈など新期造山帶の山脈が走っているので、2,000m以上の高地もある程度の割合がある。残る③・④は、200m未満が広い③がアマゾン盆地などの低地が広がる南アメリカで、狭い④が北アメリカとなる。

問3 正解は、地点X、要因一エ。

**地図帳を確認しよう！ アフリカの地形**

アトラス山脈（新期造山帯）とドラケンスバーグ山脈（古期造山帯）を除くと大部分が安定陸塊である。プレートの広がる境界の走る東アフリカは、安定陸塊であるが、標高が高く、キリマンジャロ山（アフリカ最高峰）などの火山や、タンガニーカ湖などの断層湖が連なる。

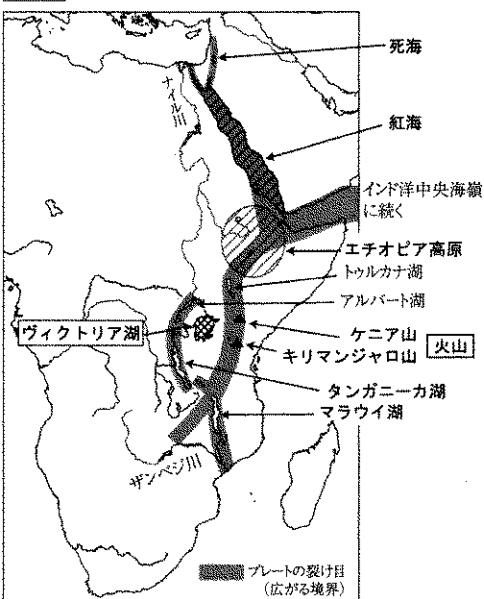
アフリカ最高峰はXのキリマンジャロ山（5,895m）で、その成因は火山活動である。

アフリカの大部分は安定陸塊で、台地状の大陸であるが、東部は、プレートの広がる境界にあたるアフリカ大地溝帯が走り、マントル物質が上昇しマグマとなって噴出した火山が分布する。東アフリカの火山には5,000mを超えるものがあり、北西部の新期造山帯のアトラス山脈（最高峰は4,000m強）よりも高い。

W（アハガル高原で最高峰は3,000m弱）とY（マグアスカルの脊梁山脈で最高峰は2,500m強）は安定陸塊の侵食から取り残された山地、Z（ドラケンスバーグ山脈で最高峰は3,500m弱）は古期造山帯で、いずれも4,000mに満たない。

問4 正解は、湖沼—P、成因一キ。

図④ アフリカ大地溝帯



アフリカ大地溝帯は、北は死海付近から始まり、紅海、エチオピア高原、タンガニーカ湖やマラウイ湖を経て、南はザンベジ川河口付近まで続いている

（図④ 参照）。アフリカ大地溝帯に沿う湖沼は地溝に水の溜まった断層湖で、紅海は地溝に海水が入ってできた海である。このうち、死海（P）は湖面標高が海面よりも400mほど低い（湖岸は陸上で世界最低）。乾燥地域に位置する死海は海に出口をもたない内陸湖で、湖に注ぐヨルダン川は内陸河川である。湖からの蒸発量が多く、塩分濃度がきわめて高い湖としても知られる。

Qはガーナのヴォルタ湖で、ヴォルタ川をアコソンボゲムで堰き止めて造った人工湖である。Rはヴィクトリア湖（アフリカで面積最大）で、アフリカ大地溝帯はこの湖を挟んでその両側を通過しており、両側から圧されてできた窪地に水が溜まつもので、断層湖ではない。S（タンガニーカ湖）は死海と同じく地溝に水が溜まってできた断層湖で、水深はアフリカ最大（世界ではシベリアのバイカル湖に次いで2位）であるが、高原に位置し、湖面標高は高い。

問5 正解は、【解答】参照。

**論述の Point 植生の説明の手順**

◆草原、森林の違い（樹林の有無・多少）を示す。

◆樹林が少ない場合

草原かツンドラか。

草原の場合

□疎林の混じる熱帯草原（サバナ）か、混じらない温帯草原（プレーリー、ステップ）か。

□短草草原（ステップ）か、長草草原（プレーリー）か。

◆森林の場合

□広葉樹か針葉樹か。

□広葉樹の場合、常緑か落葉か。

□樹種が多い樹林か樹種が单一の純林か。

□その他：疎林か密林か、樹高が揃っているか不揃いか。

\*字数が多いときは、気候の特徴を書き加える。

熱帯雨林の説明	タイガの説明
常緑広葉樹 樹種が多い、密林 樹高が不揃いで多層構造	針葉樹 純林 樹高が揃っている

地域Mはコンゴ盆地で、赤道直下に位置し、年間を通じて赤道低圧帯の影響を受けるため、気候区は

年中高温多雨の熱帯雨林気候（Af）、植生は熱帯雨林である。熱帯雨林の特徴は、亜寒帯に分布するタイガとの違いを念頭におき、その特徴を説明するとわかりやすい。「常緑広葉樹」、「樹種が多い」などを盛り込み、字数内で簡潔に説明しよう。

問6 正解は、①・⑥。

アフリカ北部で砂漠気候となっていないのは、北西部のアトラス山脈以北の地中海性気候（Cs）の地域（①）だけで、リビア・エジプトは地中海沿岸まで砂漠が広がり、東部の紅海沿岸やソマリアも砂漠気候となっている。一方、アフリカ南部で砂漠となっているのは大陸の西岸から内陸にかけての地域で、東岸（⑥）にはみられない（図⑤ 参照）。

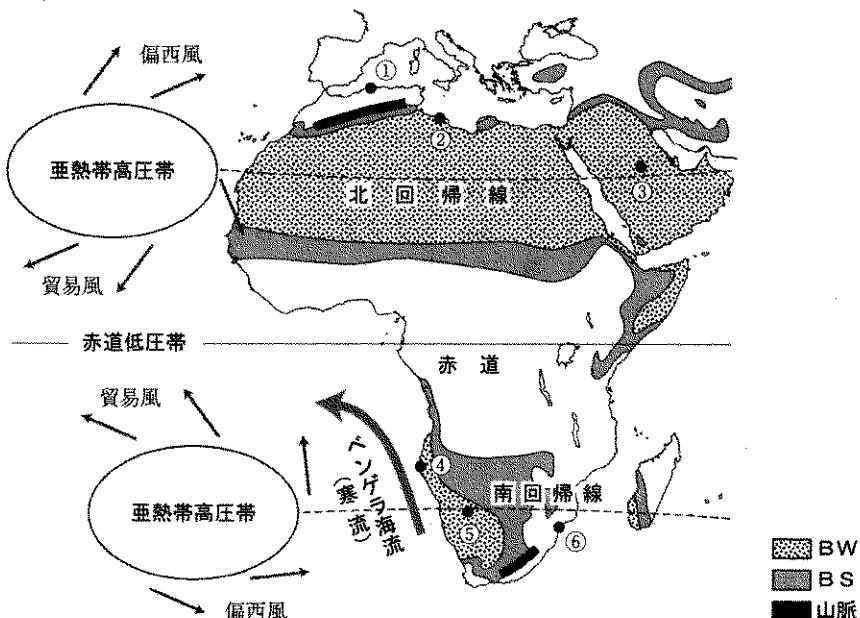
西アジア・北アフリカの砂漠を、主な成因により分類すると、**亜熱帯高圧帯の影響**により形成される回帰線付近の砂漠（亜熱帯砂漠）と、**寒流の影響**で

形成された低緯度大陸西岸の海岸砂漠に分けられる。北回帰線付近のサハラ砂漠とアラビア半島の砂漠、および、南回帰線付近のカラハリ砂漠は亜熱帯砂漠であり、②はサハラ砂漠に、③はアラビア半島の砂漠に、⑤はカラハリ砂漠に位置する。アフリカ南西岸のアンゴラ海岸からナミブ砂漠にかけては、寒流のベンゲラ海流の影響による海岸砂漠であり、④はここに位置する。

問7 正解は、(1)記号—C、国名—ナイジェリア、(2)記号—F、国名—アンゴラ。

(1)(2)はOPEC（1960年結成）の加盟国なので、アルジェリア（A）、イラク（B）、ナイジェリア（C）、アンゴラ（F）のいずれかであり、非産油国（D）、コンゴ民主共和国（E）ではない。(1)は、「1971年にOPECに加盟」とあるので、原加盟国（イラク（B）ではなく、第一次石油

図⑤ 西アジア・アフリカにおけるBW・BSの分布



#### 重要 砂漠の分布と成因

分布		成因	例
緯度10~20度 (大陸西岸)	低緯度の大陸西岸 (海岸砂漠)	寒流：ペルー海流 ベンゲラ海流	アタカマ砂漠 ナミブ砂漠
緯度20~30度 (大陸東岸を除く)	南・北回帰線付近 (亜熱帯砂漠)	亜熱帯高圧帯に年中 覆われる	サハラ砂漠 カラハリ砂漠
緯度40~50度	ユーラシア大陸内陸部 (内陸砂漠)	隔海度が大きい	ゴビ砂漠 タクラマカン砂漠
	アルゼンチン南部 (雨陰砂漠)	偏西風に対して山地 の風下	パタゴニア台地

危機（1973年）以前の参加国のアルジェリアかナイジェリアで、南東部に油田地帯があり、民族対立から「内戦」となった国なので、ナイジェリアである。（2）は「2007年にOPECに加盟」とあるので、新しい加盟国のアンゴラ（F）である。

（1）ナイジェリアの油田地帯は、南東部のニジェール川河口付近である。イギリスからの独立後、石油利権も絡んだ民族対立が続き、1967年に南東部に居住するキリスト教徒のイボが独立を宣言し、他の民族（北部に居住するイスラム教徒のハウサ、南西部のヨルバなど）との間でビアフラ内戦が起きた。

（2）アンゴラは1975年にポルトガルから独立したが、その後内戦が続き、これが終結することで経済開発が進むようになった。資源確保を目的とする中国からの投資が多く、原油の最大の輸出先は中国である。

#### 発展学習 OPEC（1960年結成）原加盟5か国 ペネズエラ、サウジアラビア、イラク、イラン、クウェート

問8 正解は、サー④、シー⑤、スー①、セー③、ソー②。

サ（●）は、コンゴ民主共和国南部からザンビアにかけてのカッパーベルトに産地があるので銅鉱である。シ（▲）は、ギニアに産地があるので、熱帯で多く産出するボーキサイトである。ス（■）は、南アフリカ共和国とガーナで産出するので金である。南アフリカ共和国人口最大都市のヨハネスブルグは、19世紀半ばに金鉱が発見され発展した都市である。ガーナはかつて「黄金海岸」とよられ、古くから金の産地として知られていた。セ（◇）は、コンゴ民主共和国、ボツワナ、ナミビア、南アフリカ共和国などに分布するので、ダイヤモンドである。

残るソ（▽）は、南アフリカ共和国のドラケンスバ

ーク山脈付近に産地があることに着目し、古期造山帯に埋蔵の多い石炭とする。表①も参考にし、決め手となる国や産地を覚えておこう。

### ③ 農林水産業

#### 【解答】

- 問1 a-⑥ b-① c-⑦ d-① e-②  
 問2 1-センター・ピボット 2-棚田  
 3-冷凍船  
 問3 m-フランス n-ベトナム  
 問4 冷涼な気候とやせた土壤で穀物の生産が困難な（21字）  
 問5 A-インド C-ブラジル D-カナダ  
 問6 番号-① 正しい語句-潮目  
 番号-③ 正しい語句-遠洋漁業

#### 【配点】（25点）

- |       |          |
|-------|----------|
| 問1、問5 | 1点×8=8点  |
| 問2、問3 | 2点×5=10点 |
| 問4    | 3点       |
| 問6    | 2点×2=4点  |

#### 【出題のねらい】

第1次産業に分類される農林水産業は、人間の生産活動のなかでも自然環境の影響を強く受けるものであり、自然と人間生活を中心的に扱う地理では出題頻度の高い分野である。本問では3つの農業地域について、その自然条件や生産性、集約度などの特徴、林業については統計から見た国別の特徴、水産業については漁場の条件や漁獲量の推移などを扱った。いずれも基本的内容であり、確実に得点してほしい。

表① 地下資源の生産上位国 数字は世界の生産に占める割合（%）

金鉱		ダイヤモンド		ボーキサイト		銅鉱		石炭	
中国	13.6	ロシア	24.8	オーストラリア	27.0	チリ	33.9	中国	54.2
オーストラリア	9.7	ボツワナ	23.7	中国	17.4	ペルー	7.8	インド	9.7
アメリカ合衆国	8.8	コンゴ民主共和国	14.4	インドネシア	14.3	中国	7.5	アメリカ合衆国	8.6
ロシア	7.5	カナダ	8.0	ブラジル	12.3	アメリカ合衆国	6.9	オーストラリア	5.4
南アフリカ共和国	6.8	アンゴラ	6.7	インド	7.3	インドネシア	5.5	南アフリカ共和国	4.6
ペルー	6.2	ジンバブエ	6.7	ギニア	6.8	オーストラリア	5.4	ロシア	3.8
カナダ	3.6	オーストラリア	5.6	ジャマイカ	3.9	ロシア	4.4	カザフスタン	1.7
インドネシア	3.6	南アフリカ共和国	5.2	ロシア	2.3	ザンビア	4.3		

太字はアフリカ。統計年次は、石炭が2009年、銅鉱が2010年、他は2011年。「世界国勢団会」により作成。

## 【設問別解説】

問1 正解は、a - ⑥、b - ①、c - ⑦、d - ①、e - ②。

アは北アメリカのプレーリー、アルゼンチンのパンパ、ウクライナ付近、オーストラリア南東部などで、小麦（a）を大規模生産する企業的穀物農業が行われる地域である。

小麦は、冷涼でやや乾燥した気候が適し、年降水量500mm前後で（a - ⑥）、肥沃な黒色土に恵まれる地域に大規模な産地が広がる。小麦は中国、インド、フランスなど、これ以外の地域でも広く生産されているが、企業的穀物農業では、栽培に適した地域で単一耕作（モノカルチャー）が行われるため、大型の農業機械を用いてわずかな人数で広大な土地を耕作することが可能となる。アメリカ合衆国やカナダ、オーストラリア、アルゼンチンなど新大陸の大規模農業はヨーロッパからの移民によって始められた自作農が多いが、ウクライナからカザフスタンの北部、ロシアの西シベリア南部にかけては、旧ソ連時代に社会主義体制のもとで集団農場や国営農場によって大規模な機械化が進み、現在は民営化された農業企業による経営が行われている。

農業地域の特徴を示す際に用いられる「生産性」は、一定の労働量や農地面積あたりの生産量を示す指標であり、労働量あたりの生産量は労働生産性、面積あたりの生産量は土地生産性を示す。したがって、企業的穀物農業は労働生産性がきわめて高い（b - ①）。

イは、モンスーンアジアの多雨地域にみられ、主に水田で米（い）を栽培するアジア式稻作農業（集約的稻作農業）地域である。米（稻）は生育期に高温多雨であることが必要で、夏季に低緯度側の海洋

からの季節風が卓越するモンスーンアジアに産地が集中している。自然降水に依存する場合は年降水量1000mm以上（c - ⑦）が適している。

生産性とともに農業地域の特徴を示す指標に「集約度」がある。生産性が産出量に注目した概念であるのに対し、集約度は投入量に注目した概念で、一定の農地に投入された労働量は労働集約度、農薬・肥料・農業機械などの投入量は資本集約度とし、投入量の多いものは集約的、少ないものは粗放的とする。モンスーンアジアの稻作農業は、狭い耕地に多くの人手をかけて行われることから労働集約的（d - ①）で、単位面積あたりの生産量は多く、土地生産性は高い（e - ②）が、農民1人あたりの生産量は少なく、労働生産性は低い。

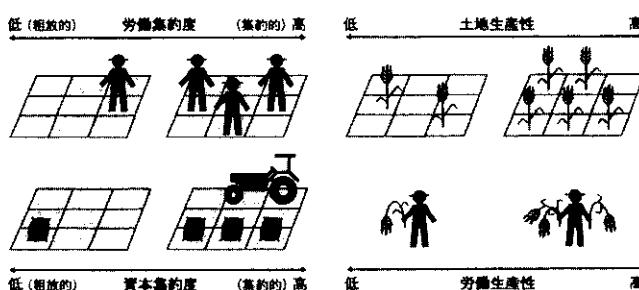
問2 正解は、1—センターピボット、2—棚田、3—冷凍船。

1 アメリカ合衆国のロッキー山脈東麓のグレートプレーンズは年降水量が500mmを下回る乾燥地域であるが、ロッキー山脈の融雪水によって長い時間かけて涵養された大規模な地下水層がみられ、これを揚水し回転する長いアームをもったセンター・ピボットとよばれる巨大な散水装置による灌漑が行われている。近年は世界的に食肉の消費が増えているため、小麦のほか、とうもろこしや大豆など飼料作物を大規模生産するものもみられる。

2 水田は水を張った耕地のため、主要な稻作地域は氾濫原やデルタ（三角州）など河川下流部の低平な沖積平野であるが、丘陵など傾斜地でも傾斜を利用して山地から水を引き入れやすいことから、古くから稻作が行われてきた。水を張るために、1枚の水田は水平にする必要があり、斜面に手を加え、階段状の田が作られてきた。これを棚田とい

### 違いに注意！ 集約度と生産性

- ◆ モンスーンアジアの農業は、労働集約的で土地生産性は高いが労働生産性は低い。
- ◆ 新大陸の企業的農業は、大規模機械化農業で労働生産性は高いが土地生産性は低い。



### ◀【集約度】

単位面積あたりの耕地に、どれだけの労働力や資本を使っているかを示す尺度。（投入量に注目した概念）

### 【生産性】

耕作した土地や、投入した労働力1単位あたりで、どれだけの収穫があるかを示す尺度。（産出量に注目した概念）

う。

3 ウはヨーロッパ北部や北アメリカの五大湖周辺にみられ、乳牛を飼育し牛乳とその加工品であるバター・チーズなどを生産する酪農地域である。生乳は鮮度が重要であるため、酪農は大消費地の近くに発達することが多く、ある程度保存が可能なバター・チーズなども、南半球から船で赤道を越えて輸送することは困難であった。しかし、19世紀後半に船倉に巨大な冷蔵庫を備えた冷凍船（冷蔵船）が発明されると、大市場から離れた南半球のオーストラリアやニュージーランドでも大規模な酪農が発達した。また、冷凍船の発明は、南半球の企業的牧畜による肉牛生産の拡大にもつながった。

問3 正解は、m—フランス、n—ベトナム。

すでにみたように、(a)が小麦、(i)が米であることは容易に判定できる。問われているのはそれぞれ輸出第2位の国名である。農産物の生産や貿易の統計値は年によって変動するので、順位まで覚えるのは大変であるが、本問では輸出の上位5か国うち他の4か国は国名が明らかになっているので、それぞれ当然上位にあるはずの国が思いつけばよい。

(a)の小麦の輸出上位国には、企業的穀物農業が発達する新大陸のアメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、ロシアが示されているが、これ以外で小麦の輸出国として重要なのが、EU加盟国中最も国土面積が広く、EU最大の農業国でもあるフランスである。フランスの小麦輸出が多いのは、EU域内に大きな消費市場をもつためである。よって、m—フランスと判断する。小麦の生産量は1位中国、2位インドだが、両国は人口が多く国内消費が多いため、小麦の輸出量は少ない。

(i)の米の輸出では、タイが世界1位を占めてきたが、そのタイを上回る生産量があり、近年輸出量が増加したのが、ベトナムとインドで、n—ベトナムと判断する。ベトナムは1980年代に実施されたドイモイ政策のもとで、集団農業生産体制から個々の農家を経営単位とする生産請負制に移行し、農民の生産意欲が向上し米の生産量が増え、自給を達成するとともに、1990年代には外貨収入の増加をめざす政府の積極的な輸出政策のもとで輸出を拡大した。インドは、緑の革命による高収量品種の導入、灌漑設備の普及などにより1980年代には自給が達成され、1990年代半ばから余剰米の輸出が拡大した。

問4 正解は、【解答】参照。

空欄×には、北アメリカの五大湖周辺、ヨーロッパ北部の酪農地域に共通する特徴が入るが、ポイントは「穀物」の使い方にある。両地域とも高緯度にあり冷涼な気候であることに加え、氷期には大陸氷河（氷床）で覆われたため、表土は削られ腐植に乏しいやせた土壤で、穀物の生産が困難な地域であることを指摘すればよい。穀物栽培には適さない地域でも、牧草は得られることから乳牛を飼育し、牛乳やバター、チーズなどを生産する酪農は可能である。また、両地域とも産業革命以降、工業化が進み都市が発達した地域であり、大消費地に近いことも酪農が発達した要因であるが、これは問題文中に示されているので、ここで改めて述べる必要はない。

問5 正解は、A—インド、C—ブラジル、D—カナダ。

木材はその用途から、薪炭材と用材に分けられる。薪炭材は燃料として利用されるものを指し、用材は建築用、家具木工用、パルプ用、合板用などを含む。一般に先進国では用材の割合が高いが、発展途上国では木材の多くは薪炭として利用してきた。木材の伐採量の統計には針葉樹、広葉樹の割合も示されているが、高緯度にある先進国は針葉樹の割合が高く、低緯度にある発展途上国は広葉樹の割合が高い傾向にある。

#### 先進国と発展途上国との違いに注意！ 木材伐採高の内訳

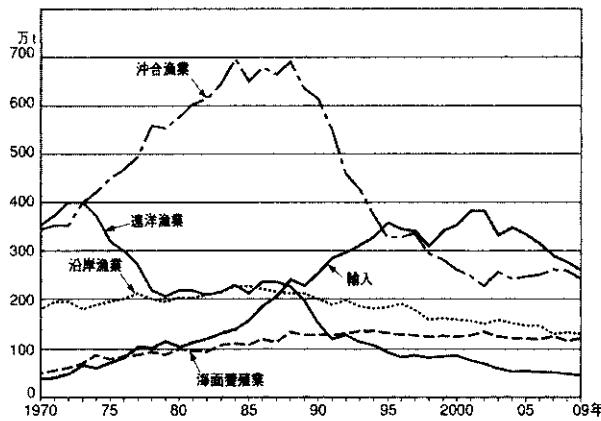
- ◆先進国（高緯度）：冷帯林→針葉樹・用材中心  
ただし、日本など温帯林でも人工林は針葉樹が多い。
- ◆発展途上国（低緯度）：熱帯林→広葉樹・薪炭材中心  
ただし、マレーシアやインドネシアは熱帯林でも合板用（ラワン材）の用材が多い。

そこで、表2を見てみよう。木材伐採高第1位のA国と第2位のB国は、伐採高が接近しており、これだけで判断するのは難しいが、A国は用材の割合、針葉樹の割合とも低いことから発展途上国と考えられ、インド、エチオピアのいずれかになる。薪炭材は国内消費が中心であり、圧倒的に人口の多いインドのほうが薪炭の需要も多いので、木材伐採高の多いA国（E国の約3倍の伐採高）をインドと判断する。同様の傾向を示すE国がエチオピアである。B国は、用材、針葉樹の割合の高さから先進国で、人口の多いアメリカ合衆国である。同様の傾向を示すD国がカナダである。残ったC国はその森林

**時期の違いに注意！ 日本の漁業形態別の漁獲量の変化**

◆1970年代：石油危機・200海里問題→遠洋漁業の衰退

◆1990年代：いわし類の不漁→沖合漁業の衰退



率の高さから、赤道直下に広大な熱帯雨林の広がる  
ブラジルである。経済成長とともに用材の割合も高  
まっている。なお、インドネシアが針葉樹がほとんど  
みられないにもかかわらず用材の割合が比較的高いのは、広葉樹ではあるが加工しやすく、合板の材  
料に利用されるラワン材（タバガキ科）が多いいた  
めである。表2には示されていないがマレーシアも  
同様の傾向を示す。

問6 正解は、番号-① 正しい語句・潮目、番号-

③ 正しい語句-遠洋漁業。

①誤り。寒流と暖流が出会う部分は潮目（潮境）とよばれる。日本近海では銚子沖から三陸沖にかけての海域に日本海流（黒潮）と千島海流（親潮）の潮目が形成される。潮流は海の干満によっておこる海水の流れのこと、1日に2回ずつ流れの方向が逆になる。鳴門海峡は潮流が激しく、これによって生じるのが渦潮である。②誤り。海面漁業は、日帰りできるような沿岸部で行われる沿岸漁業、日帰りは困難であるが主に自国の排他的経済水域（200海里水域）内で行われる沖合漁業、主に自国の200海里水域の外の公海や他国の200海里水域まで出かけて行う遠洋漁業に分けられる。1970年代に衰退したのは沖合漁業ではなく、遠洋漁業である。遠洋漁業は遠くの海域まで出かけるため多くの燃料を使用するが、1970年代の石油危機による原油価格の高騰は燃料コストの上昇につながった。また、好漁場は大陸棚など陸地に近い海域に形成されることが多いため、遠洋漁業でも他国の沿岸で行われるものが多くあったが、200海里の排他的経済水域を設定する国

が増え、こうした水域から閉め出されたことも遠洋漁業の衰退につながった。日本の漁獲量は、遠洋漁業衰退後も沖合漁業の増加によって増加したが、1990年代に沖合漁業の漁獲の多くを占めていたいわしが不漁となり、漁獲量は大きく低下した（上図参照）。

#### 4 北アメリカ地誌

##### 【解答】

問1 X-フランス Z-スペイン

問2 あ-13 い--50

問3 a-② b-⑤

問4 A-③ B-④ C-⑨ D-⑦ E-⑥

問5 ア-ア巴拉チア イ-サンベルト  
ウ-シリコンヴァレー エ-NAFTA

問6 アメリカ合衆国-⑤ 日本-①

問7 メガロポリス

問8 メキシコ-R 日本-S

##### 【配点】 (25点)

問1～問4、問6、問8 1点×15=15点

問5、問7 2点×5=10点

##### 【出題のねらい】

アメリカ合衆国を中心とする北アメリカの地誌問題である。問1～2など北アメリカ固有の事項については、学習進度を考慮して、中学レベルの内容にとどめ

た。問3～8は、地形、民族、鉱工業、都市、交通、貿易、国家群など系統地理で詳しく扱う内容なので、標準的な内容を出題した。地誌は系統地理の後で学習するが、地誌問題には地誌を学習していなくてもできる問い合わせが多い。系統地理と地誌は相互に関連しているからである。系統地理は、具体的な地域の事例に即しながら学習しよう。地誌は、系統地理で学習した理屈をあてはめながら学習しよう。いずれの学習でも地図帳をおおいに活用しよう。

### 【設問別解説】

問1 正解は、X—フランス、Z—スペイン。

北アメリカへは、東からイギリス(Y)が、南からスペイン(Z)が、北東からフランス(X)が侵入し、植民地としていった(図⑥参照)。このうちフランス人は、セントローレンス川を遡って五大湖地方に入ったのち、ミシシッピ川流域の広大な地域を当時のフランス王ルイ14世に因んでルイジアナと命名し、フランス植民地とした。カナダのケベック州(問4のA)にフランス系住民が多いのも、アメリカ合衆国のミシシッピ川最下流部の州名がルイジアナ州であるのも、五大湖周辺からミシシッピ川流域にフランス由来の地名がみられる(デトロイト、セントルイス、ニューオーリンズなど)のも、この地域がフランス領であったためである。

**発展学習 アメリカ合衆国の購入領土**  
◆フランスから購入：ミシシッピ川流域のルイジアナ

ナ  
◆ロシアから購入：アラスカ

問2 正解は、あ—13、い—50。

アメリカ合衆国は、イギリス植民地であった東部の建国13州が建国宣言し、独立戦争をへて成立した。その後、割譲・購入・併合など(例：フランスからのルイジアナ購入、メキシコから独立したテキサスの併合、ロシアからのアラスカ購入)により領土を拡大した。新領土が州になることにより州の数も増え、49番目のアラスカ州、50番目のハワイ州を加えて、現在、50州からなる連邦制の共和国である。

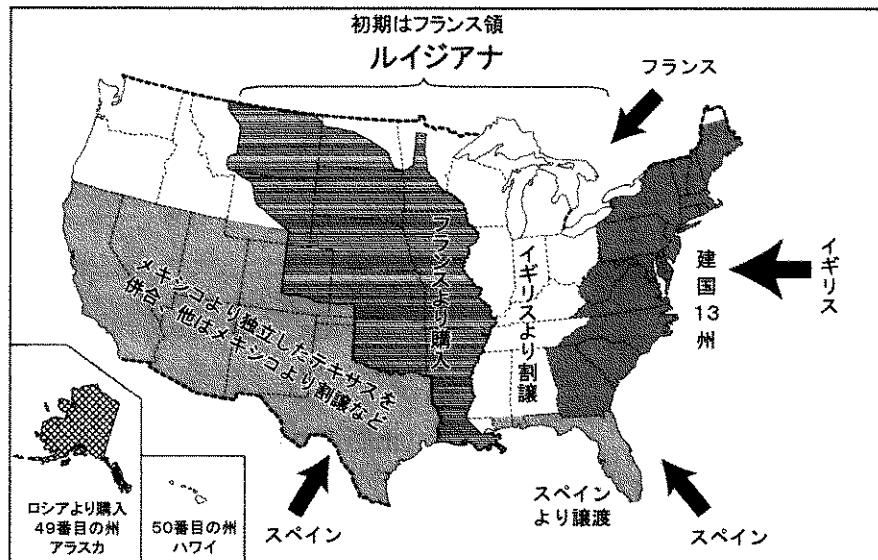
問3 正解は、a—②、b—⑤。

南北アメリカの先住民は、氷期にユーラシア大陸から移動したモンゴロイドのアメリカインディアン(ラテンアメリカではイシティオとよぶ)と北極海沿岸を中心に居住するイヌイット(a—②)である。アボリジニー(①)はオーストラリアの先住民、サーミ(③)はスカンディナヴィア半島北部の先住民である。

多文化主義(b—⑤)とは、多民族からなる社会において、それぞれの民族集団が対等な立場で扱われるべきだという考え方で、欧米諸国でこれを最も早く政策に適用したのはカナダである。

イギリスから独立したカナダは、現在もイギリス連邦加盟国で、イギリス国王を国家元首としている。当初は、イギリス系住民中心に建国され、公用

図⑥ 北アメリカの植民地化とアメリカ合衆国の領土の拡大



語も英語のみであった。ケベック州（問4のA）の人口の80%を占めるフランス系住民はこれを不満とし、分離独立運動が活発になった。そこで連邦政府は、英仏2文化を公平に扱うため、1960年代に、連邦の公用語を英語とフランス語とし、国旗も、イギリス国章のユニオンジャックの入ったものから、カナダの國の木であるカエデの葉をデザインしたものに変えた。さらに1970年代初頭以後は、フランス系だけでなく、先住民のイヌイットや太平洋岸（中心都市はヴァンクー・バー）に多いアジア系など、他の少数民族も対等に扱う多文化主義政策を探っている。ヌナブト準州の設置（1999年）はイヌイットの文化や権利を守るために、これも多文化主義に基づくものである。民族的なセグリゲーション（④）とは、都市などにおいて民族集団ごとに居住する住み分けのことである。同化政策（⑥）とは、力をもつ民族が力の弱い他の民族に、自らの文化を受け入れよう強要する政策である。

問4 正解は、A—③、B—④、C—⑨、D—⑦、E—⑥。

（A）ケベック州（③）の多数派がフランス系住民であることについては、問1、問3の解説参照。ケベック州の州都はセントローレンス川河口のエスチュアリーの奥に位置するケベックであるが、人口最大都市はセントローレンス川中流のモントリオール（⑩）である。オンタリオ州（②）はカナダの人口最大州で、多数派はイギリス系住民である。

（B）五大湖は、湖面標高の高い順に、スペリオル湖、ミシガン湖とヒューロン湖（⑧）、エリー湖、オンタリオ湖（②）からなり、メサビ鉄山はスペリオル湖（④）の西側に位置し、鉄鉱石の積出港はダルースである。1970年代に純度の高い鉄鉱石が枯渇し低品位のタコナイトしか産出しなくなつたため衰退したが、最近の世界的な需要増を背景に、現在も採掘が行われている。

（C）五大湖地方の鉄鋼業の中心だったのはペンシルヴェニア州南西部のピッツバーグ（⑨）で、炭田立地型の鉄鋼都市である。同都市の鉄鋼業は1970年代以降衰退し、1950年に70万人近くいた人口も半減したが、1980年代以降に官民一体となって都市再生に努力し、ハイテク、医療技術、教育、金融、サービス業を中心とする経済へと移行して活気を取り戻している。デトロイト（⑤）はミシガン州に位置し、自動車工業の中心である。

（D）メキシコ湾岸の都市はテキサス州の人口最大都市ヒューストン（⑦）で、メキシコ湾岸油

田を背景とする石油化学工業や、NASAのジョンソン宇宙センターの設置を契機とする宇宙産業が発達している。この都市と内陸のダラス、フォートワースなどを含むテキサス州の先端産業集積地をシリコンプレーンとよぶ。アトランタ（①）はアメリカ合衆国南東部のジョージア州の州都かつ人口最大都市である。

（E）カナダの人口最大都市はオンタリオ州（②）の州都トロント（⑥）である。この都市のあるオンタリオ湖（②）北岸から西岸のナイアガラ滝付近までの地域がカナダの商工業、金融の中心である。カナダの農林水産・鉱工業は、アメリカ合衆国資本が多く進出し、アメリカ合衆国市場向けのものが多いことから、アメリカ合衆国に近く英語圏でもあるこの地域は、企業や工場の立地に有利である。

### 重要 カナダの2大都市

- ◆トロント：イギリス系住民の多いオンタリオ州の州都かつ人口最大都市
- ◆モントリオール：フランス系住民の多いケベック州の人口最大都市

問5 正解は、アーバラチア、イーサンベルト、ウーシリコンヴァレー、エ—NAFTA。

（A）アバラチア山脈は古期造山帯で良質な石炭が埋蔵されており、炭田地帯にはピッツバーグなどの鉄鋼業都市が立地した（問4のC参照）。

（イ）アメリカ合衆国では、1970年代以降、北東部の工業地域が停滞し、代わって、南部やカリフォルニアで、石油産業、航空宇宙産業、先端産業、観光産業などが発展した。北東部をフロストベルト、北緯37度以南の南部・カリフォルニアをサンベルトとよぶ。フロストベルトの経済が停滞した最大の理由は、基幹産業の鉄鋼業・自動車工業が日本やNIEsの追い上げで停滞したこと、サンベルト発展の理由は、安価な用地、労組（労働組合）の組織率が低いこと、温暖な気候、豊かな石油資源、連邦政府による宇宙基地などの設置、州政府の誘致などがあげられる。

（ウ）サンフランシスコに近いサンノゼ周辺はシリコンヴァレーとよばれ、スタンフォード大学の敷地に同大学出身者によるベンチャー企業が集積したことを契機に、世界最大の先端産業の集積地となつた。テキサス州のシリコンプレーン、マサチューセッツ州ボストン郊外のエレクトロニクスハイウェイ、ワシントン州シアトル付近のシリコンフォレスト、コロラド州デンバー付近のシリコンマウン

テン、アリゾナ州フェニックス付近のシリコンデパート、ノースカロライナ州ローリー付近のリサーチトライアングルパーク、フロリダ州のエレクトロニクスベルトなど、先端産業の集積地の呼称を覚えておこう。

(エ) N A F T A (北米自由貿易協定) は、1990年頃の市場統合により巨大な単一市場となったEUに対抗し、1994年、アメリカ合衆国、カナダ、メキシコの3か国で結成された。

問6 正解は、アメリカ合衆国—⑤、日本—①。

貨物輸送に注目し、鉄道の分担率の高い⑤を、国土の広大なアメリカ合衆国とする。旅客輸送で航空機の分担率が高めであることも決め手となる。日本は①で、貨物輸送において船舶の分担率が比較的高いことと、旅客輸送において鉄道の分担率が高めであることが決め手である。②・③・④は区別できなくてよいが、貨物で船舶が多めの③がライン川などの水運利用の多いドイツ、旅客で鉄道がわずかに多めの②がT G Vとよばれる高速鉄道網の発達しているフランス、残る④がイギリスである。

貨物輸送では、輸送費の安さが重要となるので、国土の広い国（アメリカ合衆国）では低コストで長距離大量輸送が可能な鉄道が比較的多く利用され、周囲を海に囲まれた大都市や工業地域が臨海部に集中する国（日本）では輸送費の安い船舶の利用が比較的多くなる。イギリスは日本と同じく島国であるが、大都市や工業地域が内陸にあるため、船舶の利用は少ない。

旅客輸送では迅速性・快適性などの利便性が重要で、多くの先進国では戸口輸送が可能で乗り換えの必要のない自動車の利用が圧倒的に多いが、日本は鉄道利用も比較的多い。日本では、大都市圏の通勤輸送において定時性で優れる鉄道の利用が多く、都市間の高速鉄道の利用も多いためである。

統計図表の判定：ここに注目！

国内旅客輸送・国内貨物輸送の国際比較

- ◆アメリカ合衆国など国土の広い国では、貨物輸送で鉄道の分担率が高い。
- ◆日本は、貨物輸送で船舶の分担率が、旅客輸送で鉄道の分担率が比較的高い。

問7 正解は、メガロポリス。

帯状に連なる大都市が高速交通・通信網で結ばれ全体としてより高い中心性を有する大都市地域をメガロポリス（巨帯都市）といい、フランス人地理学者のゴットマンが、アメリカ合衆国大西洋岸のボス

トンからニューヨーク、フィラデルフィア、ボルティモアをへてワシントンに至る地域に対して命名した用語である。日本の東海道メガロポリスもその例である。複数の都市の市街地が連続し景観的に1つの都市になった状態をコナーベーション（連接都市）という。コナーベーションは市街地が連続しなければならないが、メガロポリスの場合はそれぞれの大都市圏が独立しており、大都市と大都市の間に農地や森林があることが多い。

違いに注意！

◆メガロポリス（巨帯都市）

複数の大都市が帯状に連なる。景観的には別の都市。

◆コナーベーション（連接都市）

複数の都市の市街地が連続する。景観的に1つの都市。

問8 正解は、メキシコーR、日本—S。

N A F T A 3か国の貿易をみると、カナダとメキシコはアメリカ合衆国との貿易割合がきわめて高いのに対し、アメリカ合衆国は、カナダやメキシコが多いものの、その割合はそれほど高くない。よって、P・Rで輸出入とも割合のきわめて高いQがアメリカ合衆国で、P・Rはカナダ・メキシコのいずれかである。このうち、輸出でイギリスが登場するPがカナダで、スペインが登場するRがメキシコである。あるいは、アメリカ合衆国はメキシコよりもカナダとの貿易額が多いので、1990・2012年の輸出入ともQの相手国としてより上位に登場するPをカナダ、下位のRをメキシコとしてもよい。

東アジア3か国との貿易をみると、N A F T A 3か国とも、1990年頃までは日本との貿易が最も多かったが、現在は中国との貿易が（特に輸入において）多くなっている。よって、1990年に上位のSが日本、2012年に上位のTが中国で、残るUが韓国である。

1990年と2012年を比べると、N A F T A 域内の相互貿易の増加が特に輸出においてみられ、輸入を中心に中国との貿易が拡大した。その結果、3か国とも輸出入相手は、N A F T A 加盟国と東アジア諸国が上位を占め、西ヨーロッパ諸国の順位が低下している。

# 【公民】

## ■ 政治・経済 ■

### ① 人権保障の歴史と人権思想 【解答】

- 問1 ワイマール  
 問2 アパルトヘイト  
 問3 ②  
 問4 (1) A オ (2) B ウ  
 (3) 社会契約説  
 (4) ロック  
 問5 夜警国家  
 問6 自由権は国家から個人の自由を守る権利であるが、社会権は人間らしい生活実現のための施策を国家に要求する権利であるから。  
 (58字)  
 問7 ①  
 問8 ③  
 問9 障害者権利条約（障害者の権利に関する条約）

### 【配点】 (20点)

問1・問2	各2点×2=4点
問3	1点
問4(1)	各1点×2=2点
問4(2)～問6	各2点×4=8点
問7	1点
問8・問9	各2点×2=4点

### 【出題のねらい】

本問では、人権保障の歴史と今日的課題に関し、各種の人権宣言、人権思想、社会契約説、自由権、社会権、新しい人権、人権の国際的保障などについての基本的知識と理解を問う。史料読解問題や自由権と社会権の関係に関する長文記述問題も出題した。

### 【設問別解説】

問1 正解はワイマール。1918年のドイツ革命でドイツ帝国が崩壊した。その翌年の1919年にワイマールで開催された国民議会で成立したドイツ共和国憲法は、国民議会の開催地にちなんで一般にワイマール

憲法と呼ばれている。この憲法の人権保障の面での特色は、経済的強者に事実上有利になりがちな経済的自由権に対する政策的制約を設けたことと、社会権を初めて憲法上の基本的な人権として保障したことである。そのため、同憲法は現代型憲法の先駆けとなったのである。

問2 正解はアパルトヘイト。南アフリカ共和国で1991年まで続いていた有色人種を隔離・差別する人種隔離政策をアパルトヘイトという。この制度は、少数の白人の絶対的優位を維持するために、各人種の居住地域を分離した上で、バス法によって非白人の移動の自由を制限したり、雑婚禁止法や背徳法によって白人と有色人種の婚姻を禁止するなど、政治・経済・社会・文化などあらゆる分野にわたって非白人を差別するものであった。これに対して国内では黒人などによる反アパルトヘイトの抵抗運動が激化し、また、国際社会における非難の高まりを受けて、国連においても南アフリカ共和国に対する経済制裁決議が成立するなど、内外からの圧力が高まった。その結果、1985年以降、雑婚禁止法・背徳法・バス法などが廃止され、デクラーク政権下の1990年には反アパルトヘイト運動の指導者ネルソン・マンデラ氏(1918~2013)が27年ぶりに釈放され、翌年にはついにアパルトヘイトが全面的に廃止されるに至った。そして、1994年には南アフリカ史上初の全人種参加による選挙を経て制憲議会が開かれ、同議会によって、マンデラ氏が同国初の黒人 대통령に選出されたのである。問題文中の「自由への長い道」は、マンデラ氏の著作の題名もある。

問3 正解は②。イギリス名薦革命は1688年、アメリカ独立戦争は1775~83年、フランス革命は1789年である。イギリスの名薦革命の成果を確認し成文化したもののが1689年の権利章典であり、アメリカ独立戦争（独立革命）の成果を成文化したものが1776年のバージニア権利章典や同年のアメリカ独立宣言であり、フランス革命の成果を成文化したもののが1789年のフランス人権宣言（人および市民の権利宣言）である。

問4 (1) 正解はA一オ、B一ウ。Aはフランス人権宣言の一節である。Bはアメリカ独立宣言の一節である。Aのイギリスの人民憲章は、19世紀イギリスで展開された労働者階級を主体とした政治運動（チャーチスト運動）において掲げられた憲章（1837年）で、成年男子の普通選挙権などを要求するものであった。イのロシアの勤労し搾取されている人民の権利宣言は、1918年の全ロシア労働者・兵士・農民代

議員ソヴィエト大会で採択された宣言である。工のイギリスの大憲章（マグナ・カルタ）は、1215年に国王ジョンに対して封建貴族の身分的特権の確認を迫った文書である。カのイギリスの権利章典については問3の解説を参照。

(2) 正解は社会契約説。フランス人権宣言もアメリカ独立宣言も、人民がその固有の自然権を確保するために、人民相互の契約（社会契約）によって国家（政府）を設立したのであり、国家（政府）の権力と権威は人民の同意に基づくものであるという考え方、すなわち社会契約説を理論的な骨子としている。

(3) 正解はロック。アメリカの独立宣言は、ジェファーソン(1743~1826)が起草したものであるが、自然権思想に基づいて革命（独立戦争）の理論的根拠を述べた前文は、イギリスの名誉革命期の思想家ロック(1632~1704)が『市民政府二論』において展開した社会契約説や抵抗権の思想に大きな影響を受けている。

問5 正解は夜警国家。19世紀ドイツの社会主義者ラッサー(1825~64)は、当時の自由主義国家観、すなわち国家の役割は国防、治安維持および最小限の公共事業にとどめるべきだという消極的な国家のあり方を「夜警国家」と呼んで批判し、労働者など経済的弱者を支援する国家理念の実現を説いた。

問6 正解は解答例を参照。自由権は、経済や市民社会への国家の干渉・介入を排除し、個人の人格的・経済的な自由を求める権利であり、国家の不作為を要求する点において「国家からの自由」という性格を持つ。これに対して社会権は、国家に対して人間らしい生活を実現するための積極的な施策を要求する権利であり、国家の作為を要求する点において「国家による自由」という性格を持つ。

問7 正解は①。日本国憲法第16条は「何人も、損害の救済、公務員の罷免、法律、命令又は規則の制定、廃止又は改正その他の事項に関し、平穏に請願する権利を有し、何人も、かかる請願をしたためにいかなる差別待遇も受けない」と規定している。

これに対し、②知る権利、③プライバシーの権利、④環境権はいずれも日本国憲法に規定されていない「新しい人権」である。

問8 正解は③。人種差別撤廃条約は、人種、皮膚の色、門地又は民族的若しくは種族的出身に基づくあらゆる差別、除外、制約又は優先の禁止を定め、差別を受けた個人が直接に国連の人種差別撤廃委員会に救済措置を求める制度を定めてい

る。日本も1995年にこの条約を批准し、これに基づき1997年にアイヌ文化振興法を制定した。

①は「すべての国に対して法的拘束力を持つ」というのは誤りである。世界人権宣言は、条約ではないので法的拘束力を持たない。この点を補うため、世界人権宣言の内容を条約化して法的拘束力を持たせたのが、国際人権規約である。②「日本は両規約とも留保なしに批准している」というのは誤りである。日本は、国際人権規約の社会権に関するA規約（経済的・社会的及び文化的権利に関する国際規約）と自由権に関するB規約（市民的及び政治的権利に関する国際規約）を批准しているが、社会権に関するA規約のうち公務員のストライキ権、公休日の報酬の支払いに関する規定については、2014年4月現在留保している（この他に中等・高等教育の無償化の規定についても留保していたが、2012年9月に留保の撤回を国連に通告した）。④「権利行使の主体としてではなく、保護・管理すべき対象として捉え」というのは誤りである。子どもの権利条約は、18歳未満の者をたんに保護・管理の対象として捉えるのではなく、権利行使の主体として捉え、その発達に応じて、意見表明権、表現の自由、思想・良心の自由、集会・結社の自由など幅広い権利を認めている。

問9 正解は障害者権利条約（障害者の権利に関する条約）。障害者権利条約は、あらゆる障害者の人間的尊厳と権利を保障するために、障害者に対する差別の禁止、平等の確保を規定し、障害を持つ人々の政治、経済、社会、文化などあらゆる生活の分野での権利を規定している。同条約は2006年に国連総会で採択され、日本も国内法の整備に伴い2014年1月によく批准した。

## 2 権力分立と比較政治体制 【解答】

問1 ① 総辞職

② 拒否

③ 教書

問2 (1) ①

(2) c

(3) 開発独裁

問3 王権神授説

問4 コーク（クック）

問5 ④

問6 ④

- 問7 モンtesスキュー  
 問8 違憲立法審査権（法令審査権）  
 問9 (1) レーニン  
 (2) 全国人民代表大会（全人代）

### 【配点】 (20点)

問1	各 1 点 × 3 = 3 点
問2	各 2 点 × 3 = 6 点
問3・問4	各 1 点 × 2 = 2 点
問5・問6	各 2 点 × 2 = 4 点
問7	1 点
問8	2 点
問9	各 1 点 × 2 = 2 点

### 【出題のねらい】

本問では、イギリスの議院内閣制、アメリカの大統領制を中心とする各国の統治機構の内容と特徴、また、法の支配、権力分立制などの近代民主主義の原理、さらには「アラブの春」、韓国、ミャンマーの国際政治情勢など政治全般にわたる理解を問う。

### 【設問別解説】

問1  1 正解は総辞職。イギリスや日本で採用されている議院内閣制は、議会（下院）の信任の下に内閣が存立する政治制度であり、イギリスでは内閣が下院（庶民院）の信任を失った場合（内閣不信任案が可決された場合）には、内閣は総辞職するか、下院を解散するかを選択する（この点は日本における内閣と衆議院の関係でも同じである）。

2 正解は拒否。アメリカでは行政府の長である大統領は国民の選挙で選出され、議会からの独立性が強い。その独立性を示す権限が、法案拒否権である。ただし、大統領が法案拒否権を行使した場合でも、議会の両院がそれぞれ三分の二以上の多数で再可決すれば法律は成立する。

3 正解は教書。アメリカ大統領は議会に対して法案提出権を持たないが、その代わりに教書送付権を有している。合衆国憲法は大統領に対し、連邦の状況について議会に報告する義務と、政策・予算・立法措置などを議会に勧告する権限を与えており、これらの報告や勧告が教書（Message）と呼ばれており、それには一般教書（年頭教書）、経済報告教書、予算教書、特別教書がある。

問2 (1) 正解は①。「内閣は設置されていない」という部分が誤り。フランスの大統領は国民の直接選

挙で選ばれ、首相と閣僚の任免権や国民議会（下院）の解散権など強大な権限を有している。しかし、内閣（首相）は大統領に責任を負うとともに議会に対しても責任を負い、議会の信任を必要とする。このようにフランスの政治制度は大統領制と議院内閣制の混合形態となっており、半大統領制とも呼ばれる。なお、権限や責任が分けられ、主として大統領が外交政策、首相が内政を担当する。

(2) 韓国では、2012年の大統領選挙で保守系セヌリ党の朴槿恵（パク・クネ）が勝利し、翌年、第18代大統領に就任した。韓国では初の女性大統領である。(3) ドイツでは、連邦会議（連邦議会議員と州議会代表から構成される会議）により選出される大統領は非常時を除いて象徴的な存在にすぎず、実質的には議院内閣制が採用されている。(4) 20年以上にわたり軍事政権下にあったミャンマーでは、2010年に実施された総選挙後、民主化運動の指導者アウン・サン・スー・チーの軟禁が解かれるなど民主化への動きが見られる。

(2) 正解はc。南スーダンはシリアの誤り。中東に位置するシリアでは2011年以降、アサド政権と反体制勢力との間で内戦が続き、数多くの犠牲者（推定では2013年7月までに死者10万人以上、難民数200万人以上）が出ている。なお、北アフリカに位置する南スーダンは、2011年にスードンから分離・独立した国家であるが、独立後も国内で反政府勢力との武力衝突や部族間の衝突が起きている。

a チュニジアとムバラク政権は正しい。北アフリカからアラビア半島・中東にかけてのアラブ諸国では強権的な独裁体制をとる国が多く、2010年末に起こったチュニジアのジャスミン革命（チュニジアを代表する花の名前からこう呼ばれる）を発端に、エジプトではムバラク政権、リビアではNATO軍の介入もあってカダフィ政権が打倒された。こうしたアラブ諸国の民主化の動向を「アラブの春」と呼ぶ。しかし、エジプトでは選挙で選ばれたイスラム同胞団出身の大統領が、軍部のクーデタで解任され、また、上記のシリアに見られるように政権派と反体制派の内戦が長期化するなど、国内外の勢力の利害が複雑に絡み合ってアラブ世界は混乱が続いている。

(3) 正解は開発独裁。経済開発を優先して強権的な独裁政治を行い、国民の権利や自由を抑止する政治体制を開発独裁と呼ぶ。インドネシアのスハルト政権(1968~98)やフィリピンのマルコス政権(1965~86)など、発展途上段階の国々に多く見られた。

問3 正解は王権神授説。イギリスの政治思想家フィ

ルマー（1588頃～1653）やフランスの聖職者ボシュエ（1627～1704）らが主張した王権神授説は、国王の権力は神から授けられた絶対不可侵なものであるから人民はこれに服従しなければならないという思想で、ヨーロッパの絶対王政（16～18世紀）を支える政治理論となつた。これに対し、ロックらが主張した社会契約説は、絶対王政を打倒した市民革命を擁護する政治理論である（**問4** (2)(3)の解説を参照）。

**問4 正解はコード（クック）。**イギリスの裁判官コード（1552～1634）は、絶対君主ジェームズ1世の専制支配を戒めるために、「国王といえども神と法の下にある」という13世紀イギリスの法律家ブラクトンの言葉を引用し、国王の権力も中世以来のコモン・ロー（判例法を集大成した普通法）によって制約されると説いた。こうした考え方では、政治権力者の恣意的な支配である「人の支配」に対して「法の支配」と呼ばれる。この法の支配の原理は、アメリカにおいては司法権優位の思想として展開した。すなわち、法令などの憲法適合性を判断する違憲立法審査権を司法裁判所に与え、立法権や行政権の権力濫用から個人の権利と自由を守る役割を担わせたのである。

**問5 正解は④。**イギリスでは、野党第一党は來るべき政権交代に備えてあらかじめ影の首相と閣僚を定め、シャドー・キャビネット（影の内閣）を設置している。その背景には、健全な議会政治には政権交代ならびに野党の政策立案能力が必要不可欠であるという考えがある。そのため、シャドー・キャビネットの運営には一定の国家予算があてられ、議会内には専用の執務室が設けられている。

①世界で最初に自然権を盛り込んだ成文憲法は1776年に制定されたアメリカのバージニア権利章典である。イギリスは、具体的な憲法典を持たず、重要な法律や慣習・判例を集め成したものを憲法（不文憲法）としている。②イギリスの下院（庶民院）議員選挙は小選挙区制を採用しているが、上院（貴族院）議員は選挙で選出されないので誤り。上院は、貴族や聖職者から構成され、首相の推薦により国王が任命する議員からなる。③「単独内閣が成立したことではなく、今日まで連立内閣が続いている」というのは誤り。2010年の総選挙の結果、労働党に代わって第一党となつた保守党のキャメロンが首相に任命された。しかし、保守党だけでは過半数に至らなかつたため、第三党の自由民主党と連立を組んだ。このキャメロン内閣は第二次世界大戦後初めて

の連立内閣であり、それまでは単独内閣が続いていた。なお、イギリスでは、下院選挙で第一党になつた党首が国王により首相に任命され、首相により議員の中から大臣（閣僚）が任命される。

**問6 正解は④。**アメリカでは、議会の審議を慎重かつ能率的に行うために（比較的少数の国会議員で構成される）委員会を設置し、実質審議を行つて（委員会制度）。したがつて「実質審議は、委員会ではなく本会議において行われる」というのは誤り。なお、イギリスでは、（全議員で構成される）本会議を中心に議案の実質審議が行われる（三読会制）。

①アメリカでは、州ごとに有権者が大統領選挙人を選出し、その大統領選挙人が大統領を選出するという間接選挙を採用している。また、大統領は、「任期は4年で、三選が禁止されている」という部分も正しい。②連邦議会は大統領や各省長官（連邦官吏）に対して弾劾裁判を行つて罷免することができる。弾劾裁判は公務員に重大な法令違反があった場合、国民の代表機関である議会が刑事裁判手続に従つてこれを裁く制度のことである。アメリカでは下院が訴追し、上院が弾劾裁判を行う。ちなみに、日本では弾劾裁判の対象となつているのは裁判官のみである。③議会の勢力分布を反映して内閣が組織される議院内閣制とは異なり、アメリカでは大統領と議会議員は別々に選出されるので、大統領の所属政党と議会の多数党が異なる場合が生じる。たとえば、現在のオバマ大統領は民主党出身であるが、下院では共和党の方が民主党よりも議席が多い（2013年1月～2015年11月中旬選挙まで）。

**問7 正解はモンテスキュー。**フランスの政治思想家モンテスキュー（1689～1755）はその主著『法の精神』の中で、国家権力を立法権・行政権・司法権の三権に分け、それぞれが互いに抑制と均衡を図ることで専制政治を防ぐという三権分立を説いた。このモンテスキュー型の三権分立制の典型がアメリカの大統領制である。

**問8 正解は違憲立法審査権（法令審査権）。**違憲立法審査権は、司法裁判所が議会の制定した法律や行政機関の発する命令など国家機関の行為について、憲法に規定されている内容に適合するかどうかを審査する権限であり、違憲の場合にはその国家行為は無効とされる。アメリカでは19世紀初頭の最高裁判所の判例に基づき違憲立法審査権が確立し、法の支配の具体化が図られた（**問4** の解説を参照）。

**問9 (1) 正解はレーニン。**レーニン（1870～1924）は、帝政ロシア内の革命勢力をまとめ、世界最初の

社会主義革命であるロシア革命（1917年）を指導し成功に導いた。著者に『帝国主義論』や『国家と革命』がある。

(2) 正解は全国人民代表大会（全人代）。ロシア革命によって成立した旧ソビエト社会主义共和国連邦（ソ連）や1949年、毛沢東の指導の下に成立した中華人民共和国（中国）などの社会主义国家では、権力分立制を採用せず、人民の代表機関に国家権力を集中させる権力集中制（民主集中制）をとっている。たとえば、中国では全国人民代表大会（全人代）が国家権力の最高機関となっている。全国人民代表大会は、省・自治区・直轄市・人民解放軍の代表から構成され、年1回開催される。憲法の改正、法律の制定、国家主席・国务院総理・最高人民法院院長の選出など重要で強大な権限を持っている。全人代の下に全国人民代表大会常務委員会が常設されており、そこで立法などの実務的権限が行使される。

### ③ 地方分権の推進と行政改革 【解答】

- |     |     |                  |
|-----|-----|------------------|
| 問1  | 1   | 地方自治の本旨          |
|     | 2   | 地方分権一括           |
| 問2  | ④   |                  |
| 問3  | (1) | 行政手続法            |
|     | (2) | パブリック・コメント       |
| 問4  | (1) | 自治事務             |
|     | (2) | ①                |
| 問5  |     | 地方交付税            |
| 問6  | ②   |                  |
| 問7  |     | プライス             |
| 問8  |     | 沖縄県              |
| 問9  |     | オンブズマン（オンブズパーソン） |
| 問10 |     | 天下り              |

#### 【配点】 (20点)

問1	各1点×2=2点
問2	2点
問3(1)	1点
問3(2)～問6	各2点×5=10点
問7	1点
問8	2点
問9・問10	各1点×2=2点

#### 【出題のねらい】

本問は、地方分権の推進と行政改革に関して、その理念や現状、問題点などについて幅広く問うものである。基本的な知識を問う問題を中心としながらも、発展的な知識を問う問題も織り交ぜて出題している。

#### 【設問別解説】

問1 1 正解は地方自治の本旨。「地方自治の本旨」とは、地方公共団体が国から相対的に独立して地域の政治・行政を行うこと（団体自治）、および地方公共団体の政治・行政が地域住民の意思に基づいて行われること（住民自治）を意味するとされる。団体自治の原理は、地方議会の条例制定権などに具体化され、また住民自治の原理は、地方公共団体の首長・議員の直接公選制や、地方自治法が規定する各種の直接請求権などに具体化されている。

2 正解は地方分権一括。地方分権一括法は、1999年、国と地方の関係を、従来の上下・主従の関係から対等・協力の関係に改めることを目的に、地方自治法など関連する475の法律の改正を一括して行うために定められたものである。機関委任事務の廃止と事務区分の再編（問4(1)の解説参照）、国による地方への関与の見直しなどを主な内容としている。

問2 正解は④。地方公共団体の首長は、条例の制定・改廃または予算の議決について異議がある場合、拒否権を行使して再議に付することができる。ただし、この場合、議会が出席議員の3分の2以上の多数で再可決すれば成立する（地方自治法第176条）。

①住民は、有権者の3分の1以上の署名をもって、選挙管理委員会に首長の解職を請求することができる。したがって、「議会に…請求」は誤り。この請求が行われた場合、住民投票に付され過半数の同意により解職が成立する（地方自治法第81条・83条）。したがって、議会において同意が必要という趣旨の記述は誤り。ただし、有権者総数が40万を超える80万以下の場合、40万を超える数に6分の1を乗じた数と40万に3分の1を乗じた数を合算した数、有権者総数が80万を超える場合、80万を超える数に8分の1を乗じた数と40万に6分の1を乗じた数と40万に3分の1を乗じた数を合算した数が、それぞれ必要署名数となる。②住民は、有権者の50分の1以上の署名をもって、首長に条例の制定を請求することができ、この請求が行われた場合、首長は議会に付議し、その結果を公表しなければならない（地

方自治法第74条)。したがって、住民投票が実施されるという趣旨の記述は誤り。(3)地方公共団体の議会は、議員数の3分の2以上が出席する本会議において4分の3以上の賛成によって首長に対する不信任案を可決することができ、首長は10日以内に議会を解散しないときには失職する(地方自治法第178条)。したがって、「3分の2以上の多数」や「ただちに辞職」という記述は誤り。

問3 (1) 正解は行政手続法。1993年に制定された同法は、行政運営の公正性・透明性を確保し、国民の権利・義務を保護するために、許認可や行政指導の手続などを明確化したものである。

(2) 正解はパブリック・コメント。パブリック・コメントは2005年の行政手続法改正により法制化されたもので、国の行政機関が政令や省令などを定めようとする際に、事前に広く一般から意見を募って、その意見を考慮することにより行政運営の公正さの確保と透明性の向上を図り、国民の権利・利益の保護に役立てる目的としている。

問4 (1) 正解は自治事務。地方分権一括法により、地方自治を阻害すると批判されていた機関委任事務は廃止され、地方公共団体の事務は自治事務と法定受託事務に再編された。自治事務は、地方公共団体が自己の責任で処理する事務をいい、都市計画決定や飲食店の営業許可などがこれにあたる。また、法定受託事務は、本来は国の事務であるが法律に基づいて地方公共団体に処理が委託される事務をいい、国政選挙の事務や旅券(パスポート)の交付などがこれにあたる。

(2) 正解は①。事務処理に関する国の関与に不服がある場合、地方公共団体は、総務省に創設された国地方係争処理委員会に申立てを行うことができる。

②定住外国人に対しては、国政における選挙権・被選挙権のみならず、地方公共団体の首長や議員の選挙権・被選挙権も認められていない。③地方公共団体には、固定資産税や住民税など地方税法に規定のある法定税のほか、地方税法に規定のない法定外税の導入が、総務大臣の同意を前提に認められている。したがって、「自由に創設できる」という記述は誤り。なお、法定外税については、用途が特定されていない法定外普通税のほか、特定の目的や事業の経費を支弁するための法定外目的税の制定も認められている。④都道府県による地方債の発行は、「独自の判断に基づいて」行えるわけではなく、都道府県の場合は総務大臣、市町村の場合は知事との事前協議を経て行うことになっている。

問5 正解は地方交付税。地方交付税交付金は、所得税・法人税・酒税など国税の一部が、地方公共団体間の財政格差の是正を目的として、用途を限定せずに交付されるものである。これに対して、国庫支出金(補助金)は、公共事業・社会保険などについて用途を限定して交付されるものであるが、交付額が十分でなく地方公共団体に超過負担を強いる場合があることや、地方公共団体の自立や創造的活動を阻むといった問題点が指摘されてきた。なお、小泉内閣が推進した「三位一体の改革」は、地方公共団体の財政面での独立性を高めるため、国庫支出金の削減、地方交付税の見直し(削減)、国から地方への税源移譲を一体として行おうとするものであった。

問6 正解は②。独立行政法人は、業務の効率化を図るために、各省庁の政策立案部門から業務部門を切り離し、独立の法人格を付与した機関である。2001年以降、国立の博物館や美術館、各種の研究所、病院のほか、造幣局、印刷局なども独立行政法人化されている。またこれとは別に、国立大学も、2004年度から、国立大学法人法に基づき、文部科学省から独立した国立大学法人となっている。

①日本郵政公社は、2007年10月、政府が全額出資する持株会社である日本郵政(JP)の下で、郵便局会社・郵便事業会社・ゆうちょ銀行・かんぽ生命保険の四つの事業会社に分社化して民営化された。その後、2012年の郵政民営化法改正で、四つの事業会社のうち郵便局会社と郵便事業会社が統合されることとなった。また、ゆうちょ銀行とかんぽ生命保険については、2005年の郵政民営化法成立時には2017年9月末までに全株式を売却して完全民営化する義務を規定していたが、努力規定に改められた。

③日本専売公社、日本電信電話公社、日本国有鉄道が民営化され、それぞれ、JT、NTT、JRとなつたのは、いずれも1980年代のことである。④2005年10月、日本道路公团、首都高速道路公团など4公团は、保有施設および債務を独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構に移し、東日本高速道路株式会社(NEXCO 東日本)、中日本高速道路株式会社(NEXCO 中日本)、西日本高速道路株式会社(NEXCO 西日本)など6社に分割して民営化された。

問7 正解はプライス。イギリスの政治学者プライス(1838~1922)は、主著『近代民主政治』において、「地方自治は、民主主義の源泉であるばかりでなく、民主主義の最良の学校である」と述べたことで知られる。これは、地方自治は、住民が地域のあり方を決める過程に参画することを通じて民主主義を運営

していく方法や能力を身につける重要な場である、との考えを示したものである。

問8 正解は沖縄県。沖縄県では、1996年に、米軍基地の整理・縮小の是非を問う県民投票が実施され、賛成が約90%を占めた。都道府県レベルにおける住民投票条例に基づく住民投票としては、これが唯一の例である。市町村レベルでは、1996年の新潟県巻町（原子力発電所建設の是非／反対約60%）、1997年の岐阜県御嵩町（産業廃棄物処理場建設の是非／反対約80%）、2000年の徳島市（吉野川可動堰建設の是非／反対約90%）、2001年の新潟県刈羽村（原子力発電所でのブルサーマル計画の是非／反対約53%）などの住民投票を押さえておきたい。

問9 正解はオンブズマン（オンブズパーソン）。オンブズマン（オンブズパーソン）制度は、行政の活動が適正に行われているかどうかを、国民・住民の代理人として監視・調査し、是正勧告などを行う権限を有する機関を置いて行政の民主化を図る制度で、19世紀初めにスウェーデンで始まったものである。日本では、1990年に川崎市が初めてこれを導入するなど、地方自治体レベルでは制度化している例もあるが、国レベルでは制度化されていない。

問10 正解は天下り。「天下り」は、官庁と特殊法人や民間企業との癒着を生み公正な行政を妨げるだけでなく、「天下り」した官僚が複数の特殊法人などを巨額の給与や退職金を得ながら渡り歩くこと（「渡り」）もあるため、強い批判がある。そこで、国家公務員法は、2007年の改正で内閣府の官民人材交流センターによるあっせんに一元化し、府省などが再就職のあっせんを行うことを禁止している。

## ④ 市場経済の特質と問題点

### 【解答】

問1 ③

問2 (1) アダム・スミス

(2) カルテル

問3 ケインズ

問4  3 公共

4 外部

問5 (1) ①

(2) ③

問6 配当

問7 ④

問8 ②

問9 ①

### 【配点】 (20点)

問1～問3	各2点×4=8点
問4～問5	各1点×4=4点
問6～問9	各2点×4=8点

### 【出題のねらい】

市場機構と資本主義経済の特徴についての基本的な知識と理解を試すのがねらいである。市場機構については、需要曲線・供給曲線など基本的なメカニズムのほか、市場の失敗や寡占市場についても問うている。また、資本主義経済の特徴としては、景気変動、企業活動、政府の介入などを問うている。

### 【設問別解説】

問1 正解は③。 1 は Q<sub>2</sub>、 2 は P<sub>0</sub>。需要曲線・供給曲線の基本的な読み取りの問題である。

この問題では、国内価格 P<sub>0</sub> が国際価格 P<sub>1</sub> よりも高いので、貿易が自由化されれば低い方の P<sub>1</sub> が市場価格になる。需要曲線を見れば、この市場価格 P<sub>1</sub> のときの需要量は Q<sub>2</sub> だが、供給曲線を見れば供給量は Q<sub>1</sub> しかない。そこで、その差 Q<sub>1</sub> - Q<sub>2</sub> が輸入されることになる。

その結果、国内企業の供給量は価格 P<sub>0</sub> のときの Q<sub>0</sub> から、価格 P<sub>1</sub> のときの Q<sub>1</sub> に減少して損失が生じる。これを防ぐためには、政府が関税を賦課したり、補助金を交付したりしなければならない。この問題では商品 1 単位あたり S の補助金が交付されるので、企業が手にするのは P<sub>1</sub> + S = P<sub>0</sub> となって、これまで通りの供給量 Q<sub>0</sub> が維持され、輸入量は Q<sub>1</sub> - Q<sub>0</sub> に減少する。

しかし、このときに、商品 1 単位あたりの補助金 S に国内供給量 Q<sub>0</sub> を乗じた金額の補助金が支出されているから、これが財政的な負担となり、最終的には税金でまかなわることになる。

問2 (1) 正解はアダム・スミス。アダム・スミス(1723～90)はイギリス古典派の経済学者で、1776年に『諸国民の富（國富論）』(1776)を著した。彼は、人々が自己の利益を自由に追求すれば、「見えざる手」の働きによって社会全体の利益にもつながる適正な資源配分が実現すると説き、市場機構のしくみ（価格の自動調節機能）を「見えざる手」という言葉で表した。そして、こうした「見えざる手」の働

きを妨げる政府の経済への介入を批判し、**自由放任主義**を説いた。

(2) 正解は**カルテル**。寡占企業同士が協定を結んで、製品価格を一斉に値上げしたりするのがカルテルで、**独占禁止法**では違法とされている。ただし、消費税率引上げに伴う特別措置として、端数の処理など消費税転嫁の方法にかかる転嫁カルテルと、価格について統一的な表示方法を協定する表示カルテルが、2013年10月から17年3月まで認められている。

**問3 正解はケインズ。**ケインズ（1883～1946）はイギリスの経済学者で、『雇用・利子および貨幣の一般理論』（1936）の中で古典派の自由放任主義を批判し、完全雇用の実現のためには政府が財政支出によって**有効需要を創出すべきだと**説いて、その後の各国の経済政策に大きな影響を与えた。

**問4 3 正解は公共。**たとえば道路の建設には費用がかかるが、その費用を一般の道路の利用者から通行料として回収しようとしても、かえって費用がかかってしまったり、通行料を支払わずに利用するフリーライダーの出現を防げなかったりするという問題が生じる。したがって、すべての道路を民間企業が市場を通じて供給することは不可能なので（**市場の失敗**）、一般の道路は政府が**公共財**として無料で供給し、その費用は強制的に徴収する税金でまかなわれる。

**4 正解は外部。**一般に市場機構は、たとえばパンを食べた者がその代金を支払うというように、効用を得る者がその対価を支払うことで成り立っている。ところが、たとえば企業が有害物質を排出してその処理に費用がかかっても、市場を通じてそれを企業に負担させることはできず（**市場の失敗**）、政府や自治体といった他の経済主体に費用が転嫁されてしまう（**外部不経済**）。逆に、政府が港湾を建設したために、その近くの企業が建設費用を負担せずに輸送コストを削減することができるような**外部経済**が生じることもある。どちらの場合も、市場を通じた資源配分の機能を重め、社会的な損失が生じる。

**問5 (1) 正解は①。取締役会は、業務執行の決定などを通じて日常的な企業経営を担当する合議体で、業務監査や役員指名などの機能を持つ場合もある。**会社法では、証券市場で株式の売買が行われるなど株式を公開している会社には、取締役会の設置が義務づけられている。

このほか、出資者である株主による議決機関とし

て②**株主総会**が置かれており、一般に取締役会と株主総会は機能だけでなく構成員も異なるという「**所有と経営の分離**」が見られる。③監査役は株式会社の会計および業務監査を職務とする機関、④**有限責任社員**は会社の債務に対して出資額を限度として責任を負う社員（出資者）のことである。

(2) 正解は③。企業も市民社会の一員として、利益の追求だけではなく、社会全体の利益にも貢献する責任があるという考え方があるが、このような責任は、**企業の社会的責任**（CSR：corporate social responsibility）と呼ばれる。そうした責任を果たす一例として、美術館を運営する財團を設立したり、コンサートの主催者になったりするなど、文化や芸術を支援する活動を**メセナ**と呼ぶ。この呼び方は、古代ローマで芸術家を支援したマエケナスの名にちなんでいる。

そのほかの選択肢もCSRにかかわるが、①ディスクロージャーは企業情報を公開すること、②コンプライアンスは法令や社会規範を順守すること、④コーポレート・ガバナンスは株主や消費者など利害関係者の利益を考慮した企業統治のことである。

**問6 正解は配当。**株式会社は、業績などに応じて出資者である株主に配当を支払うが、その金額や、支払うか否かの決定は企業の裁量に任されている。

**問7 正解は④。**一般に正社員に比べて派遣社員や契約社員の賃金水準は低いので、こうした非正規労働者の比率を増やした方がコストダウンにつながる。

他の選択肢の内容は正しいが、①国内の工場を閉鎖し、人件費や法人税の安い国に工場を移転することは多くの先進国企業が行っているし、先進国企業自体がなくなつて途上国企業への委託生産に切り替えられる例も多い。これが進むと、先進国内の雇用が減少するなど、**産業の空洞化**が起こる。②国産品に比べて安い部品や原料を海外から輸入することも一般化しており、とくに東アジアや東南アジアは世界中に部品を供給するサプライチェーンの中心となっている。③銀行などから資金を借り入れると、返済するときに利子を負担しなければならない。したがって、できるだけ借入れを減らして自己資金を増やす方がコストダウンにつながる。

**問8 正解は②。**キチンの波（短期循環）・シュグラーの波（中期循環）・コンドラチエフの波（長期循環）は、それぞれ発見者の名をとっているが、経済発展の原動力は技術革新であるとしたシモンペーター（1833～1950）の『景気循環論』で定式化された。

**問9 正解は①。**減反政策は、供給過剰になったコメ

の生産調整のために1971年から本格化した政策で、コメ以外の作物への転作に対して補助金を交付し、転作面積を事実上割り当てるなど強い政策介入が行われた。しかし、農家の経営意欲を減退させたり、休耕田や耕作放棄地を増加させたりするなどの弊害が出たため、第2次安倍内閣は2018年で減反政策を廃止すると発表した。

②医薬品のインターネット販売は、2009年からリスクの低い医薬品を除いて禁止され、規制が強化された事例である。これに対してインターネット販売業者が訴訟を起こし、2013年1月に最高裁判所が一般用医薬品（市販薬）のインターネット販売を認め判決を出した。しかし、医薬品の安全性の確保などを理由として、今のところインターネット販売には規制が一部残されている。③教育サービスも市場原理に基づいて供給されている部分があり、授業料を徴収して運営されている高校（特に私立高校）もその一つである。仮に、これに対して補助金を交付して授業料を一律に無償化すれば、それまで自由に設定されていた授業料が一律「無償」という形で規制されることになる。④原子力発電所に対する安全審査も、政府による規制の一つである。

一般に、市場原理をはたらかせるためには規制緩和が望ましいとされるが、②や④の事例に見られるように、国民の利益のために一定の規制が必要な分野も明らかに存在している。

## 5 現代世界の諸問題と課題

### 【解答】

問1  1 h

2 k

3 o

4 i

5 b

6 l

問2  A 南北

B U N C T A D (国連貿易開発会議)

C 特恵

問3 ①

問4 ④

問5 ④

問6 ②

問7 ⑥

問8 溫室効果ガスの削減は、経済開発を抑制す

ることになるから。（28字）

### 【配点】 (20点)

問1～問3

各1点×10=10点

問4～問8

各2点×5=10点

### 【出題のねらい】

本問では、現代世界の諸問題と課題に関し、南北問題を切り口として、経済のグローバル化、自由貿易論、新興国の経済成長、資源問題、食料問題、南南問題、ODA（政府開発援助）、地球環境問題についての基本的知識を問う。また、開発途上国が温室効果ガスの削減目標設定に消極的な理由を問う短い論述問題も出題した。

### 【設問別解説】

問1  1 正解は h。財貨・サービスや資本などの生産要素が国境を越えて移動するようになった状況は、経済のグローバル化と呼ばれる。なお、リージョナル化は、地域間の連携を強化することを意味するので、経済のグローバル化とは逆の意味になる。また、経済のブロック化は、主要国が自国を中心にくつつの国や地域によって排他的・閉鎖的なグループを作り、その中の貿易によって経済を運営しようとした現象のことを指すので、これも経済のグローバル化とは逆の意味になる。

2 正解は k。イギリスの経済学者リカード（1772～1823）は『経済学および課税の原理』を著し、比較生産費説に基づいて国際分業の利益を説き、自由貿易を主張した。また、穀物の輸入を制限する穀物法をめぐって、食料自給の観点から輸入制限の必要性を説いたマルサス（1766～1834）に反対し、穀物法を廃止して自由貿易を推進すべきだと主張した。なお、ドイツの経済学者リスト（1789～1846）は、各国の経済発展には歴史的な段階の違いがあり、当時のドイツなどの後進国が工業化を図るために、幼稚産業（未熟な産業）を育成するために、保護関税を課すなどして他国からの商品の輸入を制限する必要があると説き、保護貿易を主張した。

3 正解は o。中国では、1978年から、改革開放政策が採用され、沿岸地域に経済特区を設置して外国の技術や資本を導入するなど、市場経済の導入が進められた。その結果、約30年にわたって高い経済成長率を実現し、「世界の工場」とまで呼ばれるようになった。なお、国有化では、改革開放政

策とは逆の意味になってしまふ。また、ペレストロイカは、ロシア語で「建て直し」を意味し、1985年にソ連に登場したゴルバチョフ政権（1985～91）によって採用された改革政策である。さらに、ドイツは、ベトナム語で「刷新」を意味し、1980年代の半ばからベトナムで採用された改革政策のことである。

4 正解は i。BHN は、“basic human needs” の略であり、人間としての最低限度の生活を維持するための衣食住・教育・保健・雇用などに対する基本的ニーズ（必要）を意味する。1976年に ILO（国際労働機関）が提唱した概念である。なお、NPO は、“non-profit organization” の略であり、政府や企業などでは解決できない社会的な問題に営利を目的としないで取り組む民間団体を意味する。また、SDR は、“special drawing rights” の略であり、IMF（国際通貨基金）の加盟国が、外貨準備の不足などに際して、他の加盟国から必要とする外貨入手することができる権利（特別引出権）をいう。

5 正解は b。第二次世界大戦後、アジアやアフリカなどでは、欧米諸国の植民地であった地域の多くが政治的独立を達成した。しかし、現在でも、経済的自立が困難な国が多く存在している。その要因として、開発途上国が一次産品（農林水産物や鉱物資源）の生産や輸出に偏ったモノカルチャー経済から脱却することができず、一次産品の価格低迷に伴って南北間の経済格差が拡大したことが指摘されている。

6 正解は i。インフラストラクチャーとは、社会資本のことであり、経済活動や社会生活の基盤を形成する構造物を意味する。ダム、道路、港湾、発電所、通信施設などの産業基盤や、学校、病院、公園などの国民福祉の向上にかかる施設などがこれに該当する。

問 2 A 正解は南北。南北問題とは、地球の北側に集中している先進国と、南側に多く位置する開発途上国との間の著しい経済格差とそれがもたらす諸問題をいう。冷戦期には、東西の対立とともに南北の格差が、国際社会の直面する二大問題とされた。

B 正解はUNCTAD（国連貿易開発会議）。南北問題の解決に向けて、国際連合の場でもさまざまな取組みが行われており、1964年に南北問題を協議する国際連合の機関としてUNCTADが設置された。

C 正解は特惠。一般特恵関税とは、先進国が開発途上国に対して関税上の優遇措置をとることをいう。国連貿易開発会議の第1回総会に提出されたプレビッシュ報告は、「援助より貿易を」という主張を掲げて、一般特恵関税の実施、一次産品の価格安定、対GNP比1%の経済援助（政府と民間の援助をあわせた数字）などを先進国に要求した。

問 3 正解は①。アルゼンチンは、BRICSに含まれていない。近年、ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカは、その頭文字をとってBRICSと呼ばれている。これらの諸国は、いずれも広大な国土、豊富な天然資源、豊富な労働力などを背景に、外資の積極的な導入などによって高い経済成長を実現している。ただし、最近では、これらの国の経済成長率も低下している。

問 4 正解は④。アメリカでは、1979年にスリーマイル島の原子力発電所で、炉心の核燃料が溶融する事故が発生し、放射性物質が周辺に漏れた。また、ソ連では、1986年にチェルノブイリ（現在ではウクライナ領）の原子力発電所で、原子炉が爆発する事故が発生し、放射能汚染は広範囲に及んだ。2011年に発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故は、INES（国際原子力事象評価尺度）では、チェルノブイリ原発事故と同じ最も深刻なレベル（レベル7）に分類されている。

①「メジャー（国際石油資本）」ではなくOPEC（石油輸出国機構）が正しい。1973年10月に勃発した第四次中東戦争に際して、OPEC（石油輸出国機構）が原油価格を約4倍に引き上げたことにより、第一次石油危機が発生した。OPECは、1960年に產油国（イラン、イラク、サウジアラビア、クウェート、ベネズエラなど）が自らの利益を守るために、欧米の石油会社であるメジャー（国際石油資本）に対抗して結成した国際組織である。②探掘・生産技術の進歩により、天然ガスの確認埋蔵量は増加している。とくに、近年の技術革新によって、地中の頁岩の中に含まれている天然ガス（シェールガス）が低コストで大量に生産できるようになったため、天然ガスの確認埋蔵量も増加している。③「工業原料としての需要がないため」という記述が誤り。プラチナ（白金）は、自動車の排気ガス浄化の触媒など工業原料として広く利用されている。また、金は電気抵抗が小さく延性が高いためコンピュータのCPU（中央演算装置）などの回路に利用されている。

問 5 正解は④。A：正しい。バイオエタノールと

は、トウモロコシやサトウキビなどの植物を原料としたエタノール（アルコール）をいう。政府がバイオエタノールの生産を促進する政策を採用した場合には、トウモロコシに対する需要が拡大して、その価格は高騰することになる。B：誤り。「多産少死型から多産多死型」ではなく「多産多死型から多産少死型」が正しい。開発途上国では、医療技術や衛生環境の改善に伴って死亡率（とくに乳児死亡率）が大幅に低下したが、出生率は依然として高水準であった。そのため、人口の動態は、多産多死から多産少死へと移行し、富士山型（ピラミッド型）の人口構成となっている。その結果、開発途上国では、人口が急速に増加するいわゆる人口爆発が発生し、食料不足と貧困につながっている。C：誤り。日本では遺伝子組み換え農産物の輸入は禁止されていない。

問6 正解は②。2012年の日本のODA（政府開発援助）総額（支出純額）は、OECD（経済協力開発機構）のDAC（開発援助委員会）加盟国の中で第5位であり、上位に位置しているが、GNI（国民総所得）に対するODAの割合は、0.17%（DAC加盟24か国中で第20位）であり、**国際目標の0.7%を大幅に下回っている**。

①「高い」ではなく低いが正しい。2010年と2011年を平均した日本のODAの贈与比率は、当時のDAC加盟23か国中22位の54.7%であり、加盟23か国平均の85.8%を大幅に下回っている。なお、①②の数値は『2013年版政府開発援助（ODA）白書』による。③「環境の保全や民主化の程度が考慮されていない」という記述が誤り。内閣が決定したODA大綱（1992年制定・2003年改定）は、(1)環境と開発を両立させる、(2)軍事的用途及び国際紛争助長への使用を回避する、(3)開発途上国の軍事支出、大量破壊兵器・ミサイルの開発・製造、武器の輸出入などの動向に十分注意を払う、(4)開発途上国における民主化の促進、市場経済導入の努力ならびに基本的人権及び自由の保障状況に十分注意を払う、といった援助実施の原則を掲げている。④「国際機関への出資・拠出はODAに含まれない」という記述が誤り。ODAには、開発途上国を直接支援する二国間援助と、国際機関に対する出資・拠出を通じて支援する多国間援助がある。

問7 正解は⑥。A—ウ：1971年に採択されたラムサ

ール条約（「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」）は、多様な生態系をもつている湿地の保全を定めている。B—イ：1989年にUNEP（国連環境計画）の主導によって採択されたバーゼル条約（「有害廃棄物の国境を越える移動及びその処分の規制に関するバーゼル条約」）は、PCBや水銀などの有害廃棄物の国境を越える移動などを規制している。1980年代にヨーロッパの先進国から輸出された有害廃棄物がアフリカの開発途上国に放置されて環境汚染が生じるなどの問題が発生したことが契機となっている。C—ア：1973年に採択されたワシントン条約（「絶滅の恐れのある野生動植物の種の国際取引に関する条約」）は、絶滅のおそれのある野生動植物の保護を目的として、野生動植物の国際取引を規制している。

問8 正解は解答例を参照。1992年にブラジルのリオデジャネイロにおいて、世界の約180か国・地域の政府代表と多数のNGO（非政府組織）が参加して国連環境開発会議（地球サミット）が開催された。この会議では、「持続可能な開発」という共通理念の下に、環境保護の指針となるリオ宣言と、21世紀に向けての環境保全の行動計画であるアジェンダ21が採択されたが、開発途上国の急速な工業化による地球環境の悪化を危惧する先進国と開発の権利を主張する開発途上国との対立もあった。そこには、先進国がこれまで行ってきた地球の環境破壊を不間に付して、開発途上国の経済開発を規制することに対する開発途上国の不満があったからである。

# 倫理

## ① 西洋の源流思想

### 【解答】

- |     |                            |       |
|-----|----------------------------|-------|
| 問1  | 1                          | ソフィスト |
|     | 2                          | アガペー  |
| 問2  | ⑤                          |       |
| 問3  | 無知の知                       |       |
| 問4  | ②                          |       |
| 問5  | (1) ①<br>(2) 観想 (テオリア)     |       |
| 問6  | 自然に従って生きる (生きよ)            |       |
| 問7  | トマス・アクィナス                  |       |
| 問8  | (1) ③<br>(2) ムハンマド (マホメット) |       |
| 問9  | ③                          |       |
| 問10 | ①                          |       |

### 【配点】 (26点)

問1～問10 各2点×13=26点

### 【出題のねらい】

本問は、「正義」をテーマとする本文のもとに、西洋の源流思想に関して幅広い観点から出題した。古代ギリシア哲学、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教のそれについて、基本的な理解を問うものである。

### 【設問別解説】

問1  1 正解はソフィスト。民主制下のポリスでは、国政に参加する能力として重視された弁論術を教える人々（ソフィスト）が輩出した。しかし、弁論術は、次第に真理そのものを語るというよりも、聞く人が真理だと思うように語る技術となっていました。そのため、ソフィストの議論は、絶対的で普遍的な真理の存在を否定するものになっていました。例えば、プロタゴラス（前494？～前424？）は、ものごとの真偽や善悪を決める基準は個々人の判断であって、万人に共通する普遍的な真理は存在しないと考えた。真理についてのこうした立場を相対主義といい、「人間は万物の尺度である」という彼の言葉はそのことを端的に表している。

2 正解はアガペー。アガペーとは、キリスト教における神の愛を特徴づける概念で、神がすべての人にそぞろ無差別無償の愛のこと。そのような神の愛に倣って、人間が他人に対して実践するのが隣人愛である。隣人愛はアガペーの特徴を踏まえて、自分の「敵」や自分を「迫害する者」にすら、見返りを求めずに向けられるものだとされた。

問2 正解は⑤。 A にはアルケーが入る。アルケーは「万物の根源」を意味するギリシア語で、自然学者たちはこれを探求した。 B にはエンペドクレスが入る。エンペドクレス（前492？～前432？）は、土・水・火・空気を四つの元素として、それらの離合集散によって万物の生成消滅を説明した。したがって、⑤の組合せが正解。

なお、正解以外の選択肢に出てくる「アトム」（原子）、「ケノン」（空虚）、「デモクリトス」は、次のような知識として押さえておこう。自然学者のデモクリトス（前460？～前370？）は、それ以上分割できない微小な物質であるアトムをアルケーとともに、あらゆる事物はケノンにおけるアトムの離合集散によって生滅変化すると説いた。

問3 正解は無知の知。ソクラテス（前469？～前399）の哲学の出発点となったのは、自分が人間にとて最も大切な善美のことがらについて何ひとつ知らないという自覚（無知の知）であった。彼は、「ソクラテス以上に知恵のある者はいない」というデルフォイの神託の真意を確かめるために、知者として名高い人々との問答を繰り返した。それを通じて彼は、信託の意味を、自分は善美のことがらについて無知であると自覚しており、その点で他の者よりも優れているということだと理解した。彼は、こうした考えに基づいて問答法を実践した。それは、まず問答の相手に自分が知っていると思い込んでいることを語らせてから、相手の主張に含まれる論理的矛盾をするどく指摘し、相手が自分で真理に到達できるよう手助けするというものであった。

問4 正解は②。プラトン（前427～前347）は、永遠不変のイデアからなるイデア界（概念界）と、そのイデアの不完全な模像としての諸事物からなる現象界（感覚の世界）とを分ける二世界説の立場をとった（二元的世界觀）。そして、人間の魂は、現象界に生まれ落ちる以前にはイデア界に住んでいたため、現象界にあってもイデアへの憧れ（エロース）があり、それが原動力となってイデアを想起（アナムネシス）するとした。

①プラトンによれば、イデアは生成消滅する現実の諸事物を成り立たせている真实在であるが、すべ

てのイデアを統一し秩序づけている最高のイデアは善のイデアである。したがって、前半は正しいが、後半の「愛のイデア」は善のイデアの誤り。③プラトンは、人間の魂の三部分のうち理性が気概と欲望を統御することによって、魂に全体としての調和がもたらされたとした。したがって、「気概がその他の二つの部分を統御する」という記述は誤り。④プラトンは、魂の三部分それぞれに対応させて、徳を知恵・勇気・節制の三つに分け、また國家を統治者階級、防衛者階級、生産者階級の三つに分けた。そして彼は、統治者が知恵の徳を、防衛者が勇気の徳を、生産者が節制の徳を担ってそれぞれの本分を果たすとき、正義の徳を体現する理想国家が実現するとし、そのためには、知恵によってイデアを認識する哲学者が統治者にならなければならないと説いた（哲人政治）。しかし、彼のいう統治者は「軍人階級と生産者階級によって民主的に選挙された統治者」ではないので、この選択肢の記述は誤り。

問5 (1) 正解は①。ア：正しい。アリストテレス（前384～前322）の目的論的自然観についての正しい記述。形相（エイドス）とは個々の事物に内在する本質、質料（ヒュレー）とは事物の物質的素材のことである。アリストテレスは、自然の運動を、形相の実現をめざすものとして目的論的に捉えた。イ：正しい。アリストテレスによれば、人間の徳は、知性のはたらきを優れたものにする知性的徳と、行動や態度を優れたものにする倫理的（習性的・性格的）徳に分類することができる。倫理的徳は、知性的徳の一つである思慮（フロネシス）に従って、過度と不足の適切な中間である中庸（メソテース）を保つ習慣によって身につくとした。ウ：誤り。アリストテレスが、部分的正義を、調整的正義と配分的正義に分けて考えたという点は正しいが、それぞれの説明が逆になっている。

(2) 正解は観想（テオリア）。観想（テオリア）的生活とは、知性的徳の一つである知恵（ソフィア）に基づいて、真理の認識そのものを楽しむ生活のことである。アリストテレスはこの観想的生活が最高善（幸福）であるとした。

問6 正解は自然に従って生きる（生きよ）。ストア派の祖であるゼノン（前335？～前263？）は、人間には自然の理性（ロゴス）が種子として備わっているとし、その理性によって感情や欲望を抑制し、情念に動かされない境地（アバティア）に達することが賢者の理想であると説いた。

問7 正解はトマス・アクィナス。トマス・アクィナ

ス（1225？～74）は、信仰の優位を前提として、理性と信仰の調和を図り、スコラ哲学を大成したといわれる。彼は、自然の光（理性）によって明らかにされる哲学の真理は、恩寵の光によって明らかにされる信仰の真理と矛盾せず、むしろ互いに補完し合うものであるとした。また彼は、神の被造物である自然の偉大さを理性によって解明することは、創造主としての神の偉大さを讃えることになると考えた。

問8 (1) 正解は③。イスラム教の聖典『クルアーン（コーラン）』には、モーセ（前13世紀？）、イエス（前4？～30？）、ムハンマド（マホメット、570？～632）など全部で25人の預言者（神の言葉を預り人々に伝える者）の名が記されている。なお、イスラム教では、神の子の存在は認められていないことに注意しよう。

①誤り。イエスは、「私が律法や預言者を廃するために来たと思ってはならない。廃するためではなく、成就するために来た」と述べていることからもわかるように、ユダヤ教における律法そのものを批判したのではなく、律法の表面的な遵守にとらわれている状態（律法主義）を批判した。②誤り。偶像崇拜の禁止は、ユダヤ教とイスラム教に共通している。④誤り。イスラム教では、キリスト教と同様に、神が生前の行いを裁く最後の審判があるとされている。

(2) 正解はムハンマド（マホメット）。イスラム教では、(1)の解説でも見たように、モーセやイエスなども預言者とされている。しかし、ムハンマドが最も正確に神の言葉を伝え、それ以降は神の啓示が下されることもなくなったことから、最大にして最後の預言者とされている。

問9 正解は③。□Dには「贖罪」、□Eには「信仰」がそれぞれ入る。パウロ（？～65？）は熱心なユダヤ教徒であったが、復活したイエスの声を聞いてキリスト教に回心した。そして、イエスの十字架上の刑死は、人間が生まれながらに負う原罪に対するあがない（贖罪）であり、イエスの死と復活に示された神の愛を信じることではじめて罪から救われると説いた（信仰義認説）。文章中の「人が義とされるのは……信仰による」とは、この考え方をよく表している一節である。なお、①④の自由意志についてパウロは、「善をなそうとする意志は自分にはあるが、それをする力がない」としており、自由意志によって救われるという考え方には否定的であった。したがって、③の組合せが正解。

問10 正解は①。『三位一体論』はアウグスティヌス（354～430）の著作である。彼は、キリスト教の教義の基礎を築いた神学者（教父）の中でも、「最大の教父」とされる人物で、三位一体論とは、父なる神と子なるイエスと聖霊は唯一の神の三つの位格（ペルソナ）として同質かつ不可分であるとする考え方をいう。

②トマス・アクィナスの著作。③アリストテレスの著作。④プラトンの著作。

## ② 仏教の受容と展開

### 【解答】

問1 ①

問2 ①

問3 凡夫

問4 (1) ア・ウ

(2) 末法

問5 ③

問6 (1) 一乘

(2) 即身成仏

問7 惡人正機

問8 (1) ②

(2) ①

問9 日本の神々は、仏が衆生を救済するために姿を変えてこの世に現れたものだとする説。

(39字)

問10  3 栄西

4 わび（侘）

### 【配点】 (26点)

問1～問7 各2点×9=18点

問8 各1点×2=2点

問9・問10 各2点×3=6点

\*ただし、問4(1)は完答・順不同。

### 【出題のねらい】

本問は、日本における仏教思想の受容と発展に関する理解を問うものである。加えて、日蓮宗に帰依した宮沢賢治、仏教思想の影響を受けた茶道についても出題した。これを機会に、日本仏教独自の教義や実践、および各方面に対するその影響について押さえておこう。

### 【設問別解説】

問1 正解は①。日本に曹洞宗を伝えた道元（1200～53）によれば、いっさいの雜念を捨ててひたすら坐禅の修行に打ち込むこと（只管打坐）は、悟りを得るための単なる手段ではない。坐禅の修行に打ち込むことそのものが悟りの体得（証）なのである（修証一等）。

②「修行の第一の要諦」は師から与えられた課題（公案）を考究する坐禅（看話禪）にあるという趣旨の記述は不適当。道元が重んじた修行は、看話や念佛を排して、ただひたすら無想無念の坐禅に打ち込む黙照禪である。なお、栄西（1141～1215）が広めた臨濟禪では、參禪に際し、公案が重んじられる。③道元によれば、食事や洗面、清掃・洗濯といった日常雑事も修行である。したがって、日常雑事を「坐禅の修行とは無縁であり、むしろ坐禅の修行を妨げるもの」と捉えている点は不適当。④坐禅の修行を「悟りを得るための手段」と捉えている点は不適当。また、「坐禅の修行と悟りの体得は不二一体とはいえない」という記述も、①の解説で触れた修証一等の考え方には合致しない。

問2 正解は①。『往生要集』を著した源信（942～1017）によれば、現にあるこの世界は、欲望や苦悩に満ちている。そして彼は、この世を穢れた世だと厭わしく思い（厭離穢土）、極楽浄土で往生することを欣い求める（欣求浄土）ことをすすめ、その方法として、心に阿弥陀仏や極楽浄土を思い描く観想念仏を説いた。

②浄土宗を広めた法然（1133～1212）は、ただひたすら「南無阿弥陀仏」と念佛を称えさえすれば、阿弥陀仏の慈悲によって極楽往生できるという専修念佛の教えを説いたことで知られる。法然によれば、末法の世に生まれ、素質・能力に劣る人々にとって、自力の修行によって悟りを得ようとする聖道門は困難であり、阿弥陀仏のはたらき、すなわち他力を信じて浄土に生まれ、後生に悟りを得ようとする淨土門こそがふさわしい。したがって、死後に浄土で悟りを得るには「聖道門が不可欠」であるとする記述は、法然の考えに合致するものではないので、誤り。③「空也」ではなく明恵が正しい。華嚴宗の僧である明恵（1173～1232）は、専修念佛を説く法然の教えは、悟りを求める心（菩提心）を否定するものだと批判したことで知られる。なお、空也（903～972）は、諸国を遍歴・遊行して阿弥陀仏信仰を説くとともに、道路を通したり、橋を架けたり、貧民や病人の世話をしたと伝えられる人物。こ

うした事績から阿弥陀聖・市聖と呼ばれた。④「一遍」ではなく日蓮が正しい。日蓮（1222～82）は、「法華經」こそがブッダ（前463？～前383？）の真実の教えを伝える唯一の経典であるとし、これに帰依するという思いを込めて「南無妙法蓮華經」という題目を唱えること（唱題）により人々は救われると言った。また彼は、当時の飢饉や大地震の発生、疫病の流行などが、『法華經』に従わないために起こったものだとして、他宗派の教えをはげしく非難した。「念佛無間、禪天魔、真言亡國、律國賊」（念佛宗は無間地獄に至り、禪宗は天魔の所業であり、真言宗は国を滅ぼし、律宗は国賊である）といういわゆる四箇格言は、そのことをよく表している。なお、一遍（1239～89）は時宗の開祖として知られる人物。全国を遊行した一遍は、「南無阿弥陀仏、決定往生、六十万人」と書いた念佛札を人々に配り、念佛を称えて踊る「踊り念佛」を広めたことでも知られる。

問3 正解は凡夫。聖德太子（574～622）は、仏教に対して深い理解を示し、仏教に基づく政治理念を掲げたといわれる人物である。彼が制定したとされる『十七条憲法』には、「我必ずしも聖に非ず、彼必ずしも愚に非す。共に是凡夫ならくのみ」と記されている。ここには、仏の目から見れば人はみな凡夫（欲望にとらわれた愚かな存在）にすぎないという、仏教の人間理解を見ることができる。

問4 (1) 正解はア・ウ。ア：適當である。ブッダによれば、人生は苦しみに満ちている（一切皆苦）が、その原因は、真理について無知であることにある（無明）。その真理とは、あらゆる事象は変化してやまないこと（諸行無常）、また、いかなる存在も不变の実体をもたないということ（諸法無我）である。これらの真理を悟ると、人は、煩惱（正しい判断を妨げる心のはたらき）の炎が消えた安らぎの境地（涅槃寂靜）に達することができる。イ：適當でない。ブッダの説く縁起の法によれば、人間の自我も含めてすべてのものは独立して存在するのではなく、相互に依存し合ながら生起している。したがって、「いかなるものも独立して存在しており、互いに依存し合って存在しているのではない」という記述は、ブッダの考え方に対する反対である。ウ：適當である。ブッダによれば、我執を捨てて真理を悟れば、生きとし生けるものへの慈しみとあわれみの心（慈悲の心）をもつことができる。

(2) 正解は末法。平安時代の後期には、ブッダの死後、教（ブッダの説いた教え）・行（正しい修

行）・証（悟り）の三つが備わった時代（正法）が1000年続き、その後、教と行だけが残り証のない時代（像法）を経て、教だけが残る時代（末法）に入るという思想（末法思想）が広まった。日本では1052年から末法の世に入ったと考えられ、この世では救いが得られないでの、死後に阿弥陀仏のいる西方浄土への往生を望む浄土信仰が盛んになった。

問5 正解は③。Aには「鑑真」が、Bには「具足」が、Cには「菩薩」が、それぞれ入る。中国唐代の高僧である鑑真（688～763）は、中国に留学中の日本の僧らに請われ、暴風や失明などの苦難を乗り越えて来日し、東大寺に戒壇（正式な僧侶としての資格〔戒律〕を授ける場所）を設けた人物。鑑真が日本に伝えた戒律は小乗仏教の具足戒であったが、最澄（767～822）は比叡山に新たな戒壇を設け、大乗仏教の菩薩戒をもって僧となる制度を主張した。最澄は、新たな戒壇の設立の許可を朝廷に求めたが認められず、許可が出たのは最澄の没後のことであった。なお、選択肢にある達磨（？～530？）は、中国の禪宗の始祖とされる人物。如淨（1163～1228）は、中国宋代の曹洞宗の禪僧で、道元にその法を伝えたことで知られる人物。

問6 (1) 正解は一乘。最澄は、留学僧として唐に渡り、「法華經」を最高の教えとする天台の教えを学び、帰國後、比叡山で日本天台宗を開いた人物。彼は、生きとし生けるものはみな悟りを開き佛となる可能性があり（一切衆生悉有仮性）、特別な人に限らずすべての人が、悟りを得て佛の境地に達することは可能であるとする法華一乘思想を説いた。最澄は、法相宗（奈良時代に栄えていた宗派で、南都六宗の一つ）の学僧である徳一（760？～835？）と、法華一乘思想をめぐって数次にわたって論争したことで知られる。その内容は、三乗思想と法華一乘思想のどちらが正しいか、というものであった。三乗思想とは、悟りの世界に入るための三種の教え（声聞乗・緣覚乗・菩薩乗）があり、人には悟りを開くことのできる者と、できない者の区別があるという法相宗の考え方である。これに対し、法華一乘思想とは、三種の教えに区別をつけず、すべての人を悟りへと導く真の教えはただ一つで（一乗）、『法華經』こそが、眞の教えであるとする天台宗の考え方である。最澄は、法華一乘思想こそが正しいと説くとともに、人には悟りを開くことのできる者と、できない者の区別があるという徳一の差別的な救済觀を強く批判した。

(2) 正解は即身成仏。空海(774~835)は、最澄とともに唐に渡り、密教を学んで帰国した後、高野山に金剛峯寺を建立し、真言宗を広めた人物。空海は、人は、手に印契をむすび(手で仏を象徴する形を組むこと)、口に真言(マントラと呼ばれる呪文)を唱え、心に仏を念ずる三密の修行によって、この世におけるこの身のままで仏になることができるという即身成仏の思想を説いた。

問7 正解は悪人正機。浄土真宗の開祖である親鸞(1173~1262)によれば、自力で善行を積むことができると思っている者(善人)は、阿弥陀仏の慈悲の力を頼む心に欠けるところがある。このような善人よりも、むしろ、自力では煩惱から逃れることができないことを自覚する者(悪人)こそが、阿弥陀仏の真正な救いの対象である。こうした彼の考え方を悪人正機説と呼ばれる。この考えは、親鸞の弟子唯円(1222?~89?)が書き遺した『歎異抄』の中にある「善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」という言葉によって端的に言い表されている。

問8 (1) 正解は②。日蓮宗(法華宗)の開祖である日蓮は、北条時頼(1227~63)に対し、ブッダの唯一の正しい教である「法華経」が興隆すれば(立正)、災いが払われ、国土の安穏(安國)が実現すると説く『立正安國論』を献じようとした。

①『興禅護國論』は、栄西の著作で、禅宗に向けられた非難に対して、禅宗が鎮護国家に役立つことを論じたもの。③『正法眼藏』は、道元の著作。道元が弟子や在家の人々に説いた説法を、漢字仮名交じり文でまとめたもの(道元の言葉を弟子が記録し、後に道元自身が加筆したものであるともいわれる)。④『教行信証』は、親鸞が著したとされる、浄土真宗の教義の根本についての書。⑤『三教指帰』は、空海の著作。彼は、同著において儒教・道教・仏教を比較し、その中で仏教が最も優れていると主張している。

(2) 正解は①。宮沢賢治(1896~1933)は、農事指導や農民芸術運動などを実践するとともに、法華経信仰に基づく独特の世界観に立った作品を著したことで知られる人物。彼は、「農民芸術概論綱要」を著し、「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」と述べ、社会全体の幸福と、その中で生きる個々人の幸福とを対立的に捉える見方を否定した。

②岡倉天心(1862~1913)は、英文で『東洋の理想』や『茶の本』などを著し、東洋および日本の伝統的文化・芸術の価値を海外に紹介したことで知ら

れる。③小林秀雄(1902~83)は、『無常といふ事』などで知られる、日本の近代批評の確立者。④鈴木大拙(1870~1966)は、「日本的靈性」などを著した仏教学者。彼は、大乗仏教についての著作を英語で著し、とくに日本の禪文化を海外に広く紹介したことでも知られる。⑤石川啄木(1886~1912)は、『一握の砂』など、生活感情あふれる新風の短歌をつくった歌人。彼は、大逆事件(1910年)に衝撃を受け、評論「時代閉塞の現状」を通じて時代の行き詰まりを告発し、民衆を抑圧し苦しめている国家権力に抵抗し得ない自然主義文学を批判したことでも知られる。

問9 正解は解答例を参照。平安時代になると、日本古来の神々への信仰と仏教信仰とが融合する神仏習合が広まった。その具体例の一つが本地垂迹説である。これは、日本の神々は、仏が衆生救済のために本来の姿を変えてこの世に現れたものだとする説(神の本地は仏であり、仏が衆生を救うために神となって垂迹したとする説)である。

問10 3 正解は栄西。栄西は、比叡山で天台密教を学んだのち、中国(宋)へ渡って天台密教や禪宗(臨済宗)を学んだ。また栄西は、中国から茶の種を持ち帰り、「喫茶養生記」を著して茶の効能を説き、喫茶の習慣が広まるきっかけをつくったことから日本の茶祖とも呼ばれる。

4 正解はわび(侘)。千利休(1522~91)が大成した茶道では「わび」が重視される。わびは、簡素・閑寂で趣のあるさまを示す。

### ③ 近代的人間観の形成とヨーロッパ精神 【解答】

問1 ④

問2 (1) アー○ イー○ ウー× エー×  
(2) 万能人(普遍人)

問3 ルソー

問4 ①

問5 (1) ③

- (2) 予定説  
(3) ウェーバー

問6 道徳

問7 (1) ②

- (2) ヴォルテール

問8 東洋を後進的な「他者」と見なすことで、「自己」を先進的で文明化された社会と捉え

ようとする思考様式。(49字)

### 【配点】 (24点)

問1・問2(1)	各1点×5 = 5点
問2(2)～問6	各2点×7 = 14点
問7(1)	1点
問7(2)・問8	各2点×2 = 4点

### 【出題のねらい】

本問のねらいは、近代の幕開けを告げたといわれるルネサンスや宗教改革を経て育まれた近代のヨーロッパ精神が、どのような行方をとどり、その後の植民地拡大を求めるヨーロッパ精神へと変化していったのかということについての理解を深めることにある。それゆえ、ルネサンスや宗教改革の思想を中心に、ヴォルテールやカント、さらには現代思想からサイドの思想についての50字論述問題を出した。また、人間観や青年期をめぐる問い合わせも出題し、「倫理」に関する幅広い理解も求めた。

### 【設問別解説】

問1 正解は④。フランスの哲学者ベルクソン（1859～1941）は、人間の優れた能力を「道具を作り自然に対してはたらきかける」ことに見いだし、この観点から人間をホモ・ファーベル（工作人）と定義した。

①人間の特徴を「知恵があり言語文化を発達させてきた」ことに見いだし、ホモ・サビエンス（英知人）と定義したのは、スウェーデンの博物学者リンネ（1707～78）である。②人間の特徴を「遊びによって文化を発展させてきた」ことに見いだし、ホモ・ルーデンス（遊戯人）と定義したのは、オランダの歴史家ホイシンガ（1872～1945）である。③人間の特徴を「シンボルを介して世界を理解する」ことに見いだし、ホモ・シンボリクム（象徴を扱う人）と定義したのは、ドイツの哲学者カッシーラー（1874～1945）である。

問2 (1) アは○。ボッカチオ（1313～75）は、イタリア・フィレンツェの散文作家。彼は、10人の男女が10話ずつ10日間に話した100の短編からなる『デカメロン（十日物語）』において、人間の欲望を肯定的に描いた。

イは○。ピコ・デラ・ミランドラ（1463～94）は、ルネサンスを代表するイタリアのヒューマニスト（人文主義者）。彼は、「人間の尊厳について」に

おいて、人間は自らの自由意志によって、神に近い存在にも、禽獸のような存在にもなることができ、このことが人間の尊厳の根柢であると主張した。

ウは×。エラスムス（1466～1536）も、ルネサンスを代表するネーデルラント（現オランダ）のヒューマニスト。彼は、『痴愚神札譲（愚神札譲）』において、教会や聖職者の腐敗、戦争に明け暮れる王侯貴族の愚行を痛烈に批判した。また、ルター（1483～1546）の『奴隸意志論』に対抗して著した『自由意志論』において自由意志の意義を肯定している。したがって、「拭い難い原罪……善をなし得ない」という記述は、エラスムスの思想の説明として不適当である。

エは×。トマス・モア（1478～1535）は、イギリスのヒューマニスト。彼は、「ユートピア」において、私有財産制のない理想社会を描くことで、現実社会のあり方を批判した。その当時、イギリスでは土地所有者が農地を拡大しようとして盛んに農地の囲い込みを行ったが、彼はこうした状況を批判して、「羊が人間を食い尽くす」と述べた。したがって、「人間性に反する財産共有制を批判し、万人が意のままに欲望を追求できる理想社会」という記述は、モアの描いた理想社会の説明として不適当である。

(2) 正解は万能人（普遍人）。ルネサンスにおいては、『最後の晩餐』や『モナ・リザ』などの絵画作品で知られるとともに、建築・工学・解剖学など様々な分野で業績を残したレオナルド・ダ・ヴィンチ（1452～1519）のように、自己の能力を多方面で発揮する人物が現れた。こうした多方面で個性的な諸能力を開花させることができる万能人（普遍人）は、当時の理想の人間像であった。

問3 正解はルソー。フランスの思想家ルソー（1712～78）によれば、人間はもともと、他人を思いやる憐憫の情をもち、善意に満ちた自由・平等な存在であったが、文明の発達とともにそうした状態（自然状態）が失われたとし、理想社会を取り戻そうとした。そうした理想社会に近いものとして彼が構想したのが、公益の実現をめざす全人民の普遍的意志（一般意志）に基づく共同社会であった。また彼は、『エミール』において、「われわれはいわば二度生まれる。一度目は生存するために。二度目は生きるために。一度目は人類の一員として。二度目は男性として、女性として」と述べ、青年期を精神的な自立の時期としての「第二の誕生」の時期であるとしたことでも知られる。

**問4** 正解は①。問題文を丁寧に読めば正解できるだろう。Aを含む文章の直前に「ルネサンスの精神は……キリスト教の精神とは根本的に対立するはずである」とあるから、②や④のように「ルネサンスの精神とキリスト教の精神に、矛盾や対立はなく」とはいえず、問題文全体から②「双方とも衰退」したとか④「それぞれ独自に発展」したという内容も読み取れない。また、第3・4段落では、メランヒトン（1497～1560）のように、当時、ヒューマニストの流儀に従って宗教改革を支えてきた人物がいたと述べられており、問題文全体からも、③ルネサンスの精神とキリスト教の精神が「敵対関係を先駆化」させていったとはいえない。むしろ、①ルネサンスの精神とキリスト教の精神は「矛盾と対立を抱えながらも、独特の仕方で融合」していったのであり、この矛盾と対立を含んだ両立こそが「ヨーロッパ世界固有の現象」であり、他の地域には見られない「ヨーロッパらしさ」であった。したがって、①が正解となる。

**問5** (1) 正解は③。ルター（1483～1546）は、「信仰のみ」という考えに立ち、罪深い人間が神によって義とされる（罪を赦される）のは、ひとえに信仰によると説いた（**信仰義認説**）。また、すべてのキリスト者は神のもとに平等であり（**万人司祭説**）、キリスト者は聖書だけを信仰の拠り所にしなければならない（**聖書中心主義**）とも説いている。

①カルヴァン（1509～64）の事績についての説明。彼は、宗教改革の理念を現実の政治にも活かすために、スイスのジュネーブで神政政治（神権政治）を行った（カルヴァンの思想については、問5(2)・(3)の解説も参照）。②ルターは、聖書をドイツ語に訳したことでも知られているので誤り。④イグナチウス・デ・ロヨラ（1491～1556）の事績についての説明。宗教改革運動に前後して、カトリック教会内部での改革・刷新運動（対抗宗教改革）が興ったが、彼はその中心人物の一人で、厳格な規則を守り通す修道会イエズス会（jesuit教団）を組織し、その初代総長となったことで知られる。イエズス会は海外布教にも熱心であり、日本に初めてキリスト教を伝えたことで知られるフランシスコ・ザビエル（1506～52）もイエズス会の宣教師である。

(2) 正解は予定説。カルヴァンは、『キリスト教綱要』などにおいて、誰が救われるかは神の意志によってあらかじめ定まっており、しかも人はみな自分が救われるかどうか知ることができないと唱えた。これを予定説という。

(3) 正解はウェーバー。カルヴァンは、世俗の職業は神から与えられた天職であり、それにひたすら勤んで神の栄光を世俗の世界で実現することがキリスト者の使命であるとした（**職業召命觀**）。こうした教えを信じる人々の間では、神による呼びかけに応えて勤勉に働くことにより、人は神の救いを確信できると考えられるようになった。また、労働の成果としての利得は神からの贈り物であり、正当な恵みであるとも考えられた。ドイツの社会学者ウェーバー（1864～1920）は、このような世俗の世界における職業的な営為と内面的な信仰との結びつきに注目し、『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』において、カルヴァン派の倫理（カルヴィニズム）と富の蓄積を追求する資本主義の精神の親近性を指摘した。

**問6** 正解は道德。ドイツ観念論の哲学者であるカント（1724～1804）は、理性のはたらきを批判的に分析・分類していく中で、理性には、科学的認識の基礎となる**理論理性**と、理論理性では捉えられない神や自由など経験を超えたものを対象とする**実践理性**のはたらきがあることを明らかにした。そして、『**道徳形而上学原論**』や『**実践理性批判**』などに代表される実践哲学の分野において、人間が自然的な因果律（自然法則）に縛られているだけではなく、実践理性の命じる**道徳法則**に自律的に従う自由の主体としての側面があることを説いた。そして、このような道徳的主体としての人間を物件と区別して「**人格**」と呼び、その義務に従って常に善をなそうとする意志をカントは「**善意志**」と呼んだ。

**問7** (1) 正解は②。フランスのモラリストであるモンテニュ（1533～92）は、常に自分自身を振り返り自己の判断が独断的な偏見に満ちたものにならないようになると説いた。「私は何を知るか（ク・セ・シユ）」というモンテニュの内省的な問いかけは、彼の**懷疑主義**を表す言葉として知られ、宗教戦争（ユグノー戦争）の狂乱の時代の中で、思想を絶対化しない謙虚さと他者への寛容を説く彼の精神を端的に示すものである。また、モンテニュが、知識の体系化や集積化とは違う形で物事を叙述する『エセー（隨想録）』という独特的の表現方法を用いて人間性を探究したことも押さえておこう。

(2) 正解はヴォルテール。フランス啓蒙思想を代表するヴォルテール（1694～1778）は、絶対王政期のフランスにあってロック（1632～1704）やニュートン（1642～1727）などイギリス思想の紹介につと

め、人間精神の進歩発展という見地から世界文化史を考察するとともに、『寛容論』などの著作を通じて、反ローマ・カトリック、反権力の精力的な執筆活動や発言を行った。また、フランスの啓蒙思想家ディドロ（1713～84）やダランペール（1717～83）を中心とする百科全書派が編集した『百科全書』に寄稿したこともある。

問8 正解は解答例を参照。パレスチナで生まれアメリカで活躍したサイード（1935～2003）は、「オリエンタリズム」において、西洋近代社会は、東洋（オリエント）を、自分たちとは正反対の後進的でエキゾチックな他者と見なすことで、逆に先進的で文明化された西洋の自己像（アイデンティティ）を作り上げたと主張した。彼は、こうした思考をオリエンタリズムと呼び、これが西洋近代社会の（有色人種に対する）人種差別の意識や植民地支配を正当化する役割を担ってきたと批判した。

## 4 科学技術と倫理

### 【解答】

- 問1 バークリー（バークレー）
- 問2 イドラ
- 問3 (1) イ  
     (2) インフォームドコンセント
- 問4 ア
- 問5 持続可能な開発
- 問6 アインシュタイン
- 問7 (1) ③  
     (2) パラダイム
- 問8 有用であるもの
- 問9 ①
- 問10 ②
- 問11 ①

### 【配点】 (24点)

問1	2点
問2	1点
問3・問4	各2点×3=6点
問5	1点
問6～問11	各2点×7=14点

### 【出題のねらい】

本問は、「科学技術と倫理」をテーマに、近代科学を哲学的に基礎づけた哲学者の学説や、科学技術の發

展に伴う現代の諸課題についての基本的な知識・理解を試すことを主なねらいとしている。併せて、本文の読解力や論理的思考力を試すことも意図した。

### 【設問別解説】

問1 正解はバークリー（バークレー）。イギリス経験論の系譜に位置するバークリー（1685～1753）は、経験を重んじる立場から、物体が知覚といった経験とは独立に存在するという考え方を斥け、「存在するとは知覚されることである」と唱えた。

問2 正解はイドラ。イギリス経験論の祖とされるベーコン（1561～1626）は、あるべき学問の方法として、経験的に得られた個別的な事実をもとに一般法則を導き出すという帰納法（問11の解説も参照）を提唱した。またベーコンは、人間が先入見や偏見をもっていたのでは、ありのままの事実を正しく認識できなくなるとして、先入見や偏見を丹念に取り除くべきことを主張した。この先入見・偏見のことを見たういう。なお、このイドラの具体的なものとしてベーコンが、種族のイドラ・洞窟のイドラ・市場のイドラ・劇場のイドラの4種類をあげていることも押さえておこう。

問3 (1) 正解はイ。現行の臓器移植法は、次の①②のいずれかの場合に、脳死した者からの移植のための臓器摘出を認めている。①脳死した者が移植のために臓器を提供する意思を書面で表示していて、遺族（家族）がその摘出を拒否していないか、遺族（家族）がいない場合、②脳死した者が移植のために臓器を提供する意思がないことを表示していない場合で、遺族（家族）がその摘出について書面で承諾している場合。これらの規定に照らして、ア～ウを見てみよう。

アは本人が拒否している（提供する意思がないことを表示している）のだから、①②の条件の前半に反するので、摘出は認められない。

イは本人の意思が不明なので、①の条件を満たしていない。しかし、意思がないことを表示してはおらず、かつ遺族（家族）が書面で承諾しているのだから、②の条件を満たしている。したがって、摘出は可能である。

ウは遺族（家族）が拒否しているのだから、①②の条件の後半に反する。したがって、摘出は認められない。

以上のことから、摘出が認められるのはイの場合だけとなる。

(2) 正解はインフォームドコンセント。これはし

ばしば「十分に知られた上で同意・決定」とも訳されるもので、医療現場において、医師が専門家として患者に十分に情報を与えることを前提に、患者の自己決定権を尊重して、患者の意思に基づいて医療行為を進めていこうとする考え方である。

問4 正解はア。表と選択肢とを照らし合わせれば、おのずと正解できるタイプの設問である。

ア：「循環型社会の形成についての意識」の「該当者数」を見ると、最も多いのは「生活水準は落とさずできる部分から循環型社会に移行」なのだから、これが最も回答割合の高いものである。同様に、最も少ないのは「生活水準を落とすので循環型社会移行は受け入れ不可」なのだから、これが最も回答割合の低いものである。したがって、これは正文。

イ：「ごみを少なくする配慮やリサイクルの実施」について「いつも実施している」という回答割合が最も低いのは、「生活水準は落とさずできる部分から循環型社会に移行」である。したがって、これは誤文。

ウ：例えば、「循環型社会の形成についての意識」について「生活水準が落ちても循環型社会に移行すべき」と回答した人の中では、「ごみを少なくする配慮やリサイクルの実施」について最も回答割合が高いのは「いつも実施している」である。したがって、これは誤文。

以上のことから、正しい記述はアのみである。

問5 正解は持続可能な開発。この理念は、国連に設置された「環境と開発に関する世界委員会」（ブルントラント委員会）が1987年にまとめた『地球の未来を守るために』という報告書の中で打ち出されたもので、1992年に開催された国連環境開発会議（地球サミット）の共通理念ともなった。現在世代のことだけでなく将来世代のことにも配慮するという考え方で、世代間倫理の視点を含むものである。

問6 正解はアインシュタイン。このアピールは「ラッセル・アインシュタイン宣言」と呼ばれており、哲学者のラッセル（1872～1970）と、物理学者のアインシュタイン（1879～1955）の呼びかけによって発せられたものである。なお、この宣言の精神を引き継ぎ、世界の科学者が平和問題や軍縮問題などについて討議するバグウォッシュ会議（科学と国際問題に関する会議）が、1957年から開催されるようになった。

問7 (1) 正解は③。ケプラー（1571～1630）は、師にあたるティコ・ブラーエ（1546～1601）の残した

天体の観測データを地動説の立場からまとめあげ、惑星運動についての三つの法則（ケプラーの法則）を確立した。

①コペルニクス（1473～1543）が唱えたのは、地動説すなわち「宇宙の中心に太陽があるとする天文学説」である。したがって、これを否定して「地球が宇宙の中心にあるとする」理論を唱えたとする記述は、不適当。②ガリレイ（1564～1642）が「宗教裁判にかけられた」というのは正しい。しかし、彼はキリスト教を否定したわけではなく、神への深い信仰心に基づいて、神が創造した自然について研究を始めたのである。したがって、彼が「キリスト教を否定するに至った」という記述は、不適當。④ニュートン（1642～1727）は、神が創造した自然を研究することによって神を称賛することが研究目的であるとしており、神について述べることは自然研究の一部であるとしている。したがって、自然研究の上で神を有害なものだと考えた、あるいは神について論じる学問を偽りだとしたという趣旨の記述は、不適當。

(2) 正解はパラダイム。科学史家のクーン（1922～96）は、科学研究のあり方を分析することなどを通じて、それまでの科学観を大きく転換する見方を提唱した。彼によれば、科学研究は「先入観や前提なくあるがままに自然そのものを研究する」ような営為ではなく、自然に対する見方や研究の方法・考え方方が科学者集団の内部であらかじめ前提として共有されており、その前提に沿って研究が行われている。この前提となる見方・方法のことを、彼はパラダイムと呼んだ。なお、パラダイムという語は、現在では科学史研究の枠を超えて、ある時点で支配的なものの見方・考え方という意味の一般用語へと拡張されて用いられるようになっている。

問8 正解は有用であるもの。プラグマティズムは「実用主義」と訳されることもある思想潮流である。この潮流の哲学者であるジェームズ（1842～1910）は、あることがらが真理であるかどうかは実際の生活の中で役に立つかどうかによって判断されるとして、真理は有用であり有用なものは真理であるとする考えを唱えた（真理の有用性）。この考えは、真理は絶対的なものではなく相対的なものであると見なすものである。

問9 正解は①。本文は、科学と社会とをそれぞれ独立して存在するものとして位置づける考え方を批判する立場から、「科学が社会によって悪用されないためにはどうしたらよいか」という問題設定に疑問

を投げかけている。そして [A] の部分は、いま述べた本文の立場と疑問の理由を説明したりを「したがって」で受けて小括しているところである。①の記述は、この本文の立場を端的に表現しているので、これが正解となる。

②本文では、[A] の直前で、現代における科学研究は「実用性が射程に入る」ものとして行われているとしている。これに対しこの選択肢は「現代においても科学そのものは実利を離れて……」としており、本文の趣旨に反するものとなっている。③本文では、[A] のすぐ後で、「科学そのものを否定する反科学主義も……妥当ではない」としているが、選択肢は「科学という営為そのものが排斥されるべきものである」として、反科学主義を肯定しているので、本文の趣旨に反する。④本文の最終段落では「科学・技術の現実のあり方を的確に捉えておかなければならない」としているのに対し、選択肢は「現実の科学のあり方がどのようなものであるかといった空論は考察の外に置き」としており、本文の趣旨に反する。

問10 正解は②。ライブニッツ（1646～1716）は大陸合理論の系譜に位置する学者。この設問では、彼による真理の二区分について知らなくても、与えられた説明から推論していくべき正解である。 $\alpha$  の真理は、命題内部の論理によって正誤が判断される（命題を否定すると論理矛盾が生じる）真理である。「三角形」であれば論理必然的に「三つの頂点をもつ」のであり、「三つの頂点をもたない三角形」は存在しない。したがってこの選択肢の命題は、これを否定すると命題内部に論理的な矛盾が生じてしまうので、 $\alpha$  の意味での真理であると見なされる。

残る選択肢はいずれも、命題内部の論理によってではなく、①であれば歴史の、③であれば英語の実際の話法の、④であれば生物学（解剖学）の、それぞれ「事実に照らして真理であるといえる真理」であるから、 $\beta$  の真理にあたる。

問11 正解は①。大陸合理論の祖とされるデカルト（1596～1650）は、経験だけに頼る学問は誤りを免れないとして、確実な真理を出発点に、理性による論理的な推論を通じて個別的な結論に至ることが、あるべき学問の方法だと考えた。このような学問の方法を、<sup>大元大元</sup> 演繹法という。そして、このモデルとなつたのが、数学（幾何学）である。以上のことから、[a] には「数学」が、[b] には「演繹法」が、それぞれ当たる。しかし、演繹法を採る場合には、その出発点となる絶対確実な真理がま

ず得られていなければならない。それを得るために彼は、あらゆる事柄を疑うという方法的懷疑を行い、その結果「疑っている（考えている）自分」の存在は確実であるという明らかな真理を発見し、「われ思う、ゆえにわれあり」を哲学の第一原理とした。したがって、[c] には「考える私」が当たる。

なお、「帰納法」は問2の解説でも触れたようにベーコンが提唱した学問の方法であり、[b] には当たる。また、デカルトは無限实体としての神の存在を論じているが、これは「考える私」という哲学の第一原理の上に組み立てられる真理であって、「哲学の第一原理」そのものではないので、[c] には当たる。

る。これと同じことがこの選択肢には書かれている。したがって、これが一つ目の正解である。

ウは、筆者が子供の頃、大家族だったがゆえに監視がゆるかつたことを述べた選択肢である。その当時の筆者は「受動的な読書」を行っていたと本文にある。とすれば、当時、筆者が読んだ本は、自分の興味関心に従つた「読みたい本」ではなく、身近にたまたま存在していた本である。すると、この選択肢の冒頭の「読みたい本のために」はおかしい。

エは、確かに「読書の仕方は大きく違い、その違いが書物の書かれ方に影響を与えてしまつ」という点に関しては、第八段落の内容である、読者と作家の関わりを踏まえたものである。しかし、家族構成の変化に応じて読み方が変わる、という本文の主題からすれば、選択肢前半の「世代の違いによつて人々の読書の仕方は大きく違ひ」はおかしい。

オについて。第十段落に「この本のタイトルを、私はもっぱら受動的な読書をしていた子供時代の記憶からつけた」とあることから、「書名」に関する説明は正しい。また「書物の内容」に関するても、同じ段落に「歴史をさわがせた女たち」の中に書かれ、子供の私を啞然とさせた、カトリーナ・スマルツアや則天武后といった女たちの大膽さが、金原ひとみや綿矢りさなど、対象として(今回の評論集に)取り上げた六人の若い日本人女性の強さと重なると思った」とあることから正しいと言える。このように筆者にとって「子供時代の(読書)経験」が今回の出版に大きく関わっていることは明白である以上、そこから「筆者にとって子供時代の経験は重要であった」と評することは可能である。したがつて、これが二つ目の正解である。

カはウと同様に、筆者の子供時代の大家族ゆえの監視のゆるさについて述べた選択肢である。しかし、その当時読んだ本は(身近にたまたま存在していた本)であつて、「読んではならない書物」ではない。したがつて、これも間違ひである。

#### 問七

芥川龍之介の作品は、アの「歯車」とカの「河童」である。

他の選択肢の作家については、イの「機械」は新感覚派の横光利一、ウの「雪国」はノーベル文学賞を受賞した新感覚派の川端康成、エの「和解」は白樺派の志賀直哉、オの「飼育」はノーベル文学賞受賞者で戦後派の大江健三郎である。有名な作家の作品や文学グループに関しては試験で問われることもあるので、覚えておこう。

きだ。そして、受動的な読み方をする時に、面白く読める本が好きだ。なぜなら、能動的に、その本をぜひ読もうと思つた人だけが楽しく読める本は、その内容に興味を持たない人にわかつてもらう必要はないという文章で書かれているが、近くにあつたからまたま読んだような読者が面白いと思う本は、そうではないからだ」とある。ここから、「近くにあつたからまたま（＝偶然）読んで面白いと思う文章は、内容に興味を持たない人にもわかつてもらえるよう書かれたものである」ということがわかる。

これらの二つの段落では「私」が「楽しんでいた」読書についての言及がなされている。そこで、これらの段落での説明をまとめてみると、  
a 身近にある（その辺に落ちている・近くにあつた）から  
b 偶然（なんとなく・たまたま）読んだ

c 内容に興味を持たない人にも面白いと感じさせる本を

d その本の所有者や置いてあつた場所（本棚など）や読んだ場所とつなげて読む

ということになる。あとは、これらのポイントを制限字数に配慮しながらまとめていくとよい。なお、d ポイントに関しては、本文には「所有者や本棚、場所ごと読むとしかないが、「……こと読む」という言い回しは少し意味が理解しにくいため、「……と合わせて読む」も、「……とつなげて読む」など表現を工夫する必要があるだろう。また、「受動的」という内容はb ポイントの「偶然読む」という表現で説明されている。

### 問五 この設問では「祖父の『読まなかつた』本」のことを、筆者がどのように表現しているのかが問われている。したがつて、その答えを出すには、祖父、および祖父の本に関する記述がある第五段落・第六段落を見ていくのがよい。また、抜き出し問題では、制限字数が決め手になることがあるので、「十一字以上十五字以内」という点にも留意しておこう。

まず第五段落に「田舎から出てきて会社を作つた祖父は四角い月刊誌を定期購読し、六〇年代に発行された世界文学全集と日本文学全集を私が生

まれる前に購入していた。そして家を新築する際に二階の絨毯敷きの部屋に全集のための作り付けの棚を作つた。しかしまたく読まなかつたらしく」とあることから、祖父の読まなかつた本とは具体的に言うと「世界文学全集と日本文学全集」（13字）のことである。設問では「『読まなかつた』本」の題名が問われているわけではないので、この箇所は正解ではない。ではこうした本を「筆者はどのように表現している」のだろう。

そこで次の第六段落の後半を見ると「買つても読まなかつた『文学全集』や、本人と結びつかない『不良老年のすすめ』は、彼が心の裏側に持つてある本棚の本だった。普段は本人も忘れているそいつた本を私が読むのを見て、祖父は自分の中の忘れた部分が下の世代に受け入れられていると感じて嬉しかったのではないか」とある。ここから、「文学全集」のことをa 「心の裏側に持つてある本棚の本」（14字）、b 「本人も忘れているそいつた本」（14字）、c 「自分の中の忘れた部分」（10字）と筆者が表現していることがわかる。これらはどれも祖父の「読まなかつた」「世界文学全集と日本文学全集」に関する表現なので正解の候補となる。しかし、c は制限字数を満たさない。またb は「そいつた本」という指示語を含み、解答に完結性がない。したがつてa の「心の裏側に持つてある本棚の本」（14字）が正解となる。

### 問六 本文の内容と合致するものを選ぶ問題では、選択肢を順番に本文の内容と比較し吟味していく。

アの「家族構成が変化しても読み方は変わらない」という選択肢の内容自体が、「家族構成の変化に応じて読み方が変わる」という本文の主題と対立している。また、本文で論じられたのは「受動的・能動的」な読み方であつて「真摯な（＝真面目な、真剣な）読み方」ではない。したがつて、間違い。

イについて。第九段落に、「評論家になり仕事で能動的に本を読むとしても、その本の選択自体は偶然の受動的な要素が多い」と述べられていて

現に目を向け、この傍線部の「読書」が、「その辺に落ちている本をなんとなく読むという行動」ではなく、「最初楽しいが、けつこう退屈だとだんだん思う」ものであり、「本しか読むものがない」ものであることがわかる。

どうして「退屈」だと思うようになるかと言えば、「本しか読むものがない」からである。「本しか読むものがない」とはどういうことか。直後で、筆者は「私は本を所有者や本棚、場所ごと読んでいた。私にとつての読書の楽しみは、その部分にけつこうあつたのだ」と述べている。つまり、筆者は、本をその所有者やそれが置かれていた場所などと関連づけながら読んでいたのである。これは、筆者が本を読みながら、本に書かれている内容以外のものも読み取っていた、ということを意味する。したがつて、「本しか読むものがない」とは、ただ本に書かれている内容しか読み取れるものがないということであり、そのためには「最初楽しいが、けつこう退屈だとだんだん思うようになつた」と言つてゐるのである。

傍線部の「読書」に関して整理すると、

- ・自分の本だけを読むこと
- ・能動的な読書
- ・最初楽しいが、だんだん退屈だと思う読書
- ・本（の内容）しか読むものがない
- ・他の選択肢も見ておく。

アの後半の「自分の視野が狭くなり、それが固定化されてしまう」という点に関して、本文で説明されていない。

イの後半の「他人との協調性を失つてしまい、他人との社会的な関係を見失いがちになつてしまふ」ことが、本文で説明されていない。

ウも後半の「世代を超えて継承されてきた家族の感受性をうまく引き継ぐことができなくなつてしまふ」ことが、全く本文に書かれていない。

オは、「書物の世界という観念にのみ心を向けてしま」う点に関して、「本（の内容）しか読むものがない」というポイントから言えなくもない。

が、「現実感覚をうまく持てなくなつてしまふ」点に関しては本文に書かれていらない。

#### 問四

問われているのは、「大家族」という状況下で「私」が「どのような読書」を「楽しんでいた」のかということである。したがつて、問二と同様、家族構成と読書のあり方との関係を【本文解説】I・IIIで押さえておく。繰り返せば、

- ・「大家族」……「受動的な読書」（＝自分が選んだ以外の本を偶然読む経験）があつた
- ・「核家族や独居世帯」……受動的な読書は減少し、「能動的な読書」（＝自分が選んだ本だけを読む経験）が増える

ということである。ここから大家族という状況下での読書とは「受動的な読書」ということになる。そこで、この読書に関する説明を本文から読み取つていこう。

まず、第一段落に「家族が十人いる家（＝大家族）では、人は自分が選んだ以外の本を読むことが多くなるが、……前者（＝大家族での読書）の場合、読書は受け身の行為としての性格が強くなる。……あるものを偶然読む行為になるからだ」とあることから、「自分が選んだ以外の本を読む」（受け身の行為）／あるものを偶然読む行為」ということが読み取れる。ただし、この段落では大家族での読書の説明はなされているが、「私」が「楽しんでいた」とこまでは言及されていない。

そこで受動的な読書が説明されている第七段落を見ると、「家族が減る」と、その辺に落ちている本をなんとなく読むという行動が減る。……でも（大家族の中の）誰かの本を勝手に読む時、私は本を所有者や本棚、場所ごと読んでいた。私にとつての読書の楽しみは、その部分にけつこうあつたのだ」とある。ここから、「その辺（＝自分の身の回り）に落ちている本をなんとなく読み、しかも所有者や本棚、場所ごと読むことに私の読書の楽しみがあつた」ことがわかる。また、第八段落に「受動的な読書が好

## 【設問別解説】

問一 漢字の訓読みを、解答欄の形式に合わせて答える問題である。解答欄に付されている送り仮名に注意しよう。

a 「臨海」の意味は「海にのぞむこと」であり、「臨（む）」は「のぞ（む）」と読む。

b 「購入」の意味は「買ひ入れること」であり、「購（く）」は「あがな（く）」と読む。

c 「警戒」の意味は「危険や災害に備えて、あらかじめ注意し、用心すること」であり、「戒（める）」は「いまし（める）」と読む。

問二 この設問では、現代のように「核家族や独居世帯が多くなっている」状況を受けて、「本の書き方」がどのようなものになつたのかが問われている。

とすれば、家族構成と書物の関係が理解できれば答えが出せることになる。この点に関しては【本文解説】I・IIIを参考してほしい。そこからわかるように、「大家族」では「受動的な読書（＝自分が選んだ以外の本を偶然読む経験）」が多かつたが、「核家族や独居世帯」、特に「一人暮らし」では受動的なそれが減り、「能動的な読書（＝自分が選んだ本だけを読む経験）」が増える。こうした現代の「能動的な読書」に対応するよう、本の書き方も変化している。かつてであれば、作家は、内容に興味を持つた読者以外の人の目にも触れる可能性を考慮しながら本を書いていたが、a 「今では内容に興味を持つた人のみが読者になる以上、内容に興味を持たない人が読んでも面白いと思うようなものといったことは考えずには本を書くようになる。」この点に関しては、第八段落後半に「家族が減り、受動的な読書の機会が減った現在では、こうした（＝内容に興味を持たない読者をも意識した）書き方はあまりはやらないのかもしれない。みんな専門的か、そうでない場合は何も読む必要がないほど簡単だ。中間があまりない。」とある。あとは、この箇所から、内容が分かり易くまとまつた一文を抜き出せばよい。最初の「家族が減り、受動的な読書の機会が

減った現在では、こうした書き方はあまりはやらないのかもしれない。」は、かつての書き方がなくなつたことは示されているが、現在どのよう書き方になつたのかがわからぬうえに、「こうした書き方」と指示語を含み完結性（＝抜き出した箇所だけで意味が通じること）に欠ける。最後の「中間があまりない。」は、そこだけ抜き出してしまふと何と何との「中間」なのが不明であり、解答としては不適切である。真ん中の「みんな専門的か、そうでない場合は何も読む必要がないほど簡単だ。」といふ一文であるが、「専門的」だということは内容に興味を持った読者のみを想定していることを意味し、また「何も読む必要がないほど簡単だ」ということは読者にとって面白いものではないということを意味している。右の○の内容に対応するので、この一文が適切であり、その最初の五字である「みんな専門」が正解となる。

問三 選択肢を吟味する前に、傍線部の「読みたいものを買って読む」という読書を、筆者がどのように読書として位置づけているかを確認しておこう。

まず、傍線部前後の「……家族が十人いる家では、人は自分が選んだ以外の本を読むことが多くなるが、一人暮らしでは、家で読むのは原則的に自分の本だけになる。前者の場合、読書は受け身の行為としての性格が強くなる。読みたいものを買って読むのではなく、あるものを偶然読む行為になるからだ」という文脈から、傍線部の「読書」は、「自分が選んだ以外の本を読むこと」「受け身の行為」「あるものを偶然読む行為」ではなく、「自分の本だけ」を読む行為となる。

さらに「受け身の行為」でないことから、これは「能動的な読書」であるとわかる。そこから第七段落の「家族が減ると、その辺に落ちている本をなんなく読む」という行動が減る。自分の好きなものだけ買つたり図書館で借りたりして読む。それは最初楽しいが、けつこう退屈だとだんだん思つようになつた。能動的な読書では、本しか読むものがない」という表

ていた。が、彼自身はまつたく読まなかつたらしい。一階の壁面にはスチールの棚が三台並び、いとこが読んでそのまま置いていたまんが日本史とか、祖父が自分の興味で買った読み物が並んでいた。「親鸞」などに交じつて中に『不良老年のすすめ』というユーモラスな本もあつた。買つても読まなかつた文学全集や、堅苦しい祖父と結びつかない『不良老年のすすめ』は、彼が「心の裏側に持つてある本棚の本」だつた。普段は本人も忘れてい

るそついた本を私が読むのを見て、祖父は「自分の中の忘れた部分」が下の世代に受け入れられていると感じて嬉しかつたのかもしれない、と筆者は自分の子供時代を、様々な読書体験と合わせて回想する。そこに見られる読書は、筆者が自分の関心で買つたり借りたりした本ではなく、たまたま身近にあつた本を読んだという「受動的な読書」であつた。(第五段落・第六段落)

### III 家族構成に伴う読書の違い(その2)(第七段落・第八段落)

祖父母も亡くなり、当時の家の構成員は、三十年くらいかけてほぼゼロになつた。家族が減ると、「その辺に落ちている本をなんとなく読む」という行動(=受動的な読書)が減る。代わりに、自分の興味関心にしたがつて買つたり借りたりして読む。そうした「能動的な読書」は最初こそ楽しいが、だんだん「退屈」になる。それは、「本(の内容)しか読むものがない」からだらう。しかし、誰かの本を勝手に読んでいた子供時代の読書では、筆者は「所有者や本棚、場所ごと」読んでいた。つまり、この本を誰がどういうつもりで買ってそこに置いたのかとも想像しながら読む、ということだらう。そして「その部分」に筆者にとつての「読書の楽しみ」があつたと述懐する。(第七段落)

筆者は受動的な読書が、そして受動的な読み方をする時に面白く読める本が好きだと言う。能動的にその本を読もうと思つた人だけが楽しく読める本は、内容に興味を持たない人にわかつてもらおうという気持ちを作家が持つことなく書いている。それに対しても、近くにあつたからまたま読んだ(二)

受動的な読書をする)よつた読者が面白いと思う本は、その内容に興味を持たないにもわかつてもらおうという気持ちで作家は書いているものである。しかし、家族構成が変わり、受動的な読書の機会が減つた今、多くの書物は「みんな専門的か、そうでない場合は何も読む必要がないほど簡単」であり、その「中間があまりない」と筆者は嘆いている。(第八段落)

### IV 評論家としての経験や思い(第九段落・最終段落)

そして、数年前から評論家として働くようになつた筆者は、「仕事のために人の作品を読むことは、大家族の中で他人の本を読むことに似ている」とに気づく。確かに仕事をすること自体は「能動的」だが、対象になる本の選択に関しては偶然の要素の強い「受動的」なものだからである。そして、「そういう状況で面白い本こそが本当に面白い」と筆者は思つて仕事をしていのだと言う。(第九段落)

こうした思いを抱きながら評論活動をしている筆者は、今回『スリリングな女たち』という本を出版することになった。筆者は、この本のタイトルを、誰かが買つてたまたま家にあり、偶然読んだ(=受動的な読書をした)子供時代の自分を魅了した、永井路子の『歴史をさわがせた女たち』からつけた。そこからタイトルをつけた理由は二つある。まず『歴史をさわがせた女たち』の中に書かれ、子供時代の筆者を唖然とさせた女たちの大膽さが、今回の評論集で取り上げた六人の若い日本人女性作家の強さと重なると思つたからである。(第十段落)

そして、これがもつと大きな理由だが、『歴史をさわがせた女たち』が子供時代の筆者を魅了したように、自分もまた「誰かが私の文章を家に持ち帰つてその辺に置いた時に、その人ではなくたまたま手に取つて読んだその家の子供などが、うわ面白いな、こんなのあるんだ、と思つ評論を目指したかった」からである。つまり、受動的な読書にも耐えられる本を書きたかつたからだということである。(最終段落)

## 五 現代文

### 【解答】

問一 a のぞ（む） b あがな（う） c いまし（める）

問二 みんな専門

問三 工

問四 身近にあるために偶然会えた、内容に興味を持たない人にも面白いと感じさせる本を、その所有者や置いてあつた場所や読んだ場所とつなげて読む読書。（70字）

問五 心の裏側に持っている本棚の本（14字）

問六 イ・オ（順不同）

問七 ア・カ（順不同）

### 【配点】（50点）

問一 各2点×3

問一 5点

問二 6点

問四 12点

問五 5点

問六 各6点×2

問七 各2点×2

### 【出典】

本文は、田中弥生「受け身の読書」（講談社のPR紙『本』二〇一二年十月号）の全文である。

田中弥生（たなか・やよい）は、一九七二年神奈川県生まれ。東京芸術大学美術学部卒業。文芸評論家。二〇〇六年「乖離する私 中村文則」で第四回群像新人文学賞（評論部門）優秀賞。

### 【本文解説】

本文は、時代とともに変わる家族構成とそれに応じて変わる読書のあり方について論じたものである。かつて筆者の家は「大家族（両親・子供以外

に両親の親兄弟などの親族もともに暮らす大人数の家族）」だった。そこで「受動的な読書（＝自分が選んだ以外の本を偶然読む経験）」が可能だつた。しかし現在では「核家族（＝両親・子供だけの家族）」「独居世帯（＝一人暮らし）」が増え、読書の仕方も「能動的な読書（＝自分が選んだ本だけを読む経験）」が中心となつてている。こうした内容を筆者は自分の子供時代の体験（第二段落／第六段落）や評論家になつてからの体験や思い（第九段落／最終段落）を交えながら述べている。

なお、本文は十一の形式段落からなるが、内容から大きく四つに分けて、見ていこう。

### I 家族構成に伴う読書の違い（その1）（第一段落）

今日「核家族や独居世帯が多くなり、そうした家族構成が「読書のありかたにも影響する」。家族が大勢いる家では、「自分が選んだ以外の本を読む」機会が多いが、「一人暮らし」では、「読みたいものを買って読む」といつた「自分の本だけ」を読むことになる。大家族の場合、読書は「（身近に）あるものを偶然読む行為」になるため、「受け身の行為」としての性格が強くなる。

### II 幼い頃の読書体験（第二段落／第六段落）

筆者の家は、祖父が同族企業を営み、そこで父の兄弟が全員働いているという、昭和後期の都市部にしては「大家族」であつた。そうした家族の中では一人一人の子供に対する監視の目は自然と弱くなる。それを利用して、筆者は年上のいとこの部屋に侵入して、いとこの本棚の漫画を勝手に読むことがあつた。また、物置兼自転車置き場にあつた、別のいとこが購読していた少女漫画雑誌を持ち帰って読んだりもしていた。（第二段落／第四段落）

家の中にも誰かの本がいろいろ置いてあつた。祖母がやっていた家政婦紹介所には新聞広報誌や月刊PHPが置いてあり、一時期筆者はPHPをよく読んだ。祖父は月刊誌を定期購読し、世界文学全集と日本文学全集を購入し

## 問六 現代語訳の問題。

### 解法のポイント

- 1 基本句形に着目して正しく訳す。
- 2 各語の意味を、文脈を踏まえて決定する。
- 3 解答をこなれた表現でまとめる。

「こは、家に押し入った泥棒に刀物を突きつけられた自分を白巧児が救つてくれたことに対する、李心台がお札を述べた部分である。まず傍線部の前半の意味を考える。「微」は事実に反する内容を仮定する句形で、「もし……がなかつたならば」の意味。「子」は、「こと読んで(1)「子供・息子」の意味を表す場合と、「し」と読んで(2)「あなた」(一人称の敬称)の意味を表す場合、(3)先生や男子に対する敬称として用いられる場合とがある。ここでの「子」は「白巧児」を指しており、(2)の意味である。前半の二字では「もしあなたがいなかつたならば」の意味となる。

次に後半の意味を考える。「幾」は「もう少しで――するところだ」または「おそらく――するだろう」の意味を表す。「保」の意味はややわかりにくいが、李心台が白巧児に救われた点を踏まえて「身の安全を保つ」(保安・保身)の意味と考えればよい。後半の四字を直訳すると、「私はおそらく身の安全を保てなかつただろう」となる。

解答は、「あなたがいなかつたならば、私はおそらく無事ではいられなかつただろう」のように、「なれた表現でまとめればよい。

## 問七 理由説明の問題。

### 解法のポイント

- 1 傍線部の意味を把握する。

- 2 解答の根拠となる箇所を見つけ、現代語訳する。
- 3 その内容を、制限字数内で過不足なくまとめる。

一重傍線部は、「ある人が梁の上から飛び降り」の意味である。「ある人」とはもちろん「白巧児」である。本問は、白巧児がこのようなことができた理由を説明することを求めている。白巧児は梁の上から飛び降りるという離れ技を演じ、李心台の家に押し入った泥棒を棒で強打して退散させた。白巧児に救われた李心台が、このような離れ技がなせってきたのかを尋ねたのに対して、白巧児はその理由を、「吾夫嘗耕崖下苦往餽膳時欲繞道去則膳冷故嘗就捷徑從崖躍下初亦甚不易後則不覺苦矣」(私の夫はいつも崖の下にある農地を耕しています。私が食事を届けに行く時、道に沿って行くとすると、食事が冷めてしまします。だからいつも近道をして崖から飛び降りるのです。最初はやはりとても難しかったのですが、やがて苦痛を感じなくなりました)と答えている。したがって解答のポイントは

- 1 白巧児の夫は崖の下の農地を耕している。
- 2 夫に食事を届ける時、道に沿って行くと食事が冷めてしまう。→食事が冷めないうちに夫のもとに届けたい。
- 3 常に近道をして崖から飛び降りているうちに、何の苦も無く飛び降りられるようになつた。

の三点である。解答は、この三つの内容を盛り込んで六十字以内にまとめればよい。

んなことをすることができたのかと（白巧児に）尋ねた」の意味に即して「何を以て之を能くするかと問ふ」または「何を以てか之を能くすると問ふ」と書き下せばよい。

#### 問四 意味説明の問題。

##### 解法のポイント

直後の内容をしっかりと踏まえて傍線部の意味を決定する。

【設問別解説】問三でも述べたように、李心台は、梁の上から飛び降りて棒で泥棒を強打することによって自分を救ってくれた白巧児に、「何以能之」（どうしてこんなことをすることができたのか）と尋ねた。傍線部は、李心台の質問に対し白巧児が答えた言葉である。「此」の指示内容と「非旦夕之功」の意味はともに、直前の内容に着目して考えてもわかりにくいので、傍線部の後の言葉に着目して意味を決定しなければならない。白巧児は、「崖の下の農地を耕す夫に食事を届ける時、道に沿つて行くと食事が冷めてしまうのだ」と述べたうえで、「故嘗就捷徑徒崖躍下初亦甚不易後則不覺苦矣」（だからいふても近道をして崖から飛び降りるのです。最初はやはりとても難しかったのですが、やがて苦痛を感じなくなりました）と、自分が高い所から飛び降りることができるようになった理由を説明している。したがって「此」は「（白巧児が）高い所から飛び降りることができること」を指していると判断できる。選択肢は、この内容を含む「高い所から飛び降りることができる私の能力は」と「天井から飛び降りて泥棒を攻撃した私の行動は」に絞ることができる。

また、崖から飛び降りることは、最初は難しかつたが、毎日行うことによつて苦もなくできるようになったと白巧児が説明している点に着目する。換言すれば、自分の能力は一朝一夕に身についたものなのではなく、

日々の努力の賜物である、と白巧児は言っているのであるから、「非旦夕之功」の意味は、ウ「短期間の努力で身についたものではあります」がふさわしいと判断できる。正解はウ。

「旦夕」は、(1)「朝晩」、(2)「朝も晩も・始終」、(3)「短い時間」などの意味を表すが、ここは(3)の意味である。「功」は、(1)「手柄・功績」、(2)「成果・効果」、(3)「働き・わざ」などの意味を表すが、ここは(2)の意味である。

#### 問五 返り点の問題。

##### 解法のポイント

1 書き下し文に従つて読む順番を確認する。

2 返り点のルールに従つて返り点を施す。

まず返り点のルールを整理しておく。

○一字上に返る場合は、レ点

○二字以上返る場合は、一・二・三…点

○一・二・三…点をはさんで返る場合は、上（・中）・下点

傍線部の「将」は、再読文字で「将に——んとす」と読みます。また「之」は、ここでは「の」と読み、助詞であるために書き下し文では平仮名で表記されている。これらの点に注意しながら、書き下し文に従つて読む順番を確認すると、「子→今→日→何→由→盜→之→將→至→將→知」の順番となる。下から上に返るのは、「至→將」「將→知」の二箇所である。「至→將」は一字上に返るので、「將」をレ点を施す。「將→知」は二字以上返るので、「知盜之將」を一・二点を施す。したがって解答は、「子今日何由知盜之將」となる。

(4) 「まさる」(すぐれる・越える)、(5)「たふ」(我慢する)と読む。口  
「不勝」は、否定語を伴つてるので動詞の用法である。

(3)・(4)・(5)のどの読みがふさわしいかは、文脈上の意味を考えて決定する。ここはならず者たちが李心台の家に財産を奪おうとして押し入った場面である。直前に「忽一人自梁上躍下、拳棍猛擊賊」(突然ある人が梁の上から飛び降り、棒を振り上げて泥棒を激しくたたいた)とあり、直後に「抱頭而遁」(頭を抱えて逃げ出した)とあるように、ならず者たちは、突然梁の上から飛び降りてきた「一人」に棒で頭をたたかれて逃げ出したのであるから、「賊不勝」は泥棒は(棒でたたかれた頭の痛みを)我慢できずの意味であると判断できる。したがって口の「勝」の読みは(5)「たふ」であり、解答としては「たへず」と答えればよい。

## 問二 語句の意味の問題。

### 解法のポイント

複数の意味を持つ重要語の意味が問われているので、送り仮名や文脈に着目してふさわしい意味を決定する。

a 「忽」は、副詞として「忽ち」と読み、(1)「突然・にわかに・急に」

の意味を表す場合と、動詞として「忽せにす」と読み、(2)「おろそかにする・気に留めずにおく」の意味を表す場合とがある。ここは「チ」の送り仮名から明らかのように副詞の用法であるから、(1)の意味を答えればよい。

b 「謝」は、名詞として「謝」と読み、(1)「お礼の気持ち(を表すための金品)」、(2)「おわびの気持ち(を表すための金品)」などの意味を表す場合と、動詞として「謝す」と読み、(3)「お礼を言う」(感謝)、(4)「あやまる・わびる」(陳謝)、(5)「断る」(謝絶)、(6)「衰える・去る」(代謝)

などの意味を表す場合とがある。bは「シテ」の送り仮名から動詞の用法とわかる。

後は文脈から意味を決定する。ここは李心台が自分を救つてくれたお札を白巧児に述べ、「今而請母白濟於僕也」(今後はどうか自分から召使いのような態度を取らないでくれ)と申し出た時に、白巧児の取つた態度を記した部分である。「巧児謝不敢仍尊之如初」(巧児は「謝して」対等の立場で接するようなことはどうしてもしようとはせず、やはり以前と同様に李に敬意を払つた)とあるので、白巧児は李心台の申し出を受け入れなかつたことがわかる。したがつてbの「謝」は(5)「断る」の意味である。

## 問三 書き下し文の問題。

### 解法のポイント

1 基本句形や重要語に着目して正しく読む。

2 文構造や文意にふさわしい読み方を考える。

ここは泥棒たちに押し入られ刃物で脅されていた自分を、梁の上から飛び降りて泥棒たちの頭を棒で強打することで救つてくれた白巧児に、李心台が質問した部分である。まず「何以」は「どうして・どうやつて」の意味の疑問詞で「何を以て(か)」と読む。

次に「能<sup>ム</sup>之」は、「述語十目的語」の構造で「このことをする」とがでる「能<sup>ム</sup>之」であることを踏まえて読み方を考える。この「能<sup>ム</sup>」は動詞であるから「能<sup>ム</sup>くす」と読み、「能<sup>ム</sup>之」の二字では「之を能<sup>ム</sup>くす」と読む。更に「何以能<sup>ム</sup>之」は直前に「問」があることから明らかなように疑問文であるから、「能<sup>ム</sup>くす」を連体形に活用させて「能<sup>ム</sup>くする」または「能<sup>ム</sup>するか」と読む。

最後に「問」は「問ふ」と読むが、全文では「(李心台は)どうしてこ

り、（対等の立場で李に接するようなことは）どうしてもしようとはせず、やはり以前と同様に李に敬意を払つた。

【重要語・基本句形】

「設問別解説」

語の読みの問題。  
イの「能」は、名詞としては(1)「のう」（能力・才能）と読むが、助動詞としては、(2)否定語を伴う「不能」は「——あたはず」（——できない）と読み、(3)否定語を伴わない「能」は「よく——」（——できる）と読む。また動詞としては(4)「よくす」（することができる・うまくできる）と読む。ここは(2)の場合で「あたはず」と読む。  
(2)「あげて」（すべて）と読みが、動詞としては(3)「かつ」（戦いに勝つ）、口の「勝」は、名詞としては(1)「かち」（勝利）と読み、副詞としては

○幾——

○自——

○敢——

○如——

II 基本句形

○何以——

|| どうして——するのか・どうやって——するのか  
 (疑問形) → 【設問別解説】問三参考

○非——

|| ——ではない (否定形)

○何由——

|| どうして——するのか・どうやって——するのか  
 (疑問形)

○将——

|| いまにも——しようとする・——するつもりだ  
 (再読文字) → 【設問別解説】問五参考

○微——

|| もし——がなかつたならば (仮定形)  
 ↓ 【設問別解説】問六参考

|| どうか——してください・どうか——させてくだ  
 さい (願望形)

|| もう少しで——するところだ・おそらく——する  
 だろう → 【設問別解説】問六参考

|| 思い切つてする・もやみにする  
 のようだ

故郷で悠々自適の暮らしをしていた李心台の家に、ある晩泥棒が押し入つた。李心台が刃物を首に押しつけられ金のありかを言うよう迫られていた時、突然白巧児が天井の梁の上から飛び降りてきて、泥棒の頭を棍棒で強打して退散させたのである。普通の農家の婦人がなぜ梁の上から飛び降りるというよつな離れ技を演じることができたのか。白巧児自身の言葉によれば、崖の下にある農地を耕している夫に食事を届ける時、道に沿つて歩いて行くと食事が冷めてしまうので、夫に温かい食事を食べさせるために、毎日近道をして崖から飛び降りているうちに、何の苦もなく飛び降りることができる

じいは  
曰く、「此れ旦々の功に非ず。吾が大嘗に崖の下に耕す。吾往きて膳を餓る時、道を繞りて去かんと欲すれば、則ち脣冷む。故に嘗に捷径に就きて崖より躍り下る。初め亦甚だ易からざるも、後則ち苦しみを覚えず」と。李曰く、「子今日何に由りてか盜の將に至らんとするを知る」と。巧兒曰く、「余之を待つこと數日なり」と。李謝して曰く、「子微かりせば、吾幾ど保たざらん。今にして後詠ふ自ら僕に儕しくする母かれ」と。巧兒謝して敢へてせず、仍ほ之を尊ぶこと初めのことし。

全文解剖

対処できたのかと言えば、泥棒が李心台の家に押し入ろうとしているのを知つて、李心台の身を守るために何日も前から泥棒の侵入に備えていたからであった。このことを知つた李心台は、命の恩人として白巧児に札を言いい、今後は召使いとしてではなく、対等の立場で接してくれるよう申し出たが、白巧児はその申し出を断り、以前と同様に敬意を払つて、慎み深い態度で李心台に仕え続けたのであつた。

以上のように、本文は旧中国の農村に生きた、献身的でかつたくましい女性の姿を伝える文章である。以下は後日談である。李心台は数年後に亡くなつて白巧児に与えられた。李心台は、白巧児が自分に献身的に仕えてくれたことに対し、このような形で報いたのである。

書き下し文

無頼者の流達に李の富厚なるかと疑ひ、之を劫する謀る。巧児李に告ぐるも、李之を笑ひ、慢りて為に備へず。一夕、李方に燭を秉りて読むに、數盜の門を破りて入る有り、李を執へて金の在る所を問ふ。李戦慄して語る能はず。盜刃を持ち頸に加へて之を嚇す。正面に争持する間、忽ち一人梁の上より躍り下り、棍棒を擎て猛しく賊を擊つ。賊勝へず、頭を抱へて遁ぐ。李驚定まらず、審かに之を視れば、則ち巧兎なり。何を以て之を能くするかと問ふ。巧

と同じ出来事に言及したものだと考えられる。また、問六で述べたように、忠快の体験談の中に登場する下僧は地蔵菩薩である。これらのことを探さえた上で、忠快の体験談を読むと、「大宰府（＝今の大分県にあつた役所）の近海において、自分が舟に「あしさま」に乗りてすでに水に入りぬべく侍りしを、下僧のひとり乗りて助け乗せ」とある。この一節によれば、西海の舟において忠快が水中に落ちそうになつたとき、下僧が助けに来たという。その下僧こそ地蔵菩薩なのであり、その地蔵菩薩は A で見たように、左手を負傷している。よつて、忠快を助けたあと、下僧すなわち地蔵菩薩が「B 手をもつて C の腕を抱へたりし」とあるのは、負傷した左手をもう一方の右手で「抱へ」ていたのだと考えられる。このことから、B には「右」が入り、C には「左」が入ると考えられる。

#### 四 漢文

##### 【解答】

- 問一 イ あたはず 口 たへず  
問二 a 突然 b 断る  
問三 何を以て之を能くするかと問ふ  
問四 ウ  
問五 子 今日 何由知盜之將至  
問六 あなたがいなかつたならば、私はおそらく無事ではいられなかつただろう。

- 問七 崖の下にある農地を耕している夫に、食事を冷めないうちに届けることができるよう、常に近道をして崖から飛び降りていたから。(60字)

##### 【配点】 (50点)

- 問一 各3点×2 問二 各3点×2 問三 7点 問四 6点  
問五 5点 問六 8点 問七 12点

##### 【出典】

『清稗類鈔』。中華民国の人、徐珂の編。本書は、民間で編纂された書物や新聞から清代に関するさまざまな記事を集めて項目別に記述したものである。その内容は、朝廷の内外での出来事、個人の逸話や学芸・社会・経済・文化に関するものなど多岐にわたっている。

##### 【本文解説】

本文は、官界を引退して故郷で暮らす士人の李心台に、召使いとして仕えた農家の婦人・白巧兒に関する話である。

ことが確認できる。

次に、忠快の体験談の直後にある、「今の御夢想を承るに、はやこれぞ地蔵の御助けにて」という一節に着目しよう。「夢想」は、夢の中で神仏のお告げを得ることを言い、ここでは頼朝の見た夢を指す。その「御夢想」の中に語られていることで、忠快の体験談と関連するようなことを探すと、地蔵が「西海の舟にて忠快を助け乗せんとせし」（本文11—12行目）ことを見出せる。忠快はこの「御夢想」のことを聞き、「これぞ地蔵の御助け」と気づかされたというのだ。

この一節の中にある指示語「これ」は、忠快の体験談の中で、「地蔵の御助け」と意味づけられるような事柄を指す。よって、指示語「これ」は、西海の舟で「下（級の）僧」に助けられたことを指すと考えられる。つまり、西海の舟で「下（級の）僧」に助けられたこと、あれは実は地蔵のお助けであったのだと気づかされたわけである。よって、「下僧」は地蔵菩薩のことだから、正解はウとなる。

## 問七 空欄補充の問題

### I 空欄補充（選択型）の着眼点

- 選択肢を確認する。
- 選択肢が重要古語の場合は、その意味を確認する。
- 選択肢が助詞・助動詞などの場合は、接続や活用形などにも注目する。
- 2 本文を、主体・客体に十分注意しながら読み進め、該当する選択肢を決定する。
- 文法の知識で選択肢を絞り込んだり、解答を決定できるものもある。
- 文章の構成や、文と文との対応などもしっかりと押さえる。
- 本文全体をもう一度見渡してみよう。

頼朝は地蔵菩薩の夢の示現を得た。そこで、忠快を鎌倉に招き、自分でその示現を確かめようとした。第二段落の中にある頼朝の体験談によれば、

- (1) 忠快は長年にわたり地蔵菩薩を信仰している
- (2) 地蔵菩薩は西海で忠快を救助したことがある
- (3) 地蔵菩薩はその際に左手を負傷してしまった

という。第一段落において、頼朝が忠快に会うやいなや、「御本尊に地蔵菩薩や安置し給へる」と問い合わせたり、「その本尊、片手や折れ給へる」と問い合わせたりしているのは、この夢のお告げを確かめるためだと考えられる。忠快の安置する地蔵菩薩像の左の「腕首折れかかりてぞおはしける」ということから、この示現は真実だと確かめられた。

忠快は、頼朝の体験談を聞き、第三段落で、「御夢に思ひ合はすること（＝思い当たる節）候ふ」と言って自分の体験談を語り出す。よって、頼朝と忠快は、同じ出来事を話題にしていると考えられる。頼朝は、忠快の言葉からも示現が真実だと確かめられ、「帰依の涙」をいつそう流すことになった。

以上のような流れを確認した上で、空欄に入る言葉を考えてみよう。

### A の御手の折れ給へる

この地蔵菩薩の様子を見て、頼朝は「あの御手はいかに（＝そのお手はどうなさいたのですか）」と聞く。それに対する地蔵の答えが「西海の舟にて忠快を助け乗せんとせしときに、左の手をあやまりて」である。問い合わせに対応させて、「左の手をあやまって（折つてしまつたのです）」などと補つて訳すことができる。よって、Aには「左」が入るとわかる。

夢の中に登場した貧僧すなわち地蔵菩薩は、西海において忠快を助け舟に乗せようとしたとき、あやまって左手を負傷したという。そのため、忠快の地蔵菩薩像も左手が折れかかった状態なのである。

### B 手をもつて C の腕を抱へたりし

右に述べた本文全体の流れから、忠快の体験談は、頼朝の得た示現の話

て、傍線部<sub>5</sub>を現代語訳すると、「不自由はしないでしよう」などとなる。  
正解はアである。他はすべて「ことかく」の意を誤っている。

## 問六 人物判定の問題

### 人物判定（選択型）の着眼点

- 1 登場人物を整理する。
- 前書き・注・選択肢などを確認する。
- 同一の人物が違った呼称（姓・名・官職・指示語など）で表現される場合があるので注意する。
- 違う人物が同一の（または類似の）呼称で表現される場合があるので注意する。
- 2 主体・客体を確認しながら本文を読解する。

### X この僧

二重傍線部Xの前後は、次のようになつてている。

錫杖突きたる貴僧の容貌うつくしきが……『平家門脇中納言の子息律

師忠快と申すをば、この僧に免し給へかし……』と仰せられし

「免し給へかし」の「給へ」は、尊敬の補助動詞「給ふ」の命令形、「かし」は念押しを表す終助詞である。頼朝の夢の中に現れた貴僧は、「忠快と申す者を、『この僧』のために（口に免じて）お許しになつてくださいよ」と頼んだことになる。律師忠快と「この僧」は別人だと考えられるこ

とと、「この」は自分自身を指すこともあることから、「この僧」は「貴僧」と同一人物だと判断できる。その後、この貴僧の依頼を聞いた頼朝は、「この御房は地蔵よなど心得たりしか」と言う。「御房」は「お坊さま」の意で、僧を敬つてこのように呼ぶ。ここから、「この御房」は「貴僧」と同一人物で、しかもその正体は「地蔵（菩薩）」であることがわかる。よつて、正解はウとなる。

### Y われをあひ頼める僧

二重傍線部Yの前後の貴僧の発言は、次のようになつてている。

律師忠快と申すをば、この僧に免し給へかし。年ごろ深くわれをあひ頼める僧に侍り。

「あひ頼める」の「あひ頼め」は四段動詞の已然形（または命令形）、「る」は存続の助動詞「り」の連体形である。「僧に侍り」の「に」は断定の助動詞「なり」の連用形、「侍り」は「寧の補助動詞の終止形である。これらを押さえて現代語訳すると、次のようになる。

律師忠快と申す者を、この僧に免じてお許しになつてくださいよ。長年深く私を頼みとしている僧でござります。

ここで言う「われ」は、発言者の貴僧すなわち地蔵菩薩を指すので、二重傍線部Yは、地蔵菩薩を長年信仰している僧のことである。よつて、「われをあひ頼める僧」は、地蔵菩薩を本尊として持つている律師忠快のことだと考えられる。正解はイとなる。

### Z 下僧

二重傍線部Z「下僧」は、律師忠快の体験談の中に登場する。その体験談は、本文16行目「先帝大宰府に」から始まり、20行目「聞くこともなかりき」で終わっている。このことを確認した上で、二重傍線部Zの前後を見ると、次のようになつてている。

あしさまに乗りてすでに水に入りぬべく侍りしを、下僧のひとり來りて助け乗せて後に

「あしさまに」は、形容動詞「あしさまなり」の連用形で、「悪い状態で」の意を表す。「すでに」は副詞で、推量の助動詞と呼応し、「今にもしそうだ」の意を表す。「入りぬべく」の「ぬ」は完了・強意の助動詞「ぬ」の終止形で、「べく」は推量の助動詞「べし」の連用形である。

これらを踏まえると、「下僧」とは、かつて忠快が悪い体勢で舟に乗つて今にも水中に落ちてしまいそうであつたときに助けてくれた人物である

## ○ 存す（動詞）

- (1) 生存する。存在する。  
(2) (謙譲) 存じあげる。知り申しあげる。

## ○ 候ふ（動詞）

- (1) (謙譲・本動詞) お仕えする。  
(2) (丁寧・本動詞) 「～が」あります。  
(3) (丁寧・補助動詞) 「～で」ございます。～ます。

## ○ べし（助動詞）

- (1) (当然) ～はずだ。～ねばならない。  
(2) (推量) ～だろう。  
(3) (意志) ～よう。～つもりだ。  
(4) (可能) ～できる。  
(5) (適当) ～のがよい。～のがふさわしい。  
(6) (命令) ～せよ。

「存じ候ふ」の「候ふ」は、動詞の直下にあるので補助動詞。つまり、丁寧の補助動詞で、「～ます」と訳出する。他の語はいずれも文脈から意味を考えなければならない。

ここは、直前より、地蔵菩薩の「御手の折れ給へる」ことが話題になつてゐることがわかる。よつてまず、「存す」の意味は、「存じあげる。知り申しあげる」がよい。「存す」の主語は、ここが律師忠快が自らのことをふりかえつて語つている箇所であることから、忠快であると確認できる。忠快が、地蔵菩薩の手が折れていることを知つていたのか、知らなかつたのかは、本文3行目で「御手の折れさせ給へるとは覚えず（〃お手が折れていらっしゃるとは思われない）」と述べていることから、知らなかつたと解釈すべきである。よつて「いかで」「か」は反語である。  
以上を踏まえると、傍線部4は、「どうして知り申しあげるでしようか、いや、知るはずもありません」「どうして知り申しあげることができます」

か、いやできません」などと訳すことができるので、助動詞「べし」の意味は、推量・当然・可能ないざれかになる。選択肢の中で、これに該当するのは、アのみである。よつて、正解はア。

イ・エは、「いかで」を希望・願望の意に解し、「存じ」を尊敬語として訳出しているので、不適切。ウは、「気づいていただく」という箇所がおかしい。たしかに「いただく」は謙譲語の訳し方の一つではある。しかし、この箇所をウのように訳出すると、地蔵菩薩の手が折れかかっていることを、神仏や貴人に気づいていただけなかつたということになり、文意がおかしくなる。オは、丁寧語「候ふ」が訳出されていないので、誤りである。

## 5 ことかけ候はじ

単語に分けると、次のようになる。

ことかけ／候は／じ

## ○ ことかく（動詞）

- 必要なものが不足する。不自由する。

## ○ 候ふ（動詞）

▼「問五 4」を参照。

## ○ ジ（助動詞）

- (1) (打消推量) ～ないだろう。～まい。  
(2) (打消意志) ～ないつもりだ。～まい。

傍線部5を含む部分は、「手を損じて候へども、ことかけ候はじ」となつていて、「ことかけ」は、「事欠け」と表記し、ここでは「手を損じて

ついている。「ことかけ」の意。つては、「手を損じて」いる状況を受けてるので、「不自由する」の意。「候は」は、動詞の直下にあるので、丁寧の補助動詞。「ジ」は、「手を損じて候へども（〃手を負傷しておりますが）とのつながりから、「不自由する」という動作に意志を含むことはできないので、打消推量の意。よつ

しく尊いことだ

ここで説明すべき事柄は、

・「このようにおそれ多い靈験」とは、どのような靈験を指すのか

・「御信心の程度」とは具体的にどのようなことなのか

の二点である。以下、この点について検討していく。

まず、「このように」という指示語の指示する内容を考える。傍線部3よりも前の箇所から、神仏の靈験と言えるようなことを探すと、次の二点があげられる。

(1) 錫杖突きたる貴僧の容貌うつくしきが……『平家門脇中納言の子息

律師忠快と申すをば……免し給へかし……』と仰せられし

(2) 「西海の舟にて忠快を助け乗せんとせしときに、左の手をあやまりて」と仰す

問二でも確認したように、(1)・(2)の「」内は、地蔵菩薩の発言である。前者は、地蔵菩薩が頼朝に対して忠快の罪を許してほしいと頼んでいるもの、後者は、地蔵菩薩が西海において忠快を舟に乗せて助けたと語っているものである。これらは、靈験の具体的な内容と言えよう。

時間の順から言えば、(1)の依頼より(2)の救出の方が先になる。その順で言えば、「このようにおそれ多い靈験」の内容は、

地蔵菩薩が、西海で危機に瀕していた忠快を助けてくれたり、忠快の流罪を許すよう頼朝に頼んでくれたりしたこと

ということになる。

次に、「御信心の程度」とは具体的にどのようなことかを考えると、

(1)・(2)はいずれも忠快を助ける靈験であるので、この靈験を生み出した「御信心の程度」は、

忠快の地蔵菩薩に対する信心のあつさ、信心深さ

と具体化できる。

以上のことから、解答は、Iの現代語訳にIIとIIIを加えて、

地蔵菩薩が西海で助けてくれたり、罪を許すよう頼朝に求めたりする靈験を示すほどの(II)、中納言律師忠快の信心のあつさは(III)、すばらしく尊い(I)ということ。

などと、わかりやすくまとめる。

## 問五 現代語訳の問題

現代語訳(選択型)の着眼点

1 重要古語や語法に基づいて、一つ一つの語を正確に訳出する。

○複数の意味を持つものについては、文脈を踏まえて適切な訳語を考える。

2 訳出をもとに、選択肢を検討する。

4 いかでか存じ候ふべき

単語に分けると、次のようになる。

いかで／か／存じ／候ふ／べき

（重要古語・語法）

○ いかで（副詞）

(1)（疑問）どうして。どうやつて。

(2)（反語）どうしてとか、いやしない。

(3)（希望・願望）どうにかして。

○ か（係助詞）

(1)（疑問）とか。

(2)（反語）とか、いやしない。

の忠快の発言から、少なくとも「都を出でて三年」（本文14行目）の間は信仰していることに間違いはないが、本文3行目では「はるかに拝み奉りて（＝かなり昔から拝み申しあげて）」と述べており、「年ごろ深く」信仰してきたことによつて、地蔵菩薩が忠快を助けようとしていることからも、「三年より以前から信仰していた可能性が高い。」ことは「長年」「何年もの間」がふさわしい。

#### 6 いとど

- いとど（副詞）  
ますます。いつそう。

副詞「いと」との違いに注意したい。「いと」は、程度がはなはだしいさまを表すのに對して、「いとど」は、程度のはなはだしさがいつ進むさまを表す。「いと」は「たいそう」と訳出し、「いとど」は「ますます」と訳出する。二位殿（＝頼朝）は、本文6行目すでに「はらはらと涙を流し」ている。そしてさらに忠快の話を聞いて、「いとど……涙を流し給ふ」のだから、右の語義どおりで文脈が通るので、これを解答とすればよい。

#### 問四 内容説明の問題

##### 傍線部の内容説明の着眼点

- 1 重要古語や語法を踏まえ、傍線部をきちんと現代語訳する。  
2 傍線部で説明すべき事柄として、次の二点を検討する。  
○ 省略されている語句がある時にはそれを補充する。  
○ 指示語がある時には、その指示内容を明らかにする。  
○ 具体化すべき語句がある時には、具体化を図る。  
まず、傍線部の現代語訳を確認する。傍線部3は、単語に分けると、かやうに／威駿／の／おはしまし／ける／御信心／の／ほど／こそ／めでたく／たぶとけれ

となる。

（重要古語）

- かやうなり（形容動詞）  
このようである。

- おはします（動詞）  
いらっしゃる。おありになる。

- ほど（名詞）  
程度。とき。辺り。距離。身分。年齢。

- めでたし（形容詞）  
すばらしい。

- たふとし（形容詞）  
尊い。貴い。

重要語法としては、格助詞「の」に注意する。「威駿」の「の」は直下の「おはしまし」に対する主格、「御信心」の「の」は直下の名詞にかかる連体修飾格である。

また、強意の係助詞「こそ」は、文末の形容詞「たふとし」の已然形「たふとけれ」と呼応して係り結びが完結している。  
見慣れない「威駿」の意味は、「駿」に注目して考える。

- 駿（名詞）  
仮道修行の効果。靈験。

「威駿」は、「おそれ多い靈験。おそるべき靈験」といった意味であると想像できよう。「靈験」とは、【本文解説】でも述べたように、神仏が示す不思議な効驗、ご利益のことを言う。  
以上のこと踏まえて、傍線部3を現代語訳すると、次のようになる。

このようにおそれ多い靈験がおありになつた御信心の程度は、すばら

2 文脈を確認しながら、会話文の始まりを見つける。

傍線部1の直後で語られている「位殿（＝源頼朝）」の体験談とは、設問に「夢の中に現れたものの発言」とあることからも、頼朝の見た夢の話であることがわかる。頼朝の発言は、次のように整理できる。

往にしころ、この靈夢をかうむることありき。

（靈夢（＝示現））

錫杖突きたる貴僧の……あやまりてと仰す

と示現をかうむる。

末代なれども一たふとけれ（＝頼朝の評言）

「夢の中に現れたものの発言」は、右の（靈夢（＝示現））の中に示されているので、この部分を順に検討していく。なお、「夢の中に現れたもの」とは、本文8行目の「貴僧」であり、本文9～10行目に「この御房は地蔵よ」とあることから、この貴僧は地蔵菩薩であることが確認できる。

○ 錫杖突きたる貴僧の……立ち給ひて、

この箇所は、夢の中に現れた僧、つまり地蔵菩薩の外見や行動を語ったものである。

○ 平家門脇中納言の……免し給へかし。

「忠快を許せ」という命令文なので、頼朝に対する命令、依頼と考えられる。よって、ここからが「夢の中に現れたもの＝地蔵菩薩」の発言になる。

○ 年ごろ……不便に覚ゆと仰せられしを、

「と仰せられし（＝とおっしゃつた）」とあるので、その直前の「覚ゆ」までが発言である。これが最初の発言である。

○ 夢の心地に……承り候ひぬと申す

貴僧の依頼を聞いた頼朝は、この貴僧は地蔵菩薩であると理解し、「承り候ひぬ（＝承知いたしました）」と返事をする。発言箇所であるが、発言者は頼朝なので、ここは解答ではない。

○ を聞き給ひ、返す返す本意なりとて、御飾りつくろはせ給ふが、

「とて」は「と言ひて」の意であると考えられるから、夢の中に現れた地蔵菩薩が、頼朝の返事「を聞き給ひ、「返す返す本意なり（＝本当に望みどおりだ）」と（言ひ）て」と解することができる。「返す返す」は、(1)繰り返し、(2)どう考へても、(3)本当に、などの意を表すので、「繰り返し「本意なり」と言つて」と解することもできるが、これでは、「発言箇所はすべて五文字以上」という設問の指示にあわないので、ここは、「本当に望みどおりだ」と言つて」と解釈する。これが二番目の発言である。

○ A の御手の折れ給へるを、……あの御手はいかにと問ひ申せば、地蔵菩薩が負傷していることに気づいた頼朝は、「あの御手はいかに（＝そのお手はどう（なさつたのですか））と問い合わせる。ここも発言箇所であるが、発言者が頼朝なので、解答ではない。

○ 西海の舟にて……あやまりてと仰す

頼朝の問い合わせに地蔵菩薩が答えるのだから、「西海の舟にて」からが地蔵菩薩の発言になると考えられる。末尾は「と仰す（＝とおっしゃる）」とあるので、その直前の「あやまりて」までになる。これが三番目の発言である。

### 問三 語意の問題

語意（記述型）の着眼点

1 古語の基本の意味を確認する。

2 文脈を確認し、それに適合するように訳語を考える。

2 年ごろ

○ 年ごろ（名詞）

長年。何年もの間。ここ数年来。

忠快が地蔵菩薩を深く信仰してきた期間が「年ごろ」である。第三段落

(あつたのだなあ)」と、語り終わりもせずに、(涙に濡れた) 衣の袖を絞つた。二位殿も、ますます(地蔵菩薩への)帰依の(心を起こし)涙をお流しになる。二位殿の方も、簾中においてこれを聞き、拝みなさる。すぐには、仏師をお呼びになり、(地蔵菩薩の)お手を継ぎ申しあげる。

### 【設問別解説】

#### 問一 文法の問題

##### 同形語識別の着眼点

- 各語の接続や活用形などに着目し、識別する。
- 意味の判別が必要な助詞・助動詞は、文脈を検討して識別する。

「せ」の識別に関する問題である。「せ」が一語となるときには、次のようなものがある。

##### (1) サ行変格活用の動詞「す」の未然形

- 「(→を)する」や「(→と)する」などの意を表す自立語である。
- 過去の助動詞「き」の未然形

- 「(→せば……まし」という反実仮想の構文の中でのみ使用される。
- 活用語の連用形に接続する(例外もある)。

##### (3) 尊敬・使役の助動詞「す」の未然形または連用形

- 四段動詞・ナ変動詞・ラ変動詞の未然形に接続する。
- 尊敬を表すか使役を表すかは、

- 直後に尊敬の補助動詞(給ふ・おはしますナド)がない時は、使役と考える。
- 直後に尊敬の補助動詞がある時は、使役の対象が読み取れる場合
- 未然形か連用形かは、直下の語の接続から判断する。

##### a 拝ま／せ／奉り／給へ／ば

波線部aを含む部分を単語に分けると、右のようになる。波線部aは、四段動詞の未然形「拜ま」に接続しているので、助動詞「す」であるとわかる。直下の「奉り」は謙譲の補助動詞であり、尊敬の補助動詞ではないので、意味は使役。また、直後に(補助)動詞がある場合の活用形は連用形である。正解は**エ**。

##### b 御飾り／つくろは／せ／給ふ／が

波線部bを含む部分を単語に分けると、右のようになる。波線部bは、四段動詞の未然形「つくろは」に接続しているので、これも助動詞「す」である。直下には尊敬の補助動詞「給ふ」が付いているので、活用形は連用形。波線部bは、頼朝の言葉を聞いた地蔵菩薩が、「返す返す本意なり」と言つて「御飾り」を「つくろはせ給ふ」という文脈の中にある。地蔵菩薩が誰かに自身の飾りを整えさせたのであれば、「せ」は使役となるが、前後の文脈から、飾りを整えさせる誰か(=使役の対象)を読み取ることはできない。よって、意味は尊敬となる。正解は**力**。

##### c 助け／乗せ／ん／と／せ／し／とき

波線部cを含む部分を単語に分けると、右のようになる。波線部cは、「助け乗せんと」を受け、「(→しようとする)する」の意を表す自立語であるから、サ変動詞の未然形である。よって、正解は**ア**となる。

ちなみに、直下の「し」は過去の助動詞「き」の連体形である。過去の助動詞「き」は、ふつうは連用形接続だが、カ変動詞やサ変動詞に対しても未然形に接続することもある。

#### 問二 会話文を指摘する問題

##### 会話文発見の着眼点

- 会話文の終わりを見つける。
- 会話文末尾の直下には、「と」「とて」「など」があることが多い。

場所（＝西海）や救援者（＝僧）だけでなく、負傷した箇所（＝左手）までが、頼朝の夢の内容と一致している点に着目したい。頼朝の見た夢は、彼が思つたとおり「靈夢」であり、信心のあつい忠快に対する地蔵菩薩の「示現」であったのである。忠快も頼朝も感動の涙を流し、信心をいつそう深めようになつたという。

本文は、源氏方に関する独自の逸話であり、しかも仏教説話のような内容になつてゐる。

### 【全文解釈】

いままさに鎌倉に下り着いて、このように（参りました）と（忠快が）申し入れたところ、「二位殿が、急ぎお目にかかるつてしまつたことは、「まづ（あなたの鎌倉への）御下向をうれしく存じます。ところで、ご本尊に地蔵菩薩を安置していらっしゃるか」とお尋ねになつた。律师（＝忠快）は、「そういうことがござります」と答える。「その本尊は、片手が折れていらっしゃるか」とおつしやると、「お手が折れていらっしゃるとは思われない。長く（厨子に）納め申しあげ、かなり昔から拌み申しあげて、まさにここにお持ちしている」と言つて、錦の御舍利袋から、紫檀で造つて金銀で飾つた厨子を取り出して、御戸を開いて（二位殿に）拝ませ申しあげなさると、右手（手）に黄金の錫杖を突き、左手（手）に如意宝珠をお持ちになつてゐるが、（その左の）手首が折れかかつていらっしゃつた。

二位殿は、これを拌み申しあげ、はらはらと涙を流し、五体を地に投げ額をつけて祈りなさる。因幡守弘基をお呼びになつて、「嚴重殊勝の（＝鑑験のとくにあらたかな）御仏を、拌みなさい」とおつしやつたので、弘基も同じように拌んだところで、二位殿が、（自らの）話としておつしやることには、「以前、この（地蔵菩薩の）夢のお告げを受けることがあつた。錫杖を突いた貴い僧で容貌の美しい僧が、私の枕もとにお立ちになつて、『平家の門脇中納言（＝平教盛）の子息律師忠快と申す者を、この僧（＝地蔵菩薩）に免じてお許しになつてくださいよ。（忠快は）長年深く私（＝地蔵菩薩）になつてお許しになつてくださいよ。（忠快は）

を頼みとしている僧でございます。（このままでは）氣の毒に思われる」とおつしやつたのを、夢心地に、このお坊様は地蔵菩薩だなあとわかつたので、「承知いたしました」と申しあげるのを（地蔵菩薩が）お聞きになり、『本当に（これこそ）望みどおりだ』と言つて、御飾りを整えなさるが、左のお手が折れていらっしゃるのを、じつに痛そうになさるとお見受けしたので、「そのお手はどう（なさつたのですか）」と尋ね申しあげると、「西海の舟において忠快を助け上げ（舟に）乗せようとしたときに、左の手をあやまつて（折つてしまつたのです）」とおつしやると（いう）示現を受ける（ことがありました）。末法の世ではあるけれども、このようにおそれ多い靈験がおありになつた（あなたの）御信心のあしさは、すばらしく尊いことよ」とおつしやると、弘基も感動の涙を流して、「めつたにないほど尊い御ことで（ござります）」と申しあげた。

律師（＝忠快）がおつしやつた」とには、「都を出て三年、宿も定まらない旅があるので、心静かに（地蔵菩薩の）お顔を拌み申しあげる余裕もございません。それゆえ、お手が折れていらっしゃることも、どうして気づき申しあげることができましようか、いや、気づき申しあげることはできません。（二位殿の）二下問を受けておりませんでしたら、どうしてあのよう（腕が折れて）いらっしゃるのだろうかと、じつにいぶかしく思いましたが、（今の二位殿の）御夢に思い当たる節がございます。先帝が（平家の都落ちに同行なさり）大宰府にいらっしゃつたとき、緒方三郎維義が三万騎あまりで攻めて來たため、帝をはじめとし申しあげ、（みな）慌て駆ぎ舟に乗りましたところ、（私が）悪い体勢で乗つて今にも海に落ちてしまいそうでございましたのを、下級の僧がひとり（やつて）来て助け乗せてから、（この）忠快は舟におり、下級の僧は陸に立つて、右手で左の腕を抱えていたので、「それはどうしたのか」と尋ねると、『悪い体勢で（助けに）参つて手を負傷しておりますが、不自由はござりますまい』と申しましたので、『おまえは誰のお供か』と尋ねたけれども、返事を聞くこともなかつた。今の（二位殿の）御夢の内容をお聞きすると、まさしくこれは地蔵菩薩のお助けで

取り、主に源平の興亡を物語ついて、源氏方に関する独自の逸話が多い。また、源平の物語との関連で中国の故事が挿入されたり、仏教思想を基調とする逸話が紹介されたりするなどの、関連記事の増補や、「平家物語」の中では簡略だった逸話が『源平盛衰記』の中では詳細になるなどの、傍系記事の詳述も著しい。このように多くの逸話や故事を集めて源平の盛衰を書き記そうとしている点に、この作品の独自性があると言えよう。文体は、「平家物語」と同じように、和文、漢文訓読文の両要素の混じった和漢混淆文となっている。

出題本文は、『源平盛衰記』(藝林舎)に掲載した。ただし、読解の便をはかつて一部省略し、表記その他については適宜あらためて、問題文としての体裁を整えた。

### 【本文解説】

卷四十六 「南都御幸大仏開眼 附時忠流罪 忠快免さるる事」の一節である。

主な登場人物は、中納言律師忠快と源頼朝である。忠快は、中納言平教盛(平清盛の弟)を父として生まれ、一一七六年に出家し、後に律師(律師は僧正、僧都に次ぐ僧官)に任じられたが、僧籍でありながらも平家の都落(きよじゆう)に同道して壇ノ浦で捕らえられた。『源平盛衰記』においては、その後、配所を飛驒と定められ、檢非違使のもとに預けおかれていたところ、源頼朝から鎌倉に招きたいという書状が届いたとされる。当時、頼朝は、鎌倉の地にあって、幕府の体制を着々と強化していた。その頼朝が、敵方の人間で、流罪に処せられるような忠快を、輿を遣わし招待するということは、普通ならばありえない出来事である。頼朝が豪勢な使いを送つて罪人の忠快を招いたのはなぜか、その理由を読み取ることが本文の読解上のポイントの一つとなる。

第一段落において、頼朝は、まず、忠快が本尊(=信仰の対象として寺院の中央に安置する仏。または、個人が特に信仰する仏)として地蔵菩薩を持

つているかどうかを確認している。地蔵菩薩とは、六道(=生前の行為の結果に応じて、生死を繰り返す六種の迷いの世界)。地獄道・餓鬼道・畜生道・阿修羅道・人間道・天上道)の一切衆生(=この世に生を受けたすべてのもの)の苦を除き、福利を与えることを願とする菩薩で、その地蔵菩薩の像は、右手に黄金の錫杖を持ち、左手に如意宝珠を持っていたという。錫杖は僧侶などが持つ杖であり、如意宝珠は衆生の願いをかなえる珠である。平安時代中期以降、地蔵菩薩は錫杖と宝珠を持つ僧の姿で造形されたが、忠快の持っていた本尊もそのとおりの姿であったことがわかる。ただし、その本尊は左の手首が折れかかっていた。

第二段落において、この本尊の姿を目のあたりにした頼朝は、涙を流し拝礼して、自分が見た「靈夢(=神仏のお告げのある不可思議な夢)」について語る。ある日、頼朝の夢に、錫杖を突いた貴く容貌の美しい僧が現れ、長年にわたって自分を頼りとしている忠快を許してほしいと語りかけた。

当時、神仏は人間の姿を借りて夢の中に現れ、さまざまなお告げを与えると考えされていた。しかも、夢の中に現れたものは僧形で、錫杖を手にしていた。これらのことから、頼朝は、夢に現れたものが地蔵菩薩であると判断し、その依頼を承諾する。さらに、頼朝は、貴い僧(=地蔵菩薩)が左手を痛めているのを見て、その理由を尋ねると、僧は、かつて、西海の舟で忠快を助けようとして傷を負つたと答える。これを聞いた頼朝は、自分が見ている夢は、地蔵菩薩の「示現」であると察した。示現とは、(1)仏や菩薩が衆生救済のために、種々に身を変えてこの世に現れること、(2)神仏が靈験(=神仏が示す不思議な効驗。ご利益)を示し現すことをいう。このような示現を受けたと思ったからこそ、頼朝は忠快を鎌倉に招いたのである。

第三段落において、頼朝の話を聞いた忠快は、「御夢に思ひ合はすることある」と答える。「思ひ合はす」という語は、(1)思い比へる、(2)考え方合わせる、(3)思い当たる、という意を表す。つまり、「頼朝の夢には思い当たる節がある」と言うのである。忠快は、かつて、西海の舟で下級の僧に助けられたことがあり、その僧は助ける際に左手を負傷したのだと言う。救助された

ければ気が済まない思考スタイルの持ち主」が「対話力」が「鍛えられ」ていない人間だということがわかる。「対話力」が「鍛えられ」ていないと、「すぐに白黒つけたがる」ようになるのである。以上から、「人の話を聴くことや人の気づきを待つことができる能力が正當に評価されない状況は、現代の日本社会の『すぐに白黒つけたがる』傾向を助長している」と言える。よって、これが二つの正解である。

【解答】

### 〔古文〕

問一	a 工	b 力	c ア	西海よりて（順不同）
問二	平家ノ覚ゆ	返すなり		
問三	2 長年	6 ますます		
問四	地蔵菩薩が西海で助けてくれたり、罪を許すよう頼朝に求めたりする靈験を示すほどの、中納言律師忠快の信仰心のあつさは、すばらしく尊いということ。（70字）			
問五	4 ア	5 ア		
問六	X ウ	Y イ	Z ウ	
問七	A 左	B 右	C 左	

### 〔出典〕

#### 〔源平盛衰記〕

鎌倉時代末期ごろに成立した軍記物語。作者は未詳。書名は、「げんべいじょうすいき」、または「げんべいせいすいき」と読む。『平家物語』の異本（（もとは同一の書物であるが、世の中に流布している本文に対し、文字や語句、順序などに違いがある本）の一つと位置づけられている。よって、両者には共通点も多いが、相違点も少なからずある。たとえば、十二巻（流布本）から成る『平家物語』は、平家一門の榮華や滅亡を主に物語っているが、四十八巻から成る『源平盛衰記』は、平家方だけでなく源氏方にも材を

イの前半部「官僚の不祥事が起ると官僚全員が悪人であるかのように官僚たたきがなされること」は第二段落に書かれている。また、その原因が「現代日本社会の生活が複雑化した点にもある」というのも、第三段落に書かれている「そのいらだちの源は何かと考えるに、現代人の生活が複雑な要因や関係に絡みつかれ、すぐには見通せない」ということが、背景要因になっているのではないかとおもう」という部分に合致しており、これが

が「一つ目の正解」である。なお、「そのいらだち」とは第三段落の「単純に割りきれないこと」「白黒つけられないこと」の存在が、人びとをひどくいらだたせる」という部分を指したものであり、この「いらだち」のために、直前の第二段落「官僚たたき」が起っていると述べられている。つまり、「現代日本社会の生活が複雑化して人びとの「いらだち」がつたことが、「官僚たたき」の「原因」になっていると言えるのである。

ウの前半部は「異なる文化的背景を持つ人びとのコミュニケーションを円滑にしていくために」となっているが、筆者は第十段落で「白黒で割りきる思考法では、異なる文化的背景をもつ人たちとのコミュニケーションは成り立たない」とし、その後で「白とも黒とも割りきれないグレイゾーンを受け入れ、その淀みをていねいに仕分けていくこと」が「多文化共生社会の礎となる」と述べている。ここで言う「グレイゾーン」の「淀み」を「ていねいに仕分けていく（＝区分していく、分類していく）」こととは、選択肢の後半部にあるような「グレイゾーン」を「ていねいに解明していくこと」ではない。「解説（＝不明な点をはつきりさせること）していく」ことは「すべてを白と黒で割りきり、正しいことと間違ったことを峻別しなければ気が済まない思考スタイル」（第十五段落）に通じるものであり、むしろ、「グレイゾーン」を受け入れたのちに必要なことは「ダイアローグ」で要求されるような、様々な視点を取り入れた柔軟な思考により相手の考え方を受け止めていくような態度である。よって、ウは正解ではない。

エは、「多文化共生」とは外国人との共生にかぎったことではなく」ま

では第十一段落の内容に合致しているが、その後の「むしろ専門家と非専門家のコミュニケーションのほうが『多文化共生』のより大きな課題である」がおかしい。筆者は「外国人との共生」と「専門家と非専門家のコミュニケーション」とを比べてどちらかをより重視しているわけではない。

よって、エは正解ではない。

オは、「すべてを白と黒で割りきり、正誤を峻別しなければ気が済まない思考スタイルの持ち主」に「不都合が生じる」のが「ダイベートする際」だとしている点がおかしい。第十五段落に「すべてを白と黒で割りきり、正しいことと間違ったことを峻別しなければ気が済まない思考スタイルの持ち主は、異なる文化や思想をもつ相手とダイベートはできても、ダイアローグはできないだろう」とある。ここから言えるのは、「すべてを白と黒で割りきり、正誤を峻別しなければ気が済まない思考スタイルの持ち主」に「不都合が生じる」のは、「ダイアローグ」をする際であって、「ダイベートする際」ではないということである。よって、オは正解ではない。

カは、本文の内容に合致している。第十九段落（最後から二つの段落）に「いまの社会の評価制度においては、人の話を聴くこと、人の気づきを待つことは、能力として評価されない」とある。また、最終段落に「聴く」とことと「待つ」ことが正当に評価され、重んじられるようになつたとき、人びとの対話力も鍛えられるとある。これらの箇所から、「人の話を聴くこと、人の気づきを待つことは、能力として評価されない」今日の状況の下では、「人びとの対話力」が「鍛えられ」ない、といふことがわかる。筆者の言う「対話力」とは、「ダイアローグとしての対話をする能力」（第十七段落）のことである。そして、第十五段落には「すべてを白と黒で割りきり、正しいことと間違ったことを峻別しなければ気が済まない思考スタイルの持ち主は、異なる文化や思想をもつ相手とダイベートはできても、ダイアローグはできないだろう」とある。ここから、「すべてを白と黒で割りきり、正しいことと間違ったことを峻別しな

話をするということである。そのような応対を「一言で言つたのが」ということであるが、相手のベースで対話をすることは、相手が自分の好きなように時間を使って話をすることである。よって、以上的内容に最もふさわしいウ「時間をあげる」が正解。

アの「気づきをあたえる」は「人の気づきを待つこと」という内容に反するので、不可。

イ、「話題を」こちらから「しめす」のでは、「人の話を聞くこと」と「人の気づきを待つこと」に反する内容であり、不可。

エの「発言をつながす」も、一応相手の「話を聞くこと」につながりはあるが、「つながす」というのは、「人の気づきを待つこと」に反する内容であり、不可。ア、イ、エはともに相手を「待つ」のではなく、自分から働きかける内容になっている。

オの（他者に）「評価をまかせる」は「人の話を聞くこと」、「人の気づきを待つこと」、「人をもてなすこと」からかけ離れた内容であり、不可。

問三 「ディベートとダイアローグ」の「違い」について九十字以内で説明する問題である。本文の第十四段落～第十六段落で、筆者は平田オリザの言葉を援用しながらその違いを浮かび上がらせている。

まず、ディベートについて。平田の言葉の引用部を見てみると、平田は、ディベートは対話の前後で自分の考えが変わったら「負け」であると言つ。これは裏返すと、自分の主張を貫き、自分の考えを相手に認めさせ、相手の考え方を変えることができたら「勝ち」だということである。つまり、ディベートとは、自分の考え方を決して変えることなく（絶対視し）（＝a）、自分の考え方を相手に認めさせる（＝b）ことをめざす対話だと言える。

一方、ダイアローグについて平田は、対話の前後で自分の考え方や感じ方が変わらねば意味がないと言う。ただし、「ダイアローグを通じて考え方を変える」ということは「無節操に自説を曲げる」ということではない、

と筆者が付け加えていることに注意しよう。それは、「じぶんの考え方を絶対視せず、別の視点・他者の視点からも考える複眼的な柔軟さをもつこと」であり、「物ごとの『両義性（＝相反する二つの意味をもつこと）』をわきまえ、一つの単純な見方に凝り固まらないこと」である。このようなスタイルで対話をすれば、対話相手の視点にも立つて自分の考え方を検討することになるわけであるから、相手の考え方のほうが正しいとして、自分の考え方を変えることになる場合があるのは当然のことであろう。つまり、ダイアローグとは、様々な視点を取り入れた柔軟な思考により（＝c）相手の考え方を受け止め（＝d）、その結果自分の考え方や感じ方に変化が生じる（＝e）ような対話であると言える。

それぞれのポイントを再度まとめておくと

（ディベート）

- a 自分の考え方を決して変えることなく（＝絶対視し）
- b 自分の考え方を相手に認めさせる

⇒

（ダイアローグ）

- c 様々な視点を取り入れた柔軟な思考により
- d 相手の考え方を受け止め
- e その結果自分の考え方や感じ方に変化が生じる

以上の内容を制限字数内でまとめればよい。

問四 本文の内容に合致する選択肢を選ばせる問題である。各選択肢を本文と比較吟味しながら順次見ていく。

アの前半部「近年、日本社会に『すぐに白黒つけたがる』傾向が加速度的に強まつたが」は第一段落に述べられている内容で正しいが、その「結果」として後半部「多様であつた人びとの生き方までもが徐々に画一化されつつある」という部分が誤り。そのような内容は本文に全く書かれていない。よって、アは正解ではない。

「グローバル化の進展」などによって「複雑化した現代社会」では、「正しさ」を「定義」することが難しくなっているということであり、「正しい」と「定義が変化してしまった」ということではない。よって、正解ではない。

ウは、ポイントaのみに終始した内容となつており、ポイントbが踏まえられていないため、正解ではない。

オは、ポイントaの内容が踏まえられておらず、さらに、「たがいの世話を外部の機関に委託する際にかかる費用とサービスの質との釣り合いが取れていらない状況が、年々深刻化している」という部分が、不適当である。第七段落に「公的なサービスには税金を、民間のサービスには料金をきっちり払っている。だから、サービスが劣化したり滞つたりしたとき、そういう機関に『文句を言う』ことしかできなくなっている」とある。これは、「たがいの世話を外部の機関に委託する際にかかる費用とサービスの質との釣り合いが取れていらない」ことがあると言っているだけであり、このような「状況」が「年々深刻化している」とまでは言っていない。よって、正解ではない。

問二 空欄に適當な語句を入れる設問である。この種の問題では空欄の前後の文脈をしっかりと理解することが大事である。

X について。まず X を含む一文を見てみると、「そうした人たちと一緒に暮らしてゆくときに、わたしたちは」とある。文頭の「そうした人たち」とは直前で述べられている外国人労働者たちのことである。では、外国人労働者たちと一緒に暮らしてゆくときに、わたしたちが取り組まねばならない、「難題」とは何か。X の直後で「白黒で割りきる思考法では、異なる文化的背景をもつ人たち（＝外国人労働者たち）とのコミュニケーションは成り立たない」とあることから、「異なる文化的背景をもつ人たちとのコミュニケーション」を成立させることがこの「難題」にあたる。ま

た、それに続く部分には、「白とも黒とも割りきれないグレイゾーンを受け入れ、その淀みをていねいに仕分けていくこと」が、「多文化共生社会の礎となる」とある。この「グレイゾーン」は外国人労働者たちが背景にもつ異文化のことであり、それを、白か黒かの単純な二分法で割りきることなく受け入れ、それぞれを個別にていねいに扱つていくようなことだと見える。以上の内容を踏まえたア「異様なものを異質なまま認め共存してゆく」が正解。

イは、異様性を「さらに際立たせる」という内容が本文中に述べられておらず、不可。異様さが際立つだけでは、「共生」にとつてなんの役にも立たないだろう。

ウは、異様なものに「あえて触れずにそつとしておく」とあるが、必要なのはそれを受け入れていくことだというのが筆者の主張なので、不可。エは、異様なものに「自らができるだけ適合させる（＝自文化を異文化に合わせていく）」とあるが、それを受け入れていく（＝やつてくる異文化を受け入れること）ことは、自らを全面的に相手に合わせることではない。完全に同一化してしまえば、もはや「多文化共生」とも言えないのであり、不可。

オは、異様なものを「教化（＝教え導くこと）」して自らに「同化」させられるのでは、エと同様「多文化共生」とは言えず、また自らを正しいとして「白黒」をつけることになつてしまふので、不可。

Y について。ここでもまた Y を含む一文を見てみると、「それは一言でいえば、（他者に）『Y』」ということだ」とある。ここでの「それ」とは直前の一文にある「聞くこと」と「待つこと」を指しており、それはさらに直前の一文にある「人の話を聞くこと、人の気づきを待つこと」を指す。そして、この「人の話を聞くこと、人の気づきを待つこと」は広義の「ホスピタリティ（人をもてなすこと）」の中核をなす大切な営み」にあたる、と言う。他者と対話するときに、相手の話を耳を傾け、相手の気づきを待つて対話する、それはつまり、相手のペースで対

とは、相手のペースに合わせて対話をすることであり、それは相手に対する心のこもった応対だと言えよう。（第十九段落）

このような「聴く」とことと「待つ」ことが正當に評価され、重んじられる。ある社会になるならば、人びとの「ダイアローグ」としての対話力も鍛えられるであろうし、すぐに正否を判断しがたいような、自他の間の差異に対してもじっくり吟味ができる、豊かな心が育まれてゆくに違いない。（最終段落）

#### 【設問別解説】

問一 「クレーマー」が出現していく背景（Ⅱ原因）について問うた問題である。まず、クレーマーとは「苦情を言う人」という意味であり、傍線部1の直前にあるように「言いきること、決めつけることでスッキリしたい」という願望……をつらせて」人たちの「悪しき典型」である。では、そのような「願望」がどうしてつるつくるのかというと、第五段落冒頭にあるように「そうした社会」に生きているからである。ここで言う「そうした社会」とは、直前の第四段落にある、「複雑化」し、物事を「一口に言いきることが難しく」なった社会を指している。これらのことから、クレーマーが出現していく背景として、複雑化し、物事を一口に言いつけることが難しくなった社会（Ⅱa）の存在を挙げることができる。

「複雑化」し、物事を「一口に言いきることが難しく」なった社会に生きているからこそ、あえてクレームをつけることで、「単純化」「悪いのは○○だ」「原因は○○だ」と言いきつて、「スッキリしたい」のである。

さらに、第七段落末尾で「だから、サービスが劣化したり滞つたりしたとき、そういう機関に『文句を言う』ことしかできなくなっているのだ」とあるが、この「文句」とは「クレーム」のことである。そして、この文章の冒頭には「だから」という直前の内容が原因であることを示す接続語があるため、直前を見てみると「出産の手助けも、傷の手当ても、看護も介護も看取りも、近所とのもめごとの解決も、じぶんたちの手には余る。

一方で、公的なサービスには税金を、民間のサービスには料金をきちっと払っている」とある。この具体例は直前の第六段落の内容を踏まえたものなので、その第六段落を見ると、「複雑化した現代社会」で人びとは「たがいに世話をあう力」を喪失し、「世話をする務め」を「外部のプロや公共サービスに委託するようになった」ことが述べられている。このように、人びとがたがいに世話をあうのではなく、世話を外部のサービス機関に對価（税金や料金）を払って委託するようになると、そのサービス機が不十分だったとき、人びとはそのような機関に「文句を言う」ことしかできなくなる。つまり、クレーマーが多くなるのである。そこで、へんびとがたがいの世話を對価を払つて外部のサービスに頼るようになつた（Ⅱb）ことも、クレーマーが出現していく背景として挙げることができるのである。よつて、この二つのポイントを含むエが正解となる。

アはまず、ポイントbの内容が全く踏まえられていない。また、「現代の日本社会では、社会のシステムが錯綜し大量の情報や意見が流入していくことで、精神の安定が得られなくなっている」とあるが、これではポイントaからもずれた内容である。クレーマーが出現していくのは、あくまでそのような「複雑化した現代社会」が「物事を一口に言いきれなくなつた社会」だからである。よつてアは正解ではない。

イは、ポイントa、ポイントb両方の内容が書かれていらない。また、「単純に割りきれないことへの明確な回答に迫られる」という前半部が不適切である。第五段落に「複雑なものを単純化したい」という欲求……が、どんどんつるつくる」と書かれているが、このような「単純化したい」という「欲求」が「つるつけるからといって、『単純に割りきれないこと』への明確な回答に迫られる」とまでは言えない。さらに、「グローバル化の進展によつて正しさの定義が変化してしまつた」という後半部も不適切である。第四段落に、「グローバル化の進展」などによつて「複雑化した現代社会にあつては、『これはこうするのが正しい』と一口に言いきることが難しくなつてゐる」と書かれている。これは、

民」との間も「異文化」と呼べるほどの大きな隔たりがあると言うのだ。科学技術の進歩により、専門家の知見が一般市民のもつ知識では到底理解不能なまでに高度化・細分化してしまっている。よって、「専門家と非専門家のコミュニケーション」も「多文化共生」の課題の一つだと言えるのである。

#### (第十一段落)

そしてその時、不可欠になるのが「対話」である。ただし、それは「ディベート」ではなく「ダイアローグ」としての対話だと筆者は言う。(第十二段落)

では、ディベートとダイアローグはどう違うのか。筆者は平田オリザの言葉を援用しながらその違いを浮かび上がらせる。平田は、ディベートは対話の前後で自分の考えが変わつては「負け」であると言う。つまり、ディベートとは自分の考えを絶対視し、それを相手に認めさせることをめざす対話だと言えるのである。この平田の言葉を踏まえて筆者は、すべてを白黒で割りきり、正否を峻別しようとする思考スタイルの持ち主は、異文化の人を相手にディベートはできてもダイアローグはできないと言う。一方、ダイアローグについて平田は、対話の前後で自分の考え方や感じ方が変わらねば意味がないと言う。ただし、ここでの「ダイアローグを通じて考え方を変える」ことは「無節操に自説を曲げる」ことではない、と筆者は付け加える。それは、自らの考えを絶対視せず、様々な視点からも考える柔軟さをもつということであり、物ごとの「両義性」(=相反する二つの意味をもつこと)をわきまえ、單一の見方に凝り固まらないということである。つまり、ダイアローグとは様々な視点を取り入れた柔軟な思考により相手の考えを受け止め、その結果自分の考え方や感じ方に変化が生じるような対話だと言える。そして筆によれば、これから多文化共生社会では、このダイアローグとしての対話の力が必須となるのであり、その能力をもつ人こそ、これから時代の「熟成した市民」なのである。(第十三段落・第十七段落)

なお、ディベートとは「あるテーマについて肯定側と否定側とに分かれ行う討論」のことであり、第三者が勝ち負けを判定する場合もある。討論の

最中に肯定側、否定側ともに自らの意見を貫き、相手側の意見を論破しようと/orするものであり、途中で肯定側が否定側に、否定側が肯定側に意見を変更したりすることはない。平田オリザはディベートのこのような面を踏まえて「対話の前と後でじぶんの考えが変わつたら負けだ」と言つたのだと理解することができる。「じぶんの考えが変わ」るとは、相手に論破されたことを意味するからである。この「ディベート」としての「対話」に対して、現実の対話では、他人の意見を受け入れて自分の意見を変更するということが起る。平田オリザは、このように他人の意見を受け入れて自分の意見が変わるように「複眼的な柔軟さ」をもつて行われる対話を、「ダイアローグ(=対話、問答)としての対話」と呼び、「ダイアローグを通じて考えを変える」と言つたのである。

### III 真の対話力を鍛えるために必要なもの (第十八段落～最終段落)

以上のことから確認できるのは、これから多文化共生社会を生きていくには、「白とも黒とも割りきれないグレイゾーン」をまずは「受け入れ」、「その淀みをていねいに仕分けていくこと」、つまり、文化の違いによって正否を峻別しがたいような事柄を、自文化の基準で無理に割りきろうとするのではなく、まずはそのまま受け止め、その違いを様々な視点から見つめて柔軟に捉え、これと共に存していくことが必要であり、それは「ダイアローグ」としての対話によって実現される、ということである。

では、そのような「真の対話力」を鍛えるためには、何をすればよいのだろうか。ここで筆者は「聴く力」と「待つ力」を鍛えることから始めるべきだ、と言う。(第十八段落)

現代社会において、他人の話を聴くこと、他人の気づきを待つことは能力として評価されない。しかし本来、「聴く」ことや「待つ」ことは広い意味でのホスピタリティ(=人をもてなすこと)の中核であり、大切な営みであるはずだ、と筆者は言う。たしかに、相手の話を耳を傾け、相手に気づきが生じるまで待つこと、つまり「(他者に)『時間をあげる』(=Y)」「こ

では複眼的な視点と柔軟な思考力で「異文化」の人たちを受け止めることと、それらの基礎となるダイアローグとしての対話力が必要であり、さらに、そのような対話力を鍛えるためには「聴く」と「待つ」ことが必要である、ということを論じた文章である。以下、本文（二十の形式段落からなる）の内容を大きく三つの部分に分けて見ていく。

## I 現代日本における「すぐに白黒つけたがる」傾向の強まりとその背景

### （第一段落～第七段落）

本文冒頭で筆者は、近年日本社会で「すぐに白黒つけたがる」傾向が強まっていることを指摘する。たとえば、「一部の官僚の不祥事を官僚全員の責任であるかのとく喧伝（＝広く世間に言い伝えること）」する「官僚たたき」のように、物事を「無理やり一色に染め上げたがる」ことなどにその「傾向」が見られる。（第一段落・第二段落）

そして筆者は、いまの日本社会では「単純に割りきれないこと」「白黒つけられないこと」が「人ひとをひどくいらだたせる」と述べた上で、その背景要因として、複雑化した現代社会を挙げる。（第三段落）

生き方の多様化や大量の情報の流入、グローバル化の進展などによって複雑化した現代社会では、物事を「一口に言いかぎりが難しくなって」きており、その反動として物事を「言いかぎり」ことでスッキリしたい」という願望がどんどんついてくる。そして、公的な機関や企業に対する常習的・苦情を訴える「クレーマー」と呼ばれる人たちはそうした願望をつのらせた「悪しき典型」なのである。（第四段落・第五段落）

さらに筆者は、「『すぐに白黒つけたがる』傾向」が強まっていることのもう一つの背景として、現代社会における「たがいに世話をしあう力」の喪失を挙げる。近代以前の社会では、日常生活において問題が生じたとき、人びとはたがいに世話をしあいながら暮らしていた。しかし、現代社会では「世話ををする務め」はほぼすべて外部の機関によるサービスに委託するようになつた。その結果、「安心で快適な生活を享受」できるようになつた反面、「たが

いに世話をしあう力」が現代人からは奪われてしまったのである。このように「たがいに世話をしあう力」を失った現代人は、サービス機関にお金をきちっと払つてするために「サービスが劣化したり滞つたりしたとき」、その機関に「文句を言う」としかできない。つまり現代人は「クレーマー」になりやすい、ということなのである。（第六段落・第七段落）

## II 「多文化共生」の時代に必要なもの（第八段落～第十七段落）

### （第八段落～第十七段落）

以上のように、現代は多くの日本人が「すぐに白黒つけたがる」単純思考に陥つてしまつてゐる時代だからこそ、筆者は「嗜みきれない（＝物事をうまく整理し、処理しきれない）想い」に潜む淀みをなおも見分ける力が必要となつてくると主張する。なぜならば、「今後の日本社会は『多文化共生の社会』にならざるをえないから」である。（第八段落・第九段落）

たとえば、「少子高齢化が急速に進む日本」では外国人労働者の数が年々増加しており、それらの人ひとと一緒に暮らしてゆく際には、当然様々な文化的差異に遭遇することになるため、わたしたちは「異様なものを異質なまま認めて共存してゆく（＝X）」という難題に取り組まねばならない。

そんなときに、物事を「白黒で割りき」ろうとする、つまり物事の正否をすぐには決めようとするとする思考法では、「異なる文化的背景をもつ人たち」との円滑なコミュニケーションはおぼつかないだろう。円滑なコミュニケーションを求めるならば、文化の違いによって正否を峻別しがたいような事柄は、無理に割りきろうとするのではなく、まずはそのまま受け止めたうえで、その違いを様々な視点から見つめて柔軟に捉え、共存していくことが必要になる。つまり、「白とも黒とも割りきれないグレイゾーン」をまずは「受け入れ」、その淀みをいねいに仕分けていくこと」が必要となるのであり、そのことこそが「多文化共生社会の礎（＝土台、基礎）」となるのだ、と筆者は言うのである。（第十段落）

さらに筆者は、このような「多文化共生」とは「外国人との共生」だけに限られることではないと指摘する。現代においては「専門家」と「一般市民

ありますを、「社会自体を正しい方向に導いたとは言えない」というよ

う形で、筆者が否定的に捉えていると見なす根拠は本文にはない。よつて

イは正解とはならない。

ウについて。「二〇世紀後半にはポストモダニズムが全盛となつた」という内容は、本文最後の二つの段落が主に述べていることである。また傍線部3のある段落の前の段落に書かれているように、「資本制自体の変容」が「ポストモダニズム」をもたらしたのだから、「建築が社会の変化の影響を受けるものである」とも言える。「二〇世紀のモダニズム建築も、「資本制内部」から逸脱していた一九世紀ブルジョアジーの建築を「資本制内部」へと参入させるという側面を持っており、近代の資本主義社会の動きと連動しているとも考えられる。こうしたことを踏まえると、今後の社会のありようによって「建築のあり方」も変化する可能性がある。つまり

「建築のあり方」も流動的であると言える。よつてウが正解である。

エについて。「一九世紀のブルジョアジー」の「恣意的な営為」が、「結果的に建築の進歩を遅らせるものとなつた」という因果関係は本文に書かれていない。また「建築の進歩」という話題自体が、本文には書かれていないことである。よつてエは正解とはならない。

オについて。「モダニズムがポストモダニズムにとって代わられたのは、オフィスビルに入る会社を主体に考え、労働者の環境を改善しようとしたこととも関連がある」という、選択肢全体に関わる因果関係が本文には書かれていない。また「モダニズム」は「オフィスビルに入る会社（＝主体）」を固定化させないようにする「ユニバーサル・スペース」という手法を打ち出した。だとすれば「ユニバーサル・スペース」が「オフィスビルに入る会社を主体に（＝中心に）考え」たとは言えない。また「モダニズム」と「労働者の環境」との関係も、本文では明確ではない。したがつて「モダニズム」が、「オフィスビルに入る会社を主体に考え、労働者の環境を改善しようとした」いう説明は正しくない。よつてオも不正解である。

## 二 現代文

### 【解答】

問一 エ

問二 X ア ヨ ウ

問三 デイベートは、自己の考えを絶対視し、相手にそれを認めさせようとするが、ダイアローグは、様々な視点を取り入れた柔軟な思考で相手の意見を受け止め、自らの考えに変化を生じさせようとする。（90字）

問四 イ・カ（順不同）

### 【配点】（40点）

問一 6点 問二 各4点×2 問三 14点 問四 各6点×2

### 【出典】

鷺田清一『パラレルな知性』（晶文社、二〇一二年刊）。なお、作問の都合上省略した箇所がある。

鷺田清一（わしだ・きよかず）は一九四九年京都市生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。大阪大学教授、大阪大学総長などを歴任。哲学・倫理学を専攻。著書に『モードの迷宮』、『聴くことの力』、『ぐずぐず』の理由』、『ちぐはぐな身体』などがある。

### 【本文解説】

本文は、近年の日本社会において、何事にも「すぐに白黒つけたがる」傾向が強まっており、その背景に社会の複雑化と「たがいに世話をしあう力」の喪失があることを指摘したうえで、これからの中文化共生社会の進展に向けて、そのような単純思考は弊害となることを示す。そして、多文化共生社会

オは、「自分の家を持ったとしてもそれは何も生み出さないのではない」という労働者の不安を払拭するためだ」という部分が誤りである。「労働者」自身が、このような「不安」を抱いているとは本文に書かれていない。よってオは正解とはならない。

問五 傍線部を含む段落の次の段落、つまり最後から二つ目の段落（第十四段落）の冒頭に、傍線部の「資本と商品（資産）との境界が曖昧化した」と同様の表現（「両者の境界は極めて曖昧になり」）がある。そこでこの段落に注目すると、「資本自体が一つの商品としての性格を帯びはじめた」「資本そのものが投資活動の主体ではなく客体（商品）となり」という、傍線部と同義と考えられる表現が見つかる。よって傍線部は「主体と客体との境界の曖昧化」と言い換えることができる。すると最終段落冒頭の「主体と客体の混同、転倒」も傍線部と同様の事態を述べていることになる。

こうした傍線部に関する理解を踏まえ、設問文の条件に合うように、「建築に即して」考えていく。

するとまず第十四段落に書かれているように、「資本そのものが投資活動の主体ではなく客体（商品）となる」ときには、「資本の入居しているオフィスビル」が「資本という商品の顔」として登場てくる。「客体（商品）は売れやすい顔を纏つていなくてはならない」ので、「資本」の入居している「オフィスビル」が「売れやすい顔」を纏つた「商品」となるのである（a）。これは「建築」において「資本と商品（資産）との境界が曖昧化した」（傍線部3）状態のことだと言えるので、解答の要素である。

またその際、「資本」が「商品という客体を生産する」（第十三段落）ものだという、それまでの「資本」のあり方についての説明を加えれば、より「資本」と「商品」の「境界」の「曖昧化」を説明できるだろう。そうすれば「資本」という傍線部の表現をそのまま使うのではなく、「資本」

について説明を加えた、よりよい解答にもなる。

また先に、最終段落冒頭の「主体と客体の混同、転倒」も傍線部とは同義の表現だと考えられると述べた。それがオフィスビルだけではなく、「郊外の住宅においても」起きたと最終段落に書かれているので、そこにも注目すべきである。最終段落には「資産価値を持つ住宅」が「資本へと転化し」たと書かれている（b）。「資産」＝「商品・客体」であり、「資本」は「主体」だから、bは、傍線部の表現と近似しているだけでなく、傍線部と同義である「主体と客体の混同、転倒」にも該当する。よつてこれも傍線部の内容を建築に即して述べたこととして、解答に書く必要がある。なお第九段落に「住宅のような建築物」という表現があるので、「住宅」は「建築」に入らない、などと考えてはいけない。

以上大きく分ければa・b二つの内容を字数条件内で書けばよい。

- a 商品を生み出す資本の象徴としてのオフィスビルが商品にもなった  
b 資産であった郊外の住宅が資本にもなった

「オフィスビル」の「デザイン」のことなどを細かく書きすぎてbの内容に触れることができなかつたり、「顔」という比喩表現をそのまま使つたり（解答例の「象徴」は「顔」を言い換えたものである）、ということにならぬよう、簡潔で明快な表現を心がけてほしい。

#### 問六 一つずつ選択肢を見ていく。

Aについて。「資本制という社会制度は、いつどこであれ、どのような存在をも否応なく商品化してしまう」という部分が間違っている。傍線部3の後にあるように、「古典的な資本制のもと」では「資本と商品は対極的な存在」であるので、「資本」が「商品」になることはなかつた。よつてAは不正解である。

イについて。エンゲルスの批判に対し二〇世紀的に対応した「ゾーニング制度」によって土地が資本化したこと、「二〇世紀の庶民生活を豊かなものにした」と言うことは可能かもしれない。だがそつとした現代社会の

すなわち、「ユニバーサル・スペース」が「建築を『挫折』から救出」しうる理由を説明すれば、以下のようになる。

d 個々の主体の欲望に縛られないため

これらを踏まえて、設問が説明を要求している、「理由」と傍線部の「内容」をまとめるとよい。つまり、「ユニバーサル・スペース」の性質であるd・eを説明することで理由を示し、建築を「挫折」(a・b・c)から「救出する」という傍線部の内容を書くのである。

また傍線部の「救出する」という表現を言い換えることも必要である。解答例の「→解消する」という表現はそれに当たる。「→から抜け出させる」などとしてもよい。

問四 傍線部の後に「そのために二〇世紀が用意した処方箋が、都市計画におけるゾーニングという考え方であった」とあるので、傍線部の「もうひとつの方箋」が「ゾーニング」であることは容易にわかるはずである。よってこの設問では、「ゾーニング」がどのような性質の「制度」であるかを適切に説明しているものを選べばよい。

「ゾーニング」は、労働者の「住宅」を「挫折した物質」とすると捉えたエンゲルスに対する「答え」として用意されたものである。この「挫折」とは、【本文解説】一や問三の解説でも確認したように、(住宅が)市場価値を否定され、資本制経済のシステムに参入し得ない状態のことである。エンゲルスは、労働者が自分の住宅を持つても、その「住宅」は市場価値を持たず、利潤を生み出す「資本」にはならないと述べているのである。

これに対して「ゾーニング」は、「その場所で建設できる建物の種別とヴォリューム(容積)とをあらかじめ設定し、制限する法制度である」(第九段落)。そうすれば住宅は一種の資産としての価値を保障される。第十一段落にあるように「郊外の『住居地域』という限定されたゾーンに

のみ住宅の建設を許可し、さらにそのゾーン内での工場やオフィスビルの建設を禁止することによって、住宅の資産価値は守られるのである。

もちろん先にも書いたように、こうした「ゾーニング」は、エンゲルスの住宅が「資本」にならないという批判に直接答えるものではない。しかし二〇世紀は「ゾーニング」によってエンゲルスに答えたと筆者は述べているので、(エンゲルスの批判に対応しようと)して、建造物の棲み分けと容積率の制限によって、建造物の資産価値を担保した、という説明の方が適切である。

こうした観点から選択肢を見ていくと、アが正解として妥当であるとわかる。「労働者の手に入れた住宅が市場における価値を持たない」という事態を回避するために」という部分は、エンゲルスの批判に対して、「ゾーニング」が「市場における価値を持たない」という「挫折」を乗り越えようとしたものであることを示しており、後半部分は「ゾーニング」そのものの説明となっているからである。

イは、「土地を有効な資本として運用できるよう」という部分が間違い。「土地」を「資産」とするのが「ゾーニング」であり、「土地」を「資本」とするのではない。よってイは正解とはならない。

ウは、「ゾーニング」が「エンゲルスに対抗し、持ち家の魅力を高めるために」打ち出された制度だと説明している点がおかしい。このように言うと、「ゾーニング」はエンゲルスの「持ち家政策」批判に真に向から反発し、「持ち家政策」を推進するための制度であつたかのようになってしまふ。確かに結果的に「持ち家」の価値を高めることにはなつたが、「ゾーニング」はエンゲルスに直接答えたものではなく、あくまでも「二〇世紀流の解答」(第九段落)なのである。よってウは正解ではない。

エは、「土地の資本化という思想」という部分が間違い。「ゾーニング制度」は「土地の資本化」という思想を背景としたものである。また土地の「ヴォリューム(容積)」に関する内容が含まれていない点も不十分である。よってエは不可である。

商品との境界」である。「資本と商品との境界」ではない。

ウ「主体と客体の混同」は最終段落にある表現だが、「主体」＝「資本」、「客体」＝「商品」の「混同」があつたからこそ、〔C〕の後に書かれているような「投資」などが行われたのである。よつて「混同」が「消滅したように」「信じ込み」、不動産などに投資する、というのは論理的におかしい。

エ「モダンとポストモダンの差異」は確かに存在するだろう。しかしウと同じように、こうした「差異」が「消滅」する」と、「人々」が「株へ、不動産投資へと走つていった」ということは、結びつく根拠がなく、論理として成立しない。よつてエも正解ではない。

### 問三 設問はまず「建築を『挫折』から救出する」ことの内容説明を求めて

いる。これに答えるためには、第一に「挫折」の内容を明らかにしなければならない。

次に「ユニバーサル・スペース」が「建築を『挫折』から救出」しうる

理由を含めて、と設問文にあるのだから、その理由も明らかにしなければならないわけだが、傍線部全体を見ると、「ユニバーサル・スペースは……处方箋のようなものであつた」と書かれている。つまり、「ユニバーサル・スペース」は、一つの方策・方法として、「建築を『挫折』から救出する」ことのできる性質を有していたことになる。すると、「建築」をその「挫折」から「救出」してくれるどのような性質が「ユニバーサル・スペース」にあるか、ということを本文から読み取る必要がある。

ではまず、傍線部の「挫折」がどのような事態かを確認しよう。

【本文解説】Iで述べたように、「挫折」とはまず「ブルジョアジーの室内」を形容する言葉として本文に登場する。そこは彼らの「夢、趣味、欲望」に「埋めつくされ」、「建築と物（商品）とがべつたりと癒着し」（第四段落）、「資本制内部の物の循環、連鎖から脱落し」（第五段落）でいる。つまり、あまりにもその建築や物は所有者の好みに染まっているた

め、「当人以外の人々」にとってとはいわば「変な物」であり、他の人々の欲望の対象にならず、売り買いの対象から外れているのである。【本文解説】Iで「挫折」＝「市場価値を否定され、資本制経済のシステムに参入し得ない状態」としたのは、こうした内容を言い換えたのだが、傍線部の「ユニバーサル・スペース」を提唱したミースが、批判の対象としたのも「ブルジョアジーの室内」であるから、「ブルジョアジーの室内」に即して、建築の「挫折」の内容を説明すれば、以下のようになる。

- c 市場価値がなく、資本制経済のシステムに参入し得ない
  - a 建築が物（商品）と一体化している
  - b 特定の個人（主体）の趣味や欲望と結びついている

「ユニバーサル・スペース」が、こうした「挫折」から「建築」を「救出する」ということは、それが「建築と物や欲望とが癒着し」、資本制経済のシステムに参入し得ない状態から、「建築」を脱却させることを意味している。そうすれば自由になった建築は、経済システムの中で自らを活躍させることができる。

では「ユニバーサル・スペース」になぜそのようなことが可能なのだろうか。

「ユニバーサル・スペース」は、特定の所有者（＝主体）のために建てられたり、個々の主体が継続的に用いるための空間ではない。それは「基本的に不特定な主体、交換可能な主体への帰属を前提として建設された」（第一段落）ものである（d）。こうした個々の主体の「欲望に屈服」（第四段落）しないあり方は、「挫折」の要素のうち、特にbを乗り越えることを可能にさせる。

また主体と切り離された「ユニバーサル・スペース」は、「完全に均質な空間」であり、「自由に家具（＝物）を配列」（第三段落）できる空間であった（e）。それゆえ「今日はA社のオフィスとして使用されるが、明日はB社のオフィスとして利用されることになる」（第一段落）のだから、「資本制」のシステムの内部に参与しうるようになる。

というような状況も起こりづらくなる。だから住宅地域の住環境は保全される。よつて「ゾーニング制度」は、「見すると」と「環境の保全」と関係する事柄であると言える。しかしイ「環境の保全」は、「ゾーニング制度」が本末目指す、「土地」の「資産化」とは次元の異なる内容なので、文脈上も適切である。よつて正解はイである。

ア「労働者の保護」はどうか。「ゾーニング制度」は、労働者の立場から「持ち家政策」を批判したエンゲルスの考え方に対応して生まれたとされる「二〇世紀流の解答」（第九段落）である。それは労働者の「持ち家」の資産価値を守ることに繋がるのだから、ア「労働者の保護」は、「ゾーニング制度」の目的自体とも言える。よつて「真に目指したことではない」という条件に合わない。

またこのことを、文脈上の表現の仕組みに即して言えば、「土地を資産化」するというBの後の内容が、「労働者の保護」と相通じる内容であるため、「しかし」という逆接の接続語が機能しなくなることを意味する。よつてアは不可である。

ウ「資本制の解体」はどうか。「ゾーニング制度」は、「土地を資産化」するのだから、「資本制」内部に住宅や土地を位置づけようとするものである。とすれば「資本制」を「解体」することは相容れない。「ゾーニング制度」の「目的」と一見考えうるもの、という条件に反するため、ウは正解にはならない。

エ「土地の国有化」は、「ゾーニング制度」が個人の住宅や土地（＝私有物）の価値を守ろうとする「資本制」内での制度であることと矛盾するため、「ゾーニング制度」の「目的」と一見考えうるものにならず、正解とはならない。

オ「地価の抑制」は、「ゾーニング制度」が「土地を資産化し、その資産価値を安定化」（第九段落）させ、「一九二〇年代のニューヨークの「暴落」（第十段落）のような事態を防ぐための制度として整備されたことと相容れない。「ゾーニング制度」は、「地価」を「抑制」する制度ではない。

く、「地価」を安定させる制度だと見えるのである。よつてオは、エと同じ様「ゾーニング制度」の「目的」と一見考えうるものにならないため、不正解である。

Cについて。「人々」は、まるで「C」が「消滅した」かのように、「株へ、不動産投資へと走つていた」と書かれている。それは「人々」が「資本」を「投資」する「資本家」として振る舞つているということである。その「人々」とは、もとをただせば、「ゾーニング制度」によって住宅を「資産」として保障されることになった「労働者」である。ということは「自らが労働者であることを忘れて資本家のよう振る舞つている」ということになる。これはC直前に書かれているように、「エンゲルスの警告」（労働者は住宅を私有したところで資本家のようにはなり得ない）を「無効」とするものである。とするなら、Cにオの「労働者と資本家との分節」（区別）を入れることによって、現代の「人々」のあり方を的確に示すことができるしなおかつ直前に「エンゲルス」の話題が登場している文脈との繋がりを作ることも可能になる。よつて正解はオである。

ア「バブルとその崩壊の記憶」は、Cの前にあるように、「日本」の状況を述べていることと食い違う。本文では一九二〇年代のニューヨークの「バブル」のことだけが述べられているので、日本人がニューヨークの「バブルとその崩壊の記憶」を「もはや消滅したように」「信じ込」むというのはおかしい。最終段落に日本のバブルめいたことが書かれているが、そこでも「バブル」が「崩壊」したことには触れられていない。最終段落の「日本」の状況がいつ頃のことか確定できないのに、日本での「バブル」「崩壊」という知識を前提に設問を解くのは、現代文では基本的にしてはならないことである。

イ「資産と商品との境界」は、最終段落に「資産（商品）」とあり、「資産」は「商品」と同義であるため、もともとこの二つに「境界」はない。よつてイは不可である。読み間違いをしないようにしよう。イは「資産と

d 「突如」は「急に思われる事態が起る様子」という意味。

e 「緩和」は「ゆるめたり、やわらげたりすること」という意味。

問二 □ A は、ベンヤミンがブルジョアジーの「室内」を「挫折した物質」と名付けた」という部分と繋がっている。ブルジョアジーの「室内」、「挫折した物質」においては、「建築も物もすべてが資本制内部の循環、連鎖から脱落し、ただ静かに死を待っている」。そして □ A を含む文脈には「なぜなら」という接続語がある。つまり □ A を含む文脈は、ブルジョアジーの「室内」の建築も物もすべて死を待っている。「なぜなら」当人以外の人々にとって「挫折した物質」は □ A でしかないから」という因果関係を示しているのである。「死を待ついる」とは「無価値になる運命にある」ということであるから、「□ A 」はそこの内容と繋がっていると考えられる。(a)。

また □ A と対応する「挫折した物質」とは、「資本制内部の物の循環、連鎖から脱落」しているものであり、【本文解説】I でも述べたよう

に、「市場価値を否定され、資本制経済のシステムに参入し得ない状態」にあるものである。もっと簡単に言えば、「流通市場と無縁であり、誰もお金を出して買おうとしない、人々の欲望をかき立てないもの」(b) などいうことである。

以上の内容を念頭に置いて解答を考えてみると、エ「気色の悪い(=気持ちが悪い)汚物」が a・b の条件を満たしているものとして最も妥当だと言える。よって正解はエである。表現として言いすぎのよう思えたかもしれないが、「汚物」という表現が、「無価値」という内容(a)だけではなく、「氣色の悪い」という表現とともに、「人々の欲望をかき立てないもの」、ましてや「誰もお金を出して買おうとしない」もの、つまり「資本制内部の物の循環、連鎖」には入り込めないものを示している。よって b の条件も満たすと言える。

ア「想い出に繋がる過去の残骸」を入れると、「想い出」が、「当人以外、

問二 □ A は、ベンヤミンがブルジョアジーの「室内」を「挫折した物質」と名付けた」という部分と繋がっている。ブルジョアジーの「室内」、「挫折した物質」においては、「建築も物もすべてが資本制内部の循環、連鎖から脱落し、ただ静かに死を待っている」。そして □ A を含む文脈には「なぜなら」という接続語がある。つまり □ A を含む文脈は、ブルジョアジーの「室内」の建築も物もすべて死を待っている。「なぜなら」当人以外の人々にとって「挫折した物質」は □ A でしかないから」という因果関係を示しているのである。「死を待ついる」とは「無価値になる運命にある」ということであるから、「□ A 」はそこの内容と繋がっていると考えられる。(a)。

また □ A と対応する「挫折した物質」とは、「資本制内部の物の循環、連鎖から脱落」しているものであり、【本文解説】I でも述べたよう

に、「市場価値を否定され、資本制経済のシステムに参入し得ない状態」にあるものである。もっと簡単に言えば、「流通市場と無縁であり、誰もお金を出して買おうとしない、人々の欲望をかき立てないもの」(b) などいうことである。

以上の内容を念頭に置いて解答を考えてみると、エ「気色の悪い(=気持ちが悪い)汚物」が a・b の条件を満たしているものとして最も妥当だと言える。よって正解はエである。表現として言いすぎのよう思えたかもしれないが、「汚物」という表現が、「無価値」という内容(a)だけではなく、「氣色の悪い」という表現とともに、「人々の欲望をかき立てないもの」、ましてや「誰もお金を出して買おうとしない」もの、つまり「資本制内部の物の循環、連鎖」には入り込めないものを示している。よって b の条件も満たすと言える。

ア「想い出に繋がる過去の残骸」を入れると、「想い出」が、「当人以外、

人々」の「想い出」ということになる。「挫折した物質」は「当人(=ブルジョアジー)」の「趣味」などに染まっているのであって、「当人以外の人々」の「想い出」の対象であるはずはない。よってアは □ A には入らない。

イ「憧れに終わりかねない品々」を入れると、「当人以外の人々」が、たとえ結果的に手に入れられないとしてもその「品々」に「憧れ」することになるから、ブルジョアジーの所持品が人々の欲望の対象として市場に流通する可能性が生じる。よって b の条件に反するので正解にはならない。

ウ「悪徳の生み出した金品」は「悪徳の生み出した」ものであっても「金品」である以上、「無価値になる」とは言い切れないし、ましてや、「当人(=ブルジョアジー)」が「建築」や「物」を「悪徳」によつて手に入れたり悪いことをして入手した、かどうかは判断できないから、□ A に入れる根拠はない。さらに b の条件との関連も不明確である。

よつてウは正解にはならない。

オ「嫉妬と羨望の的」の「羨望(=うらやましく思うこと)」は、イと同様「ブルジョアジー」の所有物を、「当人以外の人々」が欲望の対象としようとすることになるから、b の条件に反する。よつてオも正解にはなり得ない。

□ B には明確な手がかりがないように思えたかも知れない。だが直前の「一見すると」という表現に留意すれば、「ゾーニング制度」が真に目指したことではないが、その「目的」であるかのように見えるもの、が入ることは □ B の前後の文脈からわかるだろう。

では「ゾーニング制度」とはどのような制度であったか。【本文解説】I でも述べたように、「ゾーニング制度」は「建物の種別とウォリューム(=容積)」を決め、「住宅建設可能な地域と、不可能地域とを定め」、住宅の建設を許可する「居住地域」の中には「工場やオフィスビルの建設を禁止する」(第十一段落)という制度である。このような制度を適用すれば、騒音などが抑えられるし、高いビルが建設され日照権が奪われるなど

だが二〇世紀後半以降の資本制のもとでは、「資本」である会社や企業そのものが、「一つの商品としての性格を帯びはじめた」のである。会社や企業の経営状況や所有している技術などに関する情報が社会に流通する「情報化」や、国内の産業を守るために設けられていた「規制」が「緩和」されるなどして、企業間の競争も激化し、国内外を問わず「買収や合併も日常的な事件となつた」。またこの「規制緩和」は、「ゾーニング制度」が揺らぎ、容積率の制限が「緩和」されたことなども含んでいたと考えられる。だから容積率の高い「スカイスクレーパー（＝高層建築）」が次々と建てられるようにならなかったのだろう。

そして「資本（＝主体）」が「客体（商品）」となつたとき、それは当然ながら「売れやす」さを追求せざるを得なくなる。では「資本」はどのようにして自らを「商品」としてアピールしていくべきだらう。容易に考えられるのは、「資本の入居しているオフィスビル」を他と差異化させていくことである。かつて個々の主体の欲望とは切り離された「挫折しない物質」としてのユートラルなデザインのみを要求されていたオフィスビル（＝モダニズム建築）も、逆に「個性的で売れやすい顔、欲望を喚起する顔が必要とされる」ようになる。それは「ユニバーサル・スペース」という空間概念の終焉であり、「ポストモダン・スカイスクレーパー」と呼ばれる、個性的な外装デザインを持つたオフィスビル」が林立する「ポストモダニズム」の時代の到来であった。こうして「資本と商品との境界の曖昧化」と関連する「資本制の変容」が、「ポストモダニズム」を招来させたのである。（第十四段落）

このようにオフィスビルでは「資本（＝主体）」が「客体（＝商品・資産）」に転化するという事態が生じたのであるが、同様の事態と言える「主体と客体の混同、転倒」は、「郊外の住宅」でも起つた。「ゾーニング」によつて「資産（商品＝客体）としての価値を保障」された住宅も、「それを担保として容易に資本（＝主体）へと転化し」、「自ら主体としてマネーベルムへと参加しはじめた」のだ。住宅＝土地の価値が保障されれば、それを担

保に融資を受けることが可能になり、その資金を投資して利益を上げることができる。つまり「郊外の住宅」では、「資産（商品）」がそれ自体で利益を生む「資本」になつたのである。これはオフィスビルとは逆の方向ではあるものの、やはり「主体と客体の混同、転倒（＝資本と資産・商品の境界の曖昧化）」である。

そして「土地神話によってかさ上げされた日本の住宅は、信じられないような大きさの資本へと化けてしまった」。これは二〇世紀末期に起きた日本のバブル経済を念頭に置いて書かれているのかもしれないが、こうした「資本制」の「変容」によって、労働者の住宅は資本とはなりえないという「エンゲルスの警告」は、「完全に」意味を失つてしまつた。自らを資本家であるかのように信じた人々は、「株（＝不動産投資）へと走つていった」。その投資によって資金が市場に供給され、会社や企業が「商品（＝取引や投機の対象）」となる。そうすれば資本が入居するビルは、自らの商品価値を一層高めようとし、個性的な「ポストモダニズム」建築が乱立することになる。「ゾーニング」も揺らいだ都市では、一九二〇年代のニューヨークのことく、いやそれ以上に「数えられないほどの本数のポストモダン・スカイスクレーパー」が生み出されていつたのである。（最終段落）

### 【設問別解説】

問一 a 「利潤」は、経済活動や生産過程で生み出された利益・もうけという意味。

b 「余儀」は他のこと、他の方法という意味。「余儀ない（く）」といふ

いう形で使われることが多く、他に方法がない、やむを得ないという意味になる。

c 「膨（庵・龜）大」はふくれて大きくなること。なお「庵・龜」は間違いではないし、文章では用いられることがあるので解答例に載せておいたが、常用漢字外の字なので、受験において用いるのは適切とは言えない。

はなつていなか。だが「ゾーニング」によつて「その場所の家賃の相場」と「建設可能床面積が決まれば、土地の値段はほとんど自動的に決定可能である」。それは地価と住宅の商品価値を保障することに繋がるのである。こうした「思想」を背景にした「ゾーニング制度」が「エンゲルスの問い合わせに對する、二〇世紀流の解答」であった。それは、「資本家から疎外された労働者のポジション」（第六段落）を根本的に変更するということではなく、「資本制」を前提に、労働者の「土地を資産化し、その資産価値を安定化」させようとするものだつた。「住宅もまた資産たりえる。ゆえに『挫折』しない」という表現は、労働者の住宅が、「資本（＝利潤を生み出す主体）」とはならずとも「資産（＝商品）」となること、市場価値を持ち、資本制経済のシステムに参入しうる」ということである。（第八段落・第九段落）

また「ゾーニング制度」は個人の住宅だけではなく、都市の様々な場面で機能した。容積率制度導入以前、「敷地面積の四分の一以内の部分には、無制限に塔状建築を建てることが可能」であり、「高容積のスカイスクレーパー」が建設された。一九二〇年代のニューヨーク市では、地価は極めて不安定な状態にあり、バブルによつて次々とオフィスビルが建設された結果、膨大な空室が生じ、「資産価値も貨料も」「暴落」した。そうした事態を沈静化させることに、容積率を定める「ゾーニング制度」が貢献したのである。（第十段落）

「郊外」においても、「住宅建設可能な地域と、不可能地域とを定め」、「郊外の『住居地域』という限定されたゾーンにのみ住宅の建設を許可し、さらにそのゾーン内での工場やオフィスビルの建設を禁止することによつて、住宅の資産価値」を守つた。こうした建造物の棲み分けと容積率の制限、つまり「ゾーニング制度」によつて、建造物は「資産としての価値」を「担保」され、「挫折」を回避できると考えられたのである。（第十一段落）

このように、「ユニバーサル・スペース（モダニズム建築）とゾーニング」

は、前者が建築を「物（商品）」から「切斷」（第七段落）することで商品価値を維持しようとした、後者が建築を「資産（＝商品）」と位置づけようとしてこのことで、ともに建築を「挫折」から「救出」しようとした。そしてこの「二本の柱」が二〇世紀の都市を支えた。「しかし、この二本の柱はやがて揺らぎ始めた」。その最大の原因是「資本制自体の変容」である。それは、この二本の柱の前提が「資本制」であつたことの必然的な帰結であるとも言える。前提としている「資本制」が「変容」すれば、この「二本の柱」も「揺ら」がざるを得ない。そして次の時代に現れたのは「ポストモダニズム」という建築様式」であった。（第十二段落）

第十三段落冒頭の「この揺らぎ」は、前段落の「ユニバーサル・スペース（モダニズム建築）とゾーニング」という「二本の柱」が「揺らぎ始めた」という部分の「揺らぎ」を受けている。そして、それを「一言でいえば、資本と商品（資産）との境界が曖昧化した」ことなのだから、この「曖昧化」が、「ユニバーサル・スペース（モダニズム建築）とゾーニング」という二本の柱」の「揺らぎ」となつて具体的に現れたということである。（ここで、「ユニバーサル・スペース（モダニズム建築）とゾーニング」が「住宅」に関するものであることに注意しておこう。）

この「揺らぎ」の「最大の原因」に「資本制自体の変容」があるのである。これは、「資本制自体の変容」によつて「資本と商品（資産）との境界が曖昧化し」、その「曖昧化」が「ユニバーサル・スペース（モダニズム建築）とゾーニング」という「二本の柱」の「揺らぎ」となつて現れた、ということである。では、「資本制自体の変容」は、こうした「曖昧化」や「揺らぎ」を、どのような形でもたらしたのだろうか。

古典的な資本制のもとにあつては、利潤や利益を生み出す「資本」と、「資本」によって生産され売られる「商品」とは「対極的な存在」であつた。これは、「資本」である会社・企業が利潤を生み出すことはあつても、会社・企業自身が売り買いの対象（＝「商品」）としては考えられなかつた

## Ⅱ ポストモダニズムの時代（第十二段落～最終段落）

生み出した。そしてこの空間概念は、「建築を『挫折』（＝市場価値を否定され、資本制経済のシステムに参入し得ない状態）から救出するための処方箋（＝患者に与えるべき薬物の種類などを記した書類。ここでは救出のための方法、という程度の意味）のよつたもの」（第七段落）として機能したのである。

## Ⅰ ゾーニング制度の導入（第六段落～第十一段落）

「ユニバーサル・スペース」は、その性格から言つても「オフィスビル」などを念頭に置いたものでは理解できるだろう。では建築の中でも個人の住宅は近代においてどのようになつていったのであらうか。一九世紀の「ブルジョアジーの室内」は、ベンヤミンによれば「挫折した物質」であったが、マルクスとともに、マルクス主義を構築したドイツの思想家エンゲルスも、「住宅といふ存在自体」が「挫折した物質」であるということを、「別の表現」で述べている。労働者の立場に立つエンゲルスにとっての「挫折した物質」とは、ブルジョアジーの「室内」ではなく、労働者の「住宅」である。そして、労働者の「住宅」が「挫折した物質」であるというのは、「住宅」が「利潤を生み出す」「資本」にはならないということである。つまりエンゲルスは、労働者が自分の「住宅」を私有しても、それは市場に出回つて「利潤」を生み出すような価値を持たない、と述べているのだ。すると、確かに表現は異なるが、エンゲルスの言う「挫折」もベンヤミンが言う「挫折」と同じように、「市場価値を否定され、資本制経済のシステムに参入し得ない状態」を意味すると考えられる。労働者の「持ち家」が市場価値を持たない「挫折した物質」であるがゆえに、エンゲルスは労働者に対する「持ち家政策」に反対を唱え、「資本家から疎外された労働者のポジションには何ら変わりがなく、それどころか住宅を私有した労働者はローンの支払いに追われ、かつての農奴と同様に土地に縛られ、労働を強制されることになる」というのである。なお、ここでの「労働者」とは、「資本を持たず、自らの労働によってのみ利益を得る者」のことであり、それと対照される

「資本家」とは、「資本を所有し、それによつて利益を享受できる者」のことである。（第六段落）

「ユニバーサル・スペース」は建築を「物（商品）と切離す」ことを目指す。これは特定の主体との癒着を断ち、建築（＝オフィスビル）を「マーケット（＝市場）」（第十一段落）へと参入させることを意味した。最後から二つの段落にあるように、「オフィスビル」には「資本（＝主体）」が「入居」する。その「資本（＝主体）」とつかず離れずの関係を維持しながら、「ユニバーサル・スペース」によって構成された「オフィスビル」（＝モダニズム建築）は、不特定の主体を利用してもらい、「マーケット」に参入できるのだ。だから建築は「挫折」（＝市場価値を否定され、資本制経済のシステムに参入し得ない状態）することなく輝き続けることができる。

だが労働者は、他に住む家があるなら別だが、自分の持ち家を誰かに貸すわけにはいかない。「主体（建て主）への帰属が強く」（第十一段落）、「ユニバーサル・スペース」という概念を適用できない労働者の「持ち家」は、このままの状態では利潤を生み出す「資本」にもなることはできず、資本制経済のシステムに参与できない。つまり「挫折」したままである。よつて「ユニバーサル・スペース」という「処方箋」（第七段落）は、建築と主体の欲望との癒着を批判したベンヤミンに対する解答とはなり得ても、労働者の「住宅」問題を指摘した「エンゲルスに対しては答えていない」ことになる。（第七段落）

では、エンゲルスに答えるためにはどうすればよいのだろうか。「そのため二〇世紀が用意した処方箋が、都市計画におけるゾーニングという考え方であつた」。「ゾーニング」とは、「その場所で建設できる建物の種別とヴォリューム（＝容積）とをあらかじめ設定し、制限する法制度」のことである。そうすれば住宅は「一種の資産としての価値を保障される」。もちろんこのようにしても、住宅は「資本」とはならないし、ローンのために労働するという事態から労働者が解放されることもないだろう。そういう意味では「ゾーニング」という「処方箋」は、エンゲルスの批判に直接答えるものと

建築の要請が、「ユニバーサル・スペース」の均質性と合致するのである。

「ユニバーサル・スペース」という空間概念を提唱した「モダニズムの代表的建築家であるミース・ファン・デル・ローチ」が言うところによれば、「ユニバーサル・スペース」は、「どのようにでもなりうる自由なスペースである」、「その空間を利用する主体が、簡単なパーティション（間仕切）を使つて自由に家具を配列することで、その空間のキャラクターやファンクションを自由自在に作りあげていく」ものである。ここには「ユニバーサル・スペース」を使う人間の自由が表現されていると同時に、建築そのものが個々の主体との関係を希薄化する自由を持つことが含意されている。「物（パーティションや家具）は欲望に屈服するが、建築は欲望に屈服してはいけない」というのは、建築が物とは一線を画すものであり、なおかつ会社・企業の主体から自由でなければならない、ということを述べているのである。それは建築家の側から言えば、「建築」自体の自立を意味する。（第三段落・第四段落）

こうした「モダニズム建築」や「ユニバーサル・スペース」は、一九世紀的な建築に対する批判を表明するものでもあった。一九世紀のブルジョアジー（＝富裕な新興市民階級）の「室内」は、彼らの「夢、趣味、欲望」に「埋めつくされ」「建築と物（商品）とがべったりと癒着し」（第四段落）ていた。ちなみにこの表現は、建築が「商品」になつてゐるという意味ではなく、もともと「商品」として流通する「物」が、特定の「主体」（＝ブルジョアジー）の趣味に合致し、彼らの室内に置かれ続け、同様の趣味や傾向を持つ建造物と一体となつてゐるため、建築がそうした「物（商品）」と切り離すことができない事態を指しているのである。

こうした状態の建築や物は、所有者（=主体の趣味や欲望に染まつて）いるため、「当人以外の人々」とつては「氣色の悪い汚物」としか思えず、人々の欲望の対象とならない。「資本制」では、需要と供給のバランスによって、物が生産、消費されていく。多くの人々が手に入れたいと思わないものは、市場に流通することもなく、資本制の経済システムと無縁にならざる

を得ない。一九世紀ブルジョアジーの建築や物は、当人以外の人間にとつては価値がなく、見向きもされないわけだから、「資本制」の外部に位置づけられてしまつ。つまり「資本制内部の物の循環、連鎖から脱落し」てしまうのである。

そしてこうしたブルジョアジーの「室内」のことを、ドイツの批評家「ベンヤミンは『挫折した物質』と名付けた」。この「室内」では、「建築も物もすべてが資本制内部の物の循環、連鎖から脱落」し、市場における価値を付与されない。このことを踏まえて、「挫折」という言葉を定義すれば、（市場価値を否定され、資本制経済のシステムに参入し得ない状態）だと言うことができるだろう。（第五段落）

このように、一九世紀のブルジョアジーの「室内（=建築と物）」とは、所有者（=主体と一体化した存在）であつた。「建築が欲望に対してもじめなどに屈服していた」（第四段落）と言ふのも、建築が特定の人間の趣味の支配下にあることを指している。こうした建築のあり方を批判しようとしたとき、特定の主体と切り離された「ユニバーサル・スペース」という概念が誕生したのである。主体と切り離されることで、建築は「今日はA社のオフィスとして使用されるが、明日はB社のオフィスとして利用されることになる」（第一段落）のだから、「資本制」の機構（=仕組み）の内部にも参与しうる市場価値を持つようになる。もちろん建築家ミースの提唱した「ユニバーサル・スペース」は、賃貸料を多く獲得することを目指したわけではなく、新しい建築のあり方を示したものである。しかし、誰に対しても開かれているがゆえに幅広いニーズに答える空間や、そうした空間を持つ建築は、「資本制」という社会システムを中心とした近代という時代と対応したものだと言えるだろう。

こうして、すべてが「資本制」の枠外に置かれ、「静かに死を待つて」いるだけの、他の人々から見れば「氣色の悪い」ものとされた一九世紀的建築に対する批判は、二〇世紀において、特定の主体に依存した「一九世紀のブルジョアジーの室内」とは対照的な「ユニバーサル・スペース」という概念を

## (国)

## (語)

隈研吾（くま・けんご）は一九五四年神奈川県生まれの建築家。東京大学大学院建築学専攻修了。一九九〇年に隈研吾建築都市設計事務所設立。著書には『10宅論』、『グッドバイ・ポストモダン』、『建築的欲望の終焉』、『反オブジェクト』などがある。

## 二 現代文

### 【解答】

問一 a 利潤 b 余儀 c 膨（麿・鳩）大 d 突如  
e 緩和

問二 A 工 B イ C オ

問三 ユニバーサル・ベースは、個々の主体の欲望に縛られない均質な内部空間を実現するため、建築が様々な物と一体化し特定の主体

の欲望にとらわれ市場価値を持ち得ない状態を解消するということ。  
(90字)

問四 ア

問五 商品を生み出す資本の象徴としてのオフィスビルが商品にもなり、資産であった郊外の住宅が資本にもなった、ということ。  
(90字)

問六 ウ

### 【配点】 (60点)

問一 各2点×5 問二 各3点×3 問三 16点 問四 6点  
問五 12点 問六 7点

### 【出典】

隈研吾『負ける建築』(一〇〇四年 岩波書店刊)の一節。なお問題作成の都合上、一部省略した箇所がある。

### 【本文解説】

本文は、一九世紀から二〇世紀後半までの建築の歴史的変遷をたどった文章であり、「ユニバーサル・ベース」と「ゾーニング制度」として「ポストモダニズム」という三つの事柄を中心として展開されている。よってこの三つの事柄に即して本文を解説し、それらの内容を確認していく。

### I ユニバーサル・ベースという空間概念の誕生（第一段落～第五段落）

「オフィスビル」は、特定の主体＝会社・企業のためにあるのでもないし、主体が継続的に用いるための建築でもない。それは「基本的に不特定な主体、交換可能な主体への帰属を前提として建設された」ものであり、「今日はA社」が、「明日はB社」が利用するかもしれないという、流動性を持つ建築なのである。（第一段落）

こうしたあり方は、「交換可能性、あるいは脱主体性に適合した建築様式」である「モダニズム（＝近代主義、近代的様式）」と対応している。そして「交換可能な主体を対象とする建築に要請される特質とは、ニュートラルな建築表現」であった。「ニュートラル」とは、「個々の主体の恣意的な（＝勝手気ままな）欲望から可能な限り距離をとる」こと、言い換えるならば特定の主体の好みや特定のスタイルに合わせないという意味である。（第一段落）こうした「ニュートラルな建築表現」と対応する「ニュートラルな内部空間」（第二段落）こそが「ユニバーサル・ベース」である。「ユニバーサル・ベース」は、誰もが使用しうる「完全に均質な空間」であった。個々の主体の好みから離れること＝「脱主体」化すること、という「モダニズム」











© Kawaijuku 2014 Printed in Japan

無断転載複写禁止・譲渡禁止

手引(国地公)